

平成23年度
(2011年度)

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる、地域の中軸施設であることも求められています。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してきました。

博物館の教育普及活動は、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことを基本にして推進してまいりました。学校連携事業では、学校団体受入の充実を図るため、対応するボランティア向けの研修の充実を行い、学校団体支援体制の強化を推進し、サービスの向上を図ってきました。また、文化講座及び展示会関連講座は「ゲノムでみるアジアの中の琉球人」を皮切りに総数13回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「ポーポー、チンビンを作ろう」をはじめとする3種の体験学習教室の開催と、学芸員講座、常設展展示解説会、バックヤードツアーをそれぞれ12回、夏休み企画として「博物館学芸員教室」を全8教室開催してまいりました。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様から、博物館をとおして、沖縄の自然や歴史及び伝統文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。そして、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館をめざしていきたいと考えております。

本年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成24年3月

沖縄県立博物館・美術館
館長 白保 台 一

博物館教育普及活動

目次

はじめに

I 博物館活動について ……………	1
1 はじめに	
2 博物館活動（四つの車輪） 調査活動 展示活動 教育普及活動 保存管理	
3 博物館の機能	
4 博物館の施設	
5 博物館教育普及活動の概要	
II 学校連携 ……………	8
1 学校団体受入 先生方へのお願いと確認 受入要項 プログラム例と実施校の実際	
III 体験学習教室 ……………	26
1 博物館体験学習教室実施要項	
2 講師紹介	
3 体験学習教室 活動状況・資料 「チンビン、ポーポーを作ろう」 「昆虫標本を作ろう」 「台所でできる草木染」	
IV 文化講座 ……………	58
1 博物館文化講座実施要項	
2 実施状況	
V 学芸員講座 ……………	72
1 学芸員講座実施要項	
2 実施状況	
VI 展示解説会 ……………	82
1 展示解説会実施要項	
2 実施状況	
VII バックヤードツアー ……………	84
1 バックヤードツアー実施要項	
2 実施状況	

VIII 夏休み！博物館学芸員教室 ……	86
1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項	
2 実施状況	
IX ふれあい体験室 ……………	91
1 ふれあい体験室の概要	
2 体験キットの種類	
3 スタッフの配置状況	
4 利用者状況	
5 その他	
X ボランティア養成事業 ……………	97
1 沖縄県立博物館・美術館 —博物館ボランティア活動実施要項—	
2 博物館ボランティア各種講座・教室一覧	
3 博物館ボランティア対象「学芸員教室」	
4 博物館ボランティアのてびき	
5 ボランティア活動の細則	
6 博物館継続ボランティア登録証交付式	
7 ボランティア活動の様子	
8 ボランティア通信	
XI その他 ……………	126
1 移動展	
2 フリーパス	
3 職場体験・ジョブシャドーイング	
4 教育普及資料貸出	
5 ボランティアによる展示ガイドマニュアル 作成	
6 沖縄県立博物館・美術館 教育力向上支援 業務	
7 企画展関連事業	
8 常設展に関する取り組み	

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化（王朝文化）を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動（四つの車輪）

◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連絡協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」と連携したボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っています。

◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどにいろいろな媒体を通して、県民の知的財産として蓄積されていきます。いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催されます。

◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習を行う講座室等があります。

◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心に行われます。6分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる - 豊かさ、美しさ、平和を求めて -」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができます。

考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統とくらし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

(2) 屋外展示

高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫

がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでいただいでの内覧も可能となっています。

湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

(3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、27種類の体験キットが準備されています。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。(詳細については「IV ふれあい体験室」を参照)



(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料の検索や、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。



(5) 講堂・講座室等

講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212席（車いす2人含む）を収容することができます。

講座室

100名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生150名程度の集会が可能です。

実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40名程度の収容が可能です。

(6) **救護室**

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数1台)

(7) **駐車場**

一般車両140台(身障者用4台含)、バス10台が駐車可能です。

特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。

また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

(8) **コインロッカー**

百円コインが返還される、無料のロッカーが204本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) **バリアフリー**

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の2ヶ国語表示としています。

(10) **環境への配慮**

太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10Kw程度の太陽光発電装置を設置しています。

雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

総合的有害虫管理(IPM)施設 IPM(Integrated Pest Management)

博物館・美術館では、病虫害を管理するために総合的有害虫管理(IPM)を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠

足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取り組みました。

(1) 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施しました。一つは、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

また、前年度に作成、配布した沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に博物館をより有効的に活用していただくための『学校団体見学マニュアル』(A 3二つ折り)を学校対応プログラムの下見・打ち合わせの際に紹介し、活用しました。

二つめに、昨年度「貸出キット作成のための調査研究」を目的とした検証授業実施の協力依頼を受け入れて下さった桜野特別支援学校と鏡が丘特別支援学校浦添分校へ、今年度(平成23年度)は、新たに採用した教育力向上支援業務の担当者2名が出来上がったキットのお披露目を兼ねて訪問しました。貸出用ハンズオン資料「けんぱくキット」を持参し、後日そのうちの一つである「ちむどんどん」を用いて、教師の協力による博学連携の授業を展開しました。また、当山小学校の1学年や特別支援学級にも博学連携の出前授業を実施することができ、平成24年度の更なる活用に向けて各種データを収集することが出来ました。(「けんぱくキット」の詳細については本書後半「XI その他 ―～教育力向上支援事業」を参照)

(2) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、実演、現地研修、回によっては講演後には関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

(3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担いました。

(4) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

(5) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点から分かり易く解説しました。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会としました。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

(7) 夏休み！ 博物館学芸員教室

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催しました。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しています。平成23年度は、新規のボランティアを募集せず、現ボランティアを対象に外部講師や各部門の学芸員の協力を仰ぎ、ボランティアの自主的な活動を促す講座や講習を開催しました。多様化する来館者のニーズに対する、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己啓発、自己学習の場となりました。

(9) その他

フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れています。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができます。30ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

移動展

ふだん当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供しました。今年度は、宮古島で開催しました。

教育普及資料貸出

今年度は、博物館の教育普及資料の「豆腐づくり」に関する資料（石臼や桶、型枠などを2セット）を2件貸出しました。

また、前年度キット制作の際に実験校となっていたいただいた特別支援学校2校に「けんぱくキット」を披露し、更に、キット活用の為の有効性を確認する際には、当山小学校1学年の児童や先生方のご協力を得ることが出来ました。校外活動が容易ではない特別支援学校や小学校低学年などに向けての今後のキットの活躍を期待しています。

(当真 妃奈子)

Ⅱ 学校連携

—学校団体受入—



沖縄県立博物館・美術館利用にあたって ～先生方へのお願いと確認～

博物館教育普及

●博物館を利用して学ぶ

1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

2 学校が利用する場合

(1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は情報センターで行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（文化の杜共同企業体）が館の管理運営を行います。
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

—指定管理者—

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第244条の2）
博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

(2) 博物館下見、打合せ

【下見の前半】情報センター円卓にて

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認

○観覧マナーについて

「**団体見学の皆様へ**」を、先生方で確認して下さい。

「**博物館での見学マナー**」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。

- ③ 学習のねらい（めあて）の確認（なぜ博物館を利用するのか？）
- ④ 学習の展開方法（学習形態等）の確認（体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など）
- ⑤ 筆記の際の支え（採検バッグ・ファイル）や持ち物（水筒・カメラなど）の確認
- ⑥ 博物館への**飲食物持込みは禁止**されています。〈IPMの考え方により〉

*博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。

飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。

遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

—IPM(Integrated Management)—

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減滅させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムであります。

(3)博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

* 授業の導入での活用、 展開で活用、 まとめで活用するのか？

- ・博物館からの情報提供をもとに、学校主体で学習計画案を作成します。
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。
- ・保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
- ・ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。

(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません)

☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。

先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！

—ボランティア員—

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア②展示ガイドボランティア③体験サポートボランティア があります。

博物館ボランティアによる支援

① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、解説ポイントをふまえ、学校側から依頼することができます。ただし、全ての要望には応じられないことをご了承下さい。

*ワークシートの活用について（答え合わせの為に展示ガイドにならないようにお願いします）

③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。

体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います。（教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします。）

【下見の後半】常設展示室、屋外体験実施場にて

・学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。(トイレ, 集合場所, 展示室, 実習室, 講座室, 屋外等)

3 当日の学習プログラムの流れ

☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。

☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい。(欠席分は引く)

(1) オリエンテーション(児童向けのオリエンテーション約20分)=先生とボランティア員とのミーティング

***学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。**

★博物館紹介(映像)―運営担当の職員(指定管理者)が行います。

ア マナーを含めた映像を準備しています。『みゅー爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。

イ 本時の「ねらい」の確認

*事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。

*博物館での約束(マナー)を、児童・生徒といっしょに声に出して読み合わせて確認をします。

ウ ボランティア紹介(当日の対応は指定管理者が行います)

*当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。

*展示室や屋外(民具体験)では(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)の紹介があります。

(2) 博物館において学習活動を展開する

- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して、博物館での学習を支援します。(安心安全な学習環境、主体的な学習を展開)
- ・体験では、実物に触れることで、子どもたちに感動の場を提供します。

(3) 体験学習(観覧体験のサイクル)

- ・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると屋外での体験を先に行うクラスと、館内での観覧学習を先に進めるクラスを設定しています。
- ・**体験資料(用具)や解説場所の関係上、少人数のグループ編成をしていただきます。**

(4) まとめ

- ・一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のホールや屋外の広場でまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

(5) 博物館における学習活動を、次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、分かったこと疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。 **発展★生徒用フリーパス**の活用を呼び掛けて下さい
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。
 - *博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

4 学習プログラムの組み立てについて

学習プログラム・・・学校が団体に博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状態の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、学習プログラムの作成のために実施します。

5 ワークシートについて

(1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう！

*本時のねらいは？ ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか？

*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます

- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。
- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気に入ったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15~30分前後かかります。
- (4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中するため、博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話聞くことが大切です。

*当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。



『アム』と『みゅー爺』

平成 23 年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受入要項

1 ねらい

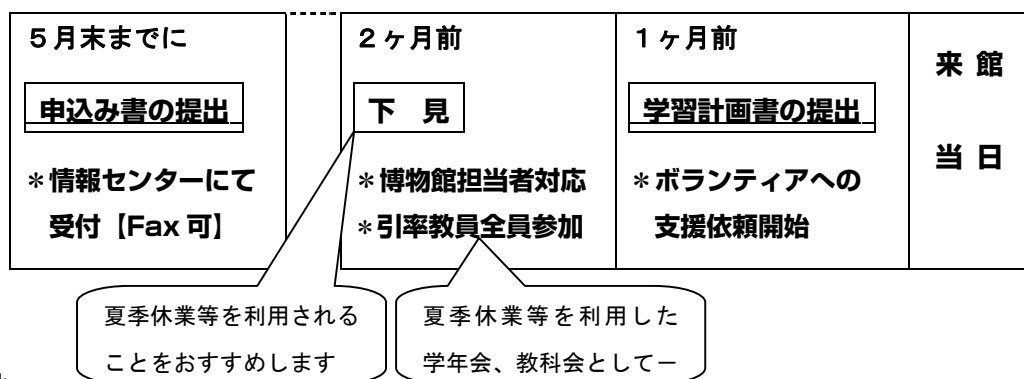
- ・博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ・博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- ・博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

2 対象・受入内容等

	対 象	学習領域	受 入 内 容 *具体的内容については、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	県内小・中・高等学校 特別支援諸学校 (各学年)	各教科の学習や総合的な学習の時間など	・展示資料を、郷土について知るための教材として活用し、博物館を沖縄を知るための教室として利用してもらう。	A 自由見学 下見打合せ・無 B ボランティアサポート 下見打合せ・有 C 夏休み課題学習 下見打合せ・有
2	県内小学校 (3・4年)	社会科「昔の道具を体験しよう」など	・民具体験学習 (博物館収蔵の民具を活用した体験学習をおこなう)	ボランティアサポート 下見打合せ・有
3	県内の教職員(全校種)	校内研修など	・博物館利用解説 や バックヤードツアー等	下見打合せ・有

3 方 法

- ① 申込みは、別紙所定の用紙 (申込書) にて、沖縄県立博物館・美術館に申込み。* 情報センターで受付
- ② 利用団体の利用計画申込み (申込書の提出) は、5月末までの申請とする。
* 希望日が集中した場合は、情報センターにおいて受入の日程を調整する。
- ③ 2ヶ月前までには、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 * 博物館担当学芸員が対応
- ④ 1カ月前までには、学習計画書を提出する。 * **自由見学の場合、下見実施と学習計画書提出は必要ありません**



4 そ の 他

- ① **団体受付** (沖縄県立博物館・美術館内) <情報センター> Tel 098-941-1187
Fax 098-941-3530
- ② 情報センターに「団体受付申込書」を提出後、博物館の担当職員との日程調整が必要です。
- ③ 下見 (2カ月前) 実施時間帯 = 9:00~17:00 まで

問合せ先 〒900 - 0006 那覇市おもろまち 3-1-1 沖縄県立博物館・美術館
 [博物館班] 教育普及担当 池原・宮平(妃)
 Tel 098-851-5401 Fax 098-941-3650

(来館による下見・打ち合わせの為の日程調整用)

FAX送信票

平成 23年 月 日() 送信枚数(送信票含む) 1 枚

【 】小学校 【 】先生へ

県立博物館・美術館 博物館より

“博物館を利用した学習”[*学習プログラム]希望校 へのお知らせです。

*民具体験 ボランティアによる見学サポートを希望された学校

☆学習プログラムを希望した学校は、博物館での下見が必要です

- 1 “団体受付申込書”の[学習プログラムについて]②に示してあります。⇒再度ご参照ください。
- 2 下見時には、当日引率する先生全員の参加をお願いします。⇒情報の共有のため

☆下見の日時を決定します

- 1 下見はおよそ2時間。先着順となります。⇒⇒⇒ 早めの連絡をお願いします。
- 2 下見希望日＝【 】月【 】日(曜日)【()時()～()時()】
第2希望 ＝【 】月【 】日(曜日)【()時()～()時()】
*火曜日から金曜日の、9:00～12:00 と 13:00～16:00 の時間帯対応となります。

☆授業のめあては確認できていますでしょうか？

- 1 下見時に、“学習のめあて”などをお聞きします。ご準備をお願い致します。

☆FAXもしくは電話で、お急ぎご返答下さい。⇒⇒⇒

問合せ：沖縄県立博物館・美術館

担当：博物館教育普及 池原、宮平(妃)

電話：098-851-5401

F A X：098-941-3650

(プログラム実施直前の最終確認<教師用>)

県立博物館・美術館 博物館より「民具体験学習」直前のお知らせ

H23年度

◎「民具体験学習」で来館される学校への直前の確認です。

☆子どもたちと「博物館での見学マナー」の確認をしていただけましたでしょうか？☆

【持ち物】

体験バック、水筒、筆記用具(えんぴつ等)⇒お弁当は、必ずバスに。徒歩の場合のみ、実習室保管。
(水筒は、館内では指定の場所に置いていただきます。)

【名札の準備】

ボランティアの方が声をかけられるように名札の準備があれば助かります。(ガムテープ可)

【保護者の参加】

参加可能な方がいらっしゃいましたらご連絡ください。その際には、申請書の準備もお願いします。

【服装】

民具体験で活動するのに適した服装(スポンをはく、髪は結ぶ等)をお願いします。

【班編成】

班分けは、お済みでしょうか？

※外の民具体験(選択した民具体験の内容に合わせて)、館内での解説(2グループ)。

※グループで<C:民具体験>を回る順番を確認しておいていただけますと助かります。

【支援の必要な子は？】

注意や支援の必要な子、具合が悪い子等いましたら、当日朝のミーティング時に情報の共有ができましたら幸いです。

【雨天時(天候不良)の対応】

天候不良の場合、事前に連絡を取り合い、プログラムの変更等を検討していきましょう。

入館して先生が行うこと！！

- 保護者参加の場合、人数を減免申請書(別紙)に記入して、当日、総合案内に提出してください。
※申請書の印鑑の欄は、担任のサインでもかまいません。
- 人数分のチケットを「チケットうりば」にて受取ってください
- フリーパスは、来館前に集めておき、「総合案内」に預けて、帰る時に受取ってください。
- 荷物(水筒)は、入館の際に一か所にまとめておいていただきます。
- オリエンテーションの前にトイレは済ませてください。

博物館教育普及より

○小学校3・4年生社会科「昔の道具を体験しよう」「きょうどしりょう館をたずねて」

- ・地域に残る古い道具について～知る・ふれる(感じる)・考える・調べる
- ・昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化)～考える、調べる

*児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる
～引率の先生が(博物館で)行う授業です!

★博物館が提供できるメニュー

A:映像の視聴＝「琉球の風物」(日本民藝館制作。昭和14年頃的那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

*72年前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

*先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行ないます。

*博物館利用の加工料と合わせて **20分**で可能

B:民具解説(民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

C:民具体験

*およそ30分で3種、45分で5種の体験が可能。基本ペアで活動。グループでロテーションで体験する

1) 運搬に関する道具＝ バーキ↓

(魚や作物の

運搬等で使用)



ガンシナ↓



ティール↓



2) 運搬に関する道具＝ オーダー↓

(薪の運搬等で使用)



担ぎ棒→

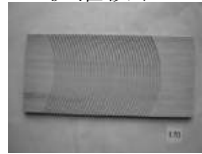
3) 運搬に関する道具＝ ターグ→

(井戸水の運搬で使用)

4) 洗濯に関する道具＝ 洗濯タライ↓



洗濯板↓



5) 着衣に関する道具＝ アダン葉サバ↓

(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓



D:「①黒砂糖づくり」と「②貢納布づくり」のミニチュア模型を使い、昔の民具の使われ方を解説します

*一か所およそ7分×2か所＋移動＝15分

E:民俗展示室での展示品解説 ①畑の道具②田んぼの道具③海の道具④台所周辺道具 →2か所選択

*一か所およそ7分×2か所＋移動＝15分

社会科 博物館を利用した学習（案）

立 小学校 学年 児童 名（クラス）

2011/ / () 引率 名(教師 名・ヘルパー 名・保母者 名) 児童 名
 時 分 ～ 時 分 オリエンテーション: 画像解説:博物館講座室にて
 ① 民具解説:博物館実習室にて
 ② 民具体験:屋外(民家周辺)
 ③ 模型解説:総合展示場
 ④ 展示物解説:民俗部門展示室

1 単元名

2 単元目標

①

②

3 本時の指導目標

4 目標行動(本時のねらい)

5 博物館学習のポイント

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

6 観覧の展開(例)

時	内容	教師	博物館	児童生徒
	オリエンテーション(講堂にて)			トイレをすませ入室
6	マナー&施設案内映像放映	児童着席指示 ※児童映像視聴時に担任と誘導ボランティア員の履合せ	職員あいさつ 観覧等確認	施設利用の学習
20	本時の目標の確認		博物館学習の目標	めあての確認
	ボランティア紹介(誘導係)	学級担任のリード	誘導ボランティア紹介(誘導ボランティアは、担任と連携した動きを行う)	出発準備
	【学級別観覧】			
	1組	授業の進行(ボランティアを活用した授業展開)	・オリエンテーション、映像、民具解説は文化の杜が行う。	【民具体験学習】 ・体験(ふれる) ・聴講(知る・考える)
	2組		・観覧順序に合わせ	
	3組		て誘導(誘導ボランティアは、タイムキーパー)	・観覧(調べる)
	4組		・模型解説、展示物解説はボランティアが行う(教師の進行に合わせてガイド、質問への回答)	・メモ(記録)
	選定する民具体験	ワークシートの有無(学習内容に合わせてワークシートの準備)・博物館学習ノート参照		※教師やガイドに従ってすみやかに
	□1)運搬に関する道具(魚など)			
	□2)運搬に関する道具(薪など)			
	□3)運搬に関する道具(水)			
	□4)洗濯に関する道具			
	□5)着衣に関する道具(畑仕事)			
	ボランティアの配置			
	A画像解説	文化の杜対応		
	B民具解説	(名)		
	C民具体験(上記4種)	(名)		
	D賞納布解説	(名)		
	Dサーターヤー解説	(名)		
	E展示物解説(主に民家・委香する生活)	(名)		
	☆誘導ボランティア			
	まとめ:感想・お礼の挨拶(全体)	・司会進行(学校対応)		・整列 ・あいさつ

(立 小) 学校 名	クラス		本日の参加団体名		時間	人数
	月 日 () : ~ :	教師ヘルパ 名	名	名	名	名
9時	10時	11時	0	15	30	45
30	45	0	15	30	45	
1組						
2組						
3組						
4組						

☆: 誘導ボランティア ……計 (名)

1組	/	2組	/	3組	/
4組	/				

A: 主催解説 文化の杜 () B: 民具解説 文化の杜 ()

C: 民具体験サポート ……計 (名) ……各クラス、グループに分かれ、分で交代します。

1) 運搬に関する道具 = パーキ、ガンジナ、ティール	
2) 運搬に関する道具 = オーダー、かつぎ棒	
3) 運搬に関する道具 = ターグ、かつぎ棒	
4) 洗濯に関する道具 = 洗濯板、タレー (たらい)	
5) 着衣に関する道具 = カバガサ、クハナス、アガサ、サバ	

E: 展示物解説 ……計 (名) ※7分を2つに分け、0-7分が2か所を回る 7分で交代

【解説内容】

◎
◎

★ 確認事項
① ワークシート ⇒

② 持ち物 ⇒

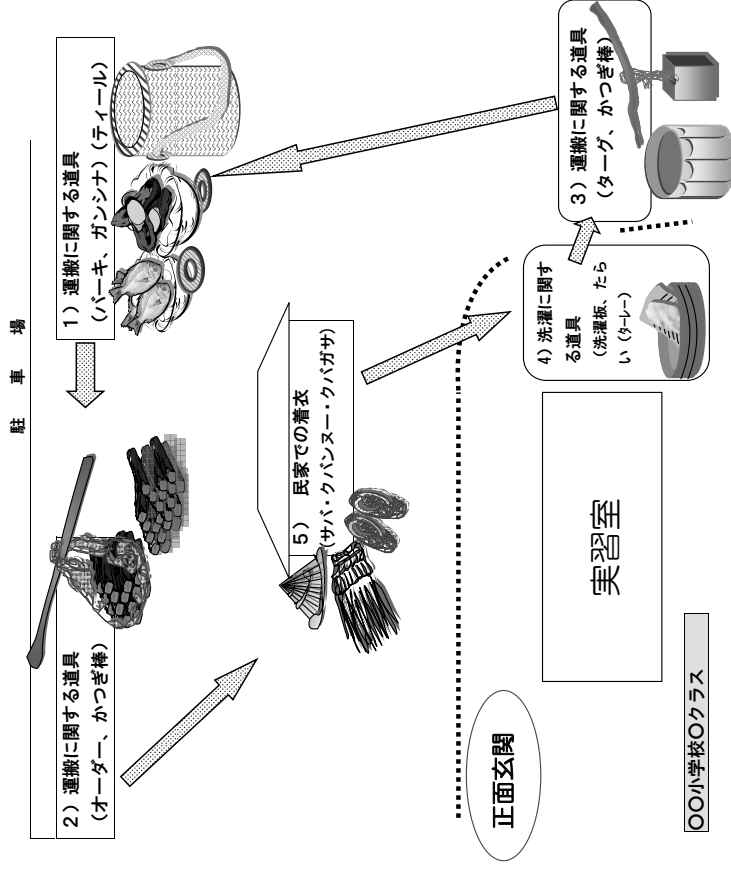
③ 名札の準備 ⇒

④ 支援の必要な児童の有無 ⇒

⑤ 来館方法 ⇒

⑥ その他 ⇒

[C: 民具体験配置図]



〇〇小学校〇クラス
スタートは・・・

〇つのグループに分かれ、各コーナー△分間の体験。合図で移動。

(例)

流れ ⇒ ……5) 着衣 (カガサ、クハナス、アガサ) ⇒ 4) 洗濯 (洗濯板、タレー) ⇒ ……

■ 1クラスの組合せ例

時	9時		10時			11時					
分	40		0	15		55	5		25	30	
組	1組	オリエンテーション + A映像の視聴 (博物館講座室)	B 民具解説	C:民具体験 1. 2. 5. 3. 4			水分補給・ トイレ休	E 展示物解説	まとめ お礼	実習室	

■ 1クラスのまとめ

- ・1クラスの学校の場合は、人数が少ないため子ども達の行動に集中でき、解説・体験が行いやすい。
- ・1クラスの人数が多い場合は、1クラスを2つのグループに分けると(2クラスの状態)動きやすい。

■ 2クラスのまとめ

- ・2クラスの学校は、解説と民具体験をクラスごとに交代して行えるので、移動や体験に余裕があり、急な計画変更があった際にも対応することが可能である。

■ 3クラスのまとめ

- ・Cの民具体験で、時間の重なりがないプログラムだと、2つ以上の民具体験を、余裕を持って行うことが出来る。
- ・民俗展示室内での解説で、*待機型の解説ボランティアを取り入れた。将来的には理想的なプログラムであるが、ボランティアの中には(待つことに)不安と不満を持つ人もいた。経験を重ねるうちに対応できるように思う。

*待機型の解説ボランティア=子ども達に対しボランティア側からのまとまった解説を行うのではなく、展示室に待機し、調べ学習をしている子ども達の質問に対応した支援行う。

■ 4クラスのまとめ

- ・4クラスの場合は、民具体験時の時間の重なりによって、体験できる民具の数は少なくなり、体験を充実させたい学校にとっては不向きな場合が多い。
- ・児童数が多いので、移動や解説に時間がかかり、学校との連携がしっかりと取れていないと、学習がスムーズに行えない場合がある。
- ・クラスが多くなるとボランティアスタッフの人数が増えるため支援員の配置に苦慮する。
- ・現在の状況でも学習を行えないことはないが、学年を分けて、日時をずらして来館してもらう。または、館内学習メニューを少なくし、ゆとりを持たせるとスムーズな民具体験学習が行えると思う。

下見打合せの際、学校側への十分な説明と理解協力を求める必要がある。



■ 2クラスの組合せ例

時		9時		10時		11時							
分		30	50 55			40 45	0 5 20 30 35						
組	1組	オリエンテーション +A画像解説 (実習室)	移動	C: 民具体験 1)、2)、3)、4)、5)			水分補給	B 民具解説	移動	E 展示物解説	〇〇 タイム	移動	まとめ お礼
	2組		移動	B 民具解説	移動	E 展示物解説	〇〇 タイム	移動	C: 民具体験 1)、2)、3)、4)、5)			水分補給	実習室

時		9時		10時		11時						
分		30	50	0	20 25	40	10 20					
組	①	オリエンテーション +A画像解説 (博物館講座室)	移動	C: 民具体験			水分・移動	B 民具解説	移動	E 展示物解説	移動	まとめ お礼
	②			① 1 → 3	E 展示物解説	B 民具解説						
	①			② 4 → 5								
	②			B 民具解説	E 展示物解説	移動		C: 民具体験		水分・移動		
①	E 展示物解説	B 民具解説	移動	① 1 → 3	移動							
②	E 展示物解説	B 民具解説	移動	② 4 → 5								

時		9時		10時		11時								
分		30	50	0	15 30 40 45	0	15 30 45							
組	①	オリエンテーション +A画像解説 (美術館講座室)	移動	B 民具解説	移動	C: 民具体験 1)、4)、5)を ローテーション			水分補給	ふり返り タイム	移動	E 展示物解説	まとめ お礼	自由 観覧
	②					ふり返り タイム	E 展示物解説	ふり返り タイム						
	①					E 展示物解説	B 民具解説	移動		C: 民具体験		水分補給		
	②					E 展示物解説	B 民具解説	移動		1)、4)、5)を ローテーション				

時		9時		10時		11時								
分		30	50	0	35 40	0 5 20 30								
組	①	オリエンテーション +A画像解説 (美術館講座室)	移動	C: 民具体験 1)、2)、3)、4)、5)			水分補給	B 民具解説	移動	E 展示物解説	移動	ふり返り タイム	まとめ お礼	自由 観覧
	②			E 展示物解説	B 民具解説	移動		E 展示物解説		B 民具解説		ふり返り タイム		
	①			B 民具解説	E 展示物解説	移動		ふり返り タイム		移動		C: 民具体験 1)、2)、3)、4)、5)		
	②			E 展示物解説	B 民具解説	移動		トイレ・メモ						

■ 3クラスの組合せ例

時	9時			10時			11時					
分	30	50	55	20	25	40	45	0	20	25	35	
1組	オリエンテーション A映像の視聴 (実習室)	移動	C:民具体験 1, 5, 3	水() 移動	B 民具解説	移動	心の返り タイム トイレ休	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	まとめ お礼 (実習室)
2組	オリエンテーション A映像の視聴 (実習室)	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	C:民具体験 1, 5, 3	水() 移動	B 民具解説	移動	心の返り タイム トイレ休	移動	まとめ お礼 (実習室)
3組	オリエンテーション A映像の視聴 (実習室)	移動	B 民具解説	移動	心の返り タイム トイレ休	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	C:民具体験 1, 5, 3	水() 移動	まとめ お礼 (実習室)

時	9時			10時			11時				
分	30	55	15	35	0	25	35				
組	オリエンテーション +A映像の視聴 (実習室)	移動	B 民具解説	移動	心の返り タイム トイレ休憩	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	C:民具体験 1, 3, 5	まとめ お礼 実習室
			E 展示物解説	〇〇タイム	移動	C:民具体験 1, 3, 5	水() 移動	B 民具解説	移動	心の返り タイム トイレ休憩	
			C:民具体験 1, 3, 5	水() 移動	B 民具解説	移動	心の返り タイム トイレ休憩	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	

時	9時			10時			11時					
分	30	50	0	30	0	30						
組	オリエンテーション +A映像の視聴 (博物館講座室)	移動	C:民具体験			水() 移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	B 民具解説	移動	まとめ お礼 実習室
			① 1 → 3 ② 4 → 5	B 民具解説	移動	① 1 → 3 ② 4 → 5	C:民具体験	水() 移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	
			E 展示物解説	〇〇タイム	移動	B 民具解説	移動	① 1 → 3 ② 4 → 5	C:民具体験	水() 移動		

時	9時			10時			11時					
分	30	50	0	30	0	30						
組	オリエンテーション +A映像の視聴 (博物館講座室)	移動	C:民具体験			水() 移動	B 民具解説	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	まとめ お礼 実習室
			① 1 → 5 → 4 → 3 ② 5 → 1 → 3 → 4	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	① 1 → 5 → 4 → 3 ② 5 → 1 → 3 → 4	C:民具体験	水() 移動	B 民具解説	移動	
			B 民具解説	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	① 1 → 5 → 4 → 3 ② 5 → 1 → 3 → 4	C:民具体験	水() 移動		

■ 4クラスの組合せ例

時	9時				10時				11時							
分	30		50	55			25	30	40	45		0	5		25	30
1組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動		B 民具解説	移動	ふり返り タイム トイレ休	移動	E 展示物解説	移動	まとめ お礼 (実習室)		
分	30		50	55	5	10			40	45		5	10		25	30
2組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動	ふり返り タイム トイレ休	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動		E 展示物解説	移動	B 民具解説	移動	まとめ お礼 (実習室)		
分	30		50	55	10	15			35	40		10	15		25	30
3組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動		B 民具解説	移動		E 展示物解説	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動	ふり返り タイム トイレ休	移動	まとめ お礼 (実習室)	
分	30		50	55		15	20		35	40	50	55			25	30
4組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動		E 展示物解説	移動		B 民具解説	移動	ふり返り タイム トイレ休	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動	まとめ お礼 (実習室)	

時	9時				10時				11時							
分	30		50	55			20	25	40	45		0		20	25	35
1組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動		E 展示物解説	○ ○タイム	移動		B 民具解説	移動	ふり返り タイム トイレ休	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動	まとめ お礼 (実習室)
分	30		50	55		15	20		45	50		5	10	20	25	35
2組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動	ふり返り タイム トイレ休	移動		B 民具解説	移動		E 展示物解説	○ ○タイム	移動	まとめ お礼 (実習室)
分	30		50	55	10	15	25	30		50	55			20	25	35
3組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動		B 民具解説	移動		E 展示物解説	○ ○タイム	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動	ふり返り タイム トイレ休	移動	まとめ お礼 (実習室)
分	30		50	55	10	15	25	30		50	55			20	25	35
4組	A映像の視聴 (実習室)	オリエンテーション + シヨ	移動	ふり返り タイム トイレ休	移動		C:民具体験 ① 1 → 4 ② 3 → 5	水() 移動		E 展示物解説	○ ○タイム	移動		B 民具解説	移動	まとめ お礼 (実習室)

○博物館での民具体験学習 <当日の様子>

■朝のミーティング 9:00~9:30 子どもたちのオリエンテーション開始までに行います
ボランティアのミーティング



進行は文化の杜担当者 ↑全体確認

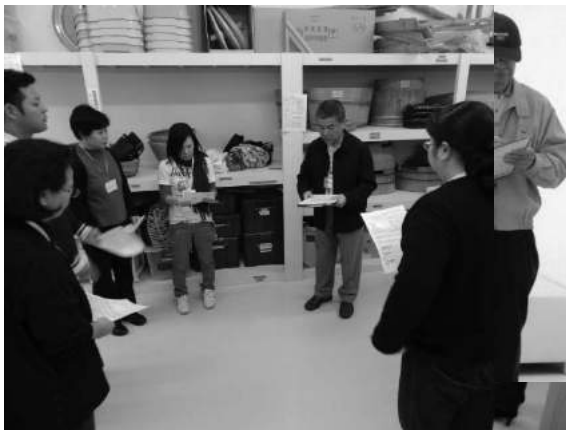


パートごとのミーティング ↑Cの様子



↑誘導ボランティアのミーティング

先生とのミーティング 9:30~(15分間) 子どもたちのオリエンテーション時に行います



進行は教育普及担当学芸員 ↑全体確認



↑先生からの挨拶



担任と誘導ボランティアのミーティング

○博物館では4種類(A~E)の民具体験学習メニューを準備しています ※Dは中止

A 映像解説



72年前の沖縄の生活の様子を観る

B 民具解説



民具の種類や素材から 先人のワザを感じ取る

○屋外での民具体験メニューでは、6種類〈5か所〉を準備しています

〈名前や使用方法を覚えるのが目的ではなく、直接民具にふれる体験を通して～感じる・発見する・考えるようにする、場の提供を行っています。ボランティアさんによる支援で進行します〉

C 民具体験 〈バーク〉



C 民具体験 〈テイル〉



C 民具体験 〈オ-ダ-〉



C 民具体験 〈タ-ク〉



C 民具体験 〈洗濯:ターレと板〉



C 民具体験 〈着衣:バガサ, ハンヌ-, サバ〉



○館内での民具体験メニューは、1種類〈E〉の解説を準備しています

E 展示物解説（台所周辺道具の解説）



今と昔の生活の変化を学ぶ

E 展示物解説（展示資料を見ながらの質疑）



民具の種類や形状から地域性や変容を感じ取る

○まとめ・お礼（実習室・外広場にて）



ボランティア全員が整列した閉会式の様子。ボランティア員にとって、子ども達からの声がとても嬉しいようです。



○その他、時間にゆとりがある際の「〇〇タイム」には・・・



プログラム時間の調整で出来る「〇〇タイム」は、教師の主導で、ふれあい体験室や、総合展示室を廻ることも可能です。

平成23年度 県内学校団体受入れ一覧〔学習プログラム作成対応校〕

H23. 3. 22. 現在

	日付	曜日	時間	集合	学校名	学年	クラス	生徒人数
1	4月28日	木	9:30~11:30	9:00	宜野湾市立 大山小学校	6年	5	200名
2	8月31日	水	9:30~11:30	9:00	那覇市立 大名小学校	4年	2	48名
3	9月13日	火	11:00~12:50	10:30	八重瀬町立 東風平小学校	4年	4	150名
4	15日	木	9:30~12:00	9:00	八重瀬町立 具志頭小学校	3年	2	56名
5	27日	火	13:00~15:00	12:30	豊見城市立 座安小学校	3年	4	135名
6	28日	水	9:30~11:30	9:00	糸満市立 兼城小学校	3年	3	118名
7	10月4日	火	9:30~12:00	9:00	恩納村立 喜瀬武原小学校	3・4年	複合1	11名
8	5日	水	9:30~11:30	9:00	南風原町立 翔南小学校	4年	3	94名
9	20日	木	9:30~12:00	9:00	中城村立 津覇小学校	4年	3	80名
10	20日	木	9:30~11:30	9:00	那覇市立 開南小学校	5年	2	44名
11	21日	金	9:30~11:15	9:00	那覇市立 城南小学校	4年	2	79名
12	25日	火	9:30~12:00	9:00	那覇市立 石嶺小学校	4年	4	133名
13	26日	水	9:30~11:30	9:00	西原町立 西原東小学校	4年	2	73名
14	27日	木	9:30~12:00	9:00	南風原町立 津嘉山小学校	4年	3	115名
15	11月1日	火	9:30~12:00	9:00	浦添市立 当山小学校	4年	2	72名
16	2日	水	9:30~11:30	9:00	北谷町立 北谷小学校	4年	3	117名
17	8日	火	9:30~12:00	9:00	浦添市立 当山小学校	4年	3	108名
18	9日	水	9:30~11:00	9:00	浦添市立 港川小学校	4年	4	160名
19	10日	木	9:30~11:45	9:00	那覇市立 天妃小学校	4年	3	95名
20	15日	火	9:30~12:00	9:00	豊見城市立 豊見城小学校	4年	3	93名
21	16日	水	9:30~13:00	9:00	那覇市立 真地小学校	4年	3	87名
22	17日	木	9:30~12:00	9:00	那覇市立 上間小学校	4年	3	108名
23	22日	火	9:30~11:30	9:00	豊見城市立 とよみ小学校	4年	3	122名
24	24日	木	9:30~11:30	9:00	那覇市立 小録小学校	4年	2	62名
25	29日	火	9:30~11:30	9:00	那覇市立 城東小学校	4年	3	117名
26	12月1日	木	9:30~11:30	9:00	那覇市立 城東小学校	3年	3	104名
27	6日	火	9:30~11:30	9:00	那覇市立 真和志小学校	3年	2	74名
28	7日	水	9:30~11:30	9:00	那覇市立 小録南小学校	3年	4	146名
29	8日	木	9:30~11:30	9:00	那覇市立 小録南小学校	4年	4	151名
30	13日	火	9:30~11:30	9:00	宜野湾市立 大謝名小学校	4年	4	121名
31	15日	木	9:30~11:30	9:00	那覇市立 城北小学校	3年	4	134名
32	20日	火	9:30~11:30	9:00	那覇市立 識名小学校	4年	4	138名
33	1月11日	水	9:30~11:30	9:00	那覇市立 識名小学校	3年	4	131名
34	19日	木	9:30~12:00	9:00	那覇市立 石嶺小学校	3年	4	144名
35	2月1日	水	9:30~11:30	9:00	北谷町立 北谷小学校	3年	3	105名
36	9日	木	9:30~11:45	9:00	那覇市立 大名小学校	3年	2	50名
37	10日	金	9:30~12:00	9:00	那覇市立 壺屋小学校	3・4年	2	64名
38	14日	火	9:30~11:30	9:00	那覇市立 松川小学校	4年	3	94名
39	15日	水	9:30~12:00	9:00	那覇市立 城岳小学校	3年	3	89名
40	16日	木	9:30~11:30	9:00	那覇市立 銘苅小学校	3年	4	153名
41	21日	火	9:30~11:30	9:00	那覇市立 上間小学校	3年	3	108名
42	22日	水	9:30~11:30	9:00	那覇市立 松川小学校	3年	3	71名
43	23日	木	9:30~11:30	9:00	浦添市立 沢岬小学校	3年	4	123名
44	3月9日	金	9:30~11:30	9:00	那覇市立 開南小学校	3年	2	46名

平成23年度 県内学校団体等受入れ一覧〔解説補助対応校〕

H23. 3. 22. 現在

	日付	曜日	時間	学校名	対象	人数
民家解説等	5月 28日	土	13:00~13:15	沖縄大学大学院	学生	10数名
下見	6月 10日	金	10:00~12:00	沖縄県立鏡が丘特別支援学校高等部	職員	1名
講義、バックヤード	6月 15日	水	13:00~14:30	沖縄国際大学 総合文化学科	学生	23名
講義、バックヤード	7月 8日	金	09:00~12:00	沖縄工業高等専門学校 専攻科1年 (「日本語・日本文化論」履修学生)	学生	24名
職員研修	7月 29日	金	14:00~16:00	西原町立 西原東小学校	職員	20名
職員研修	8月 2日	火	14:00~16:00	宜野湾市立 普天間中学校	職員	21名
夏休み課題研究	7~8月	—	開館中	沖縄県立 浦添高等学校	学生	不定数

平成23年度の傾向としては、昨年度同様に小学校3・4年の単元学習「昔のくらしとまちづくり」「さぐってみよう昔のくらし」等で民具体験を目的とした民具体験プログラムの他に、歴史分野の解説や自然史、美術工芸、バックヤード、屋外展示解説、夏休みの課題研究などで来館する学校に対応したプログラム作成・実施のサポートを行いました。

民具体験での来館は、平成22年度までと比べ、学習指導要領の移行により4年生で学習していた単元が3年生に変わっていったこともあり、前半(8月~11月頃)に4年生、後半(12月頃~)は3年生の来館が主流となりました。民具体験での来館校は、当館で作成したワークシートや、社会科ノートを活用した学校が多かったのですが、浦添高等学校や沖縄工業高等専門学校等では、教師や教授自らで作成したワークシート等を持って来館する姿が見られました。

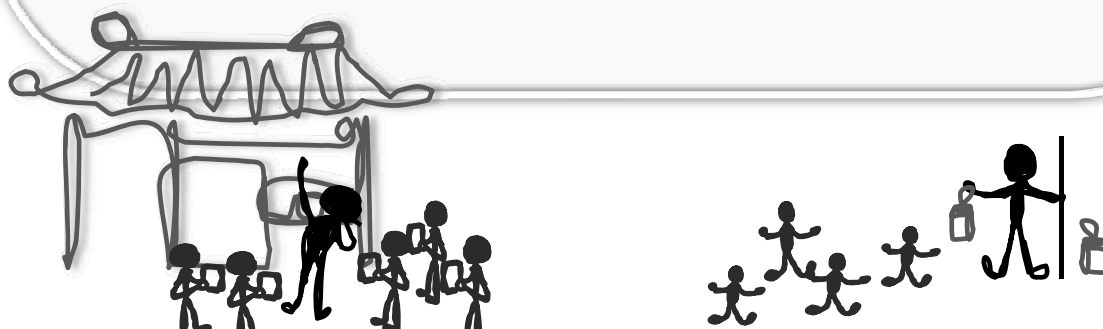
平成22年度からプログラムを改変し、平成23年度からは「博物館が教室になる！」(詳細は、本書「XI その他 6 ~教育力向上支援業務にて)の為の本格的な準備が始まりました。教育力向上支援事業で雇用した2名が、小学校での学習内容を調査し、博物館の展示資料が、どの学年・単元にリンクするのかをまとめ、パンフレットを作成いたしました。平成24年度には県内の小学校に配布予定です。

ボランティアの僻地・離島の少人数校へのガイドにむけての取組が始まりました。
(詳細は、本書「XI その他 5 ボランティアによる展示ガイドマニュアル作成にて)

博物館教育普及スタッフ(学芸員、嘱託スタッフ・文化の杜教育普及スタッフ)のみならず、大勢の博物館ボランティアの皆様のご協力により、教育普及プログラムは成り立っています。

民具体験のみならず、様々な分野での博物館の活用を期待し、来館をお待ちしております。

(當眞 妃奈子)



Ⅲ 体験学習教室

1 博物館体験学習教室実施要項

(1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期 日	題	講 師 名	内 容	定員
1	11.5.21(土) 9:45～12:00	チンビン・ポーポー を作ろう	・松本嘉代子氏 (有)松本料理学院 学院長)	ユッカヌヒー(旧暦の5月4日)との関係や起源を学び、親子で調理実習と試食会を行う。	15組 (親子)
2	11.7.29(金) 9:45～13:00	昆虫標本を作ろう	・佐々木健志氏 (琉球大学<風樹館>学芸) ・比嘉正一氏 (沖縄昆虫同好会 会長) ・松村雅史氏 (沖縄昆虫同好会 会員)	1日目に琉球大学内にある「風樹館」を見学し、昆虫の生態や標本について学び、2日目に標本を作りながら、標本を作る意味についてみんなで考える。	12組 (親子)
	11.7.30(土) 9:45～15:00				
3	12.1.14(土) 9:15～16:30	台所でできる草木染	・江谷紋子氏	身近な道具や材料で染色に親しみ、博物館の資料を通して先人の技や思いについて考える。参加者間での鑑賞会も。	12組 (親子)

(3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間3回程度の実施。午前9時～12時までの3時間を基本とし、内容によって終了時間の調整(昼食時間を設ける等)を行った。

場所は、基本として実習室。今回は、他館の協力を仰ぎ館外実習(琉球大学風樹館とビオトープ見学)が可能となった。

(4) 受講方法

※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)

※抽選の場合、当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

(5) 体験学習に係る役割

○前日まで

①	事業起案及び講師依頼	博物館（教育普及担当）
②	マスコミ各社への受講生募集依頼	指定管理者
③	受講生受け付け	指定管理者
④	講師打ち合わせ	博物館（教育普及担当）、指定管理者
⑤	説明資料作製	博物館（教育普及担当）、指定管理者
⑥	材料・道具等の諸準備	博物館（教育普及担当）、指定管理者
⑦	ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館（教育普及担当）、指定管理者



「台所で出来る草木染」会場設置風景（事前調整・準備）



「台所で出来る草木染」の事前学習室

●当日の運営

①	受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
②	開講式 司会	指定管理者
③	講師紹介	博物館（教育普及担当）
④	運営責任者あいさつ	指定管理者
⑤	講座の進行	博物館（教育普及担当）、指定管理者
⑥	材料等の準備及び配布	博物館（教育普及担当）、指定管理者
⑦	記念撮影	指定管理者
⑧	記録撮影	博物館（教育普及担当）、指定管理者
⑨	報償費支払い事務	指定管理者



当日朝のミーティング
「チンピン・ポーポーを作ろう」

池原学芸員による
講師紹介
「昆虫標本を作ろう」



文化の杜：教育普及担当
大演による講座日程確認
「台所で出来る草木染」



2 講師紹介

【チンビン・ポーポーを作ろう】

☆松本嘉代子（料理研究家）☆

沖縄や琉球料理を 40 年間教え続けている。那覇市に松本料理学院を開校して、沖縄の食文化向上のため、年間を通して、県内各所にて、調理実技の指導やクッキング教室を開催。現在、沖縄タイムスと琉球新報の料理講習のレギュラー講師であり、NHK、琉球放送、沖縄テレビでも活躍中。

『沖縄の行事料理』をはじめ 数多くの 沖縄料理のレシピ本の執筆あり。

- ・「日本の味」九州・沖縄編（琉球料理担当）読売新聞社（1973）
- ・「沖縄の行事料理」月刊沖縄社（1978）
- ・「琉球料理全書」1巻「すぐ役に立つ家庭料理」新星図書（1979）
- ・「ゴーヤー料理 60選」月刊沖縄社（1984）
- ・「沖縄健康百科」（料理担当）新報出版（1988）
- ・「おきなわの味」共著 ニライ社（1989）
- ・「沖縄の行事料理」沖縄文化社（2006） など



【台所で出来る草木染】

☆江谷紋子（染色家）☆

那覇市出身 豊見城村（現在豊見城市）育ち 美術専攻
糸満中学校教諭を経て紋工房主催

2010年2月 ADVANCE Color Therapist 取得

現在、染色家としても活動中

愛犬：琥珀（コーギー）

趣味は、何か作っちゃうこと（木工とか手芸などから料理まで）



【昆虫標本を作ろう】

☆佐々木健志<琉球大学資料館（風樹館）学芸員>☆

琉球大学の風樹館という、大学の中の博物館の責任者。いつも楽しいこと、面白いことを考えていて、子どもの方々に分かりやすい説明と楽しい体験教室をしてくれるので、学校や様々な子ども向けの催し物に、引っ張りだこ。今回は、1日目の風樹館見学の際に風樹館の担当役割と資料の紹介、昆虫の採取の仕方について、2日目は、標本作りの教室の進行役として参加者をリードし、リンブン転写という、蝶々を使った標本づくりや、標本作りのコツなどを楽しく紹介していただいた。



☆松村雅史（沖縄昆虫同好会会員 与那原町在）☆

沖縄昆虫同好会の会員で、与那原町在住。博物館の自然史のコーナーの奥の方に昆虫標本の引き出しがあるが、その昆虫標本の中の、甲虫標本のほとんど一数字でいうと90%を作っていた。博物館を助けてくれる昆虫標本づくりのプロ。今回は、1日目に風樹館にて昆虫採集の仕方、2日目には昆虫標本づくりの基本的な事を中心に、皆さんが持って来てくれた、昆虫を標本にする方法を教えていただいた。



☆比嘉正一（沖縄昆虫同好会会長）☆

沖縄昆虫同好会の会長で、元東南植物楽園学芸員。琉球大学農学部卒。専門分野は、昆虫と植物。沖縄市知花の東南植物楽園（大林千乃社長）が植物図鑑「花楽祭（からくさい）」を出版した際に、2005年2月から08年10月まで、「学芸員の部屋」と題したブログの中で紹介した92種を掲載した。蝶の標本作りのプロ。

今回は、2日目からの参加となり、蝶の展翅の仕方から標本作りの細部に至るまで御教授いただいた。



1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成23年5月21日(土) 9:45 ～ 13:00

3 対象者

小学生以上の親子(一組2名)

4 募集人員

15組(多数の場合は抽選)

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

受付	9:45	～	10:00
開講式 <実習室>	10:00	～	10:10
始めの言葉……司会 (文化の杜:中村) 講師紹介……教育普及担当(池原)			
21日 講 座 <実習室> (土)			
・お 話	10:10	～	10:30
・調理実演 * 松本先生による見本	10:30	～	11:00
・料 理 * IT調理器1台に親子(2)組	11:00	～	12:30
後片づけ	12:30	～	12:45
試食会並び閉講式	12:45	～	13:00
始めの言葉……司会(文化の杜:中村) 講師によるまとめ 記念撮影 終わりの言葉……司会			

7 講 師

松本嘉代子 (有)松本料理学院 学院長

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 池原 |
| ② マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③ 受講生受け付け 12/10～ | 文化の杜 |
| ④ 講師打ち合わせ | 池原・中村 |
| ⑤ 説明資料作成 | 池原・文化の杜:中村 |
| ⑥ 報償費支払い事務 | 文化の杜 |
| ⑦ 材料・用具等の諸準備 | 文化の杜 博物館ボランティア |

(2)当日の役割分担

- | | |
|---------------------|---------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収 | 文化の杜:中村 |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 文化の杜:中村 |
| 講師紹介 | 池原 |
| ③ 講座の進行 | 文化の杜:中村 |
| ④ 材料等の準備及び配布 | |
| ⑤ 記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

- | | | |
|-----------|---------------------------|-----------------------|
| ① 小麦粉 | ポ-ポ- / 300g × 8 = 2,4kg | |
| | チンビン / 250g × 8 = 2,0kg | 計約5kg × 250円 = 1,250円 |
| ベーキングパウダー | ポ-ポ- / 小さじ1(1g) × 8 = 8g | |
| | チンビン / 小さじ1(2g) × 8 = 16g | 24g = 250円(100g缶) |
| サラダ油 | ポ-ポ- / 小さじ1(2g) × 8 = 16g | |
| | チンビン / 小さじ1(1g) × 8 = 8g | 24g = 300円(200ml) |

○博物館で準備するもの

- ・IH調理器(8)台 ーIH調理器1台に、親子2組ー
- ・フライパン(10)台
- ・ふりこ(16)台
- ・おたま(16)台
- ・ボール(16)台

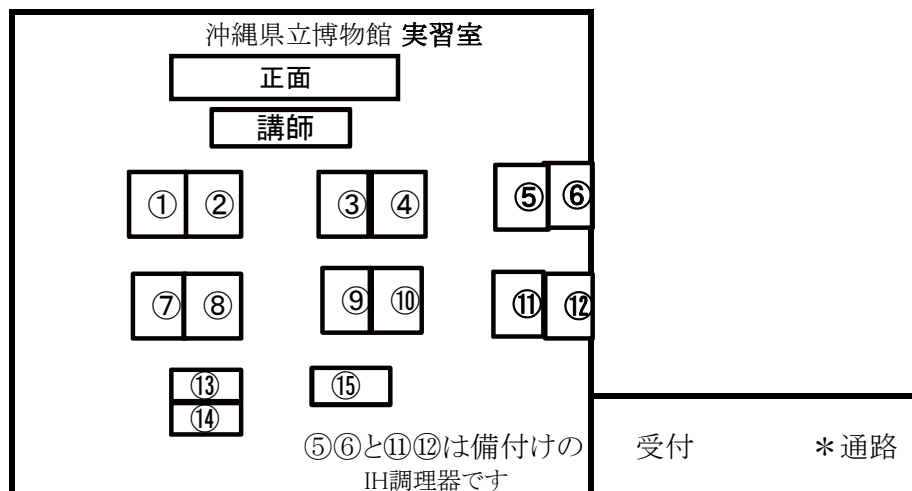
○文化の杜で準備するもの

- レジュメ印刷
- 講師飲み物

○受講生が準備するもの

- 作業ができる服装
- 材料費 1組(200)円

10 体験会場



『千ビン・ポーポーをつくろう』

2011年5月21日(土)

()の中をうめてみよう!

漢字で書くと 色は?

千ビンとは? --- 卷餅 () (黛) (砂糖)

ポーポーとは? --- 炮 炮 () (アンダ) (味噌)

なぜこのようなお菓子(料理)があるのでしょうか!

●沖縄の伝統行事と深い関係があります!!

旧暦5月4日 ヌッカヌフィー ←→ ハーリー

各地の魚村や港町では豊漁祈願のハーリーが盛大に催されました。沖縄の年中行事は、中国の影響を受けたものが多くハーリーもその一つです

子どもの夢をさそう、おもちゃ市

ユッカヌフィーになると港はハーリーの見物に多くの人々が来ました。首里や那覇の通りには、おもちゃの店が多く出て、子どもたちの楽しみでした。

お菓子は

この日、各家庭では、千ビン や ポーポー が作られ、子どもたちはとても楽しい日でした。



千ビン、ポーポーという名前からもわかるように、中国の影響を受けたものしかし、私たちの祖先の人たちは、沖縄の気候や風土に合わせて、沖縄らしい料理に変えてきました

☆ 旧暦 5月5日 (クニチ) 五月五日を 菖蒲の節供 (しょうぶのせっく) ⇒ 「尚武」 男児の節句 ⇒

現在 (しょうぶやあまがしの持つ信仰的な要素の影がうすれ、子どもの成長を祝う食物として作られる)

沖縄では「あまがし」に、菖蒲の葉 (しょうぶのは) (匂いの強い薬草で厄払い) を添えていただきます!

【体験学習で使ったレシピ】

＜琉球料理科＞

担当：学院長 松本 嘉代子

ポ ー ポ ー

(沖縄の行事料理 p.30~31)

材料(直径 15cm×10枚)

- 豚肉 (B¹⁰-2) 50g
- サラダ油 適量
- 白味噌 (甘口) 80g
- 砂糖 おおさじ 3~4
- 生姜 (みじん切り) 小さじ 1

- 小麦粉 1・1/2カップ
- ベーキングパウダー 小さじ 1
- 水 1・1/4~1・1/2カップ
- サラダ油 小さじ 2

サラダ油 適量

＜作り方＞

- ①油味噌を作る。
 - 1) 豚肉は茹でて細かく切る。
 - 2) フライパンに油を熱して1)の豚肉を炒め、白味噌と砂糖を加えてつやがでるまで炒め、生姜を加える。
- ②皮を作る。
 - 1) 小麦粉とベーキングパウダーは一緒にふるっておく。
 - 2) ボールに①の小麦粉を入れ、水を加えて泡立て器で混ぜ、ゆるやかなたねを作る。
 - 3) 2)をあん杓子でこしてサラダ油を加える。
 - 4) よくなれたフライパンに油を少なめにしき、3)のたねを薄めに流し広げ、鍋肌から離れてきたら裏返して焼く。
- ③仕上げ

※時間の都合上、当日、油味噌に関しては既成の物を使った。

チ ン ビ ン

(おきなわの味 p.124/沖縄の行事料理 p.30~32)

材料(22cm×9枚)

- 小麦粉 250g
- ベーキングパウダー 小さじ 2
- 黒砂糖 (削ったもの) 150g
- 水 2カップ

サラダ油 小さじ 1

サラダ油 適量

＜作り方＞

- ①黒砂糖は分量の水で煮溶かし、あくをすくい取り、布巾でこして冷ましておく(できあがりは400ccに計っておく)。
- ②小麦粉とベーキングパウダーをふるいにかけてボールに入れ、黒砂糖液を加えてむらのないように混ぜ、サラダ油を加える。
- ③熱したフライパンに油をぬって②を流し入れ、表面にあげたようにブツブツと穴があいてきたら裏返して焼き、手前からクルクル巻く。

※火加減は中火よりやや弱くして極端に焦がさないように注意する。

※黒砂糖のあくをいはいに取るときは、卵白を入れて取る。

あ ま が し

材料(5人分)

- 小豆 1カップ
- 押麦 3/4カップ
- 黒砂糖 (削ったもの) 150g
- 水 1カップ
- 卵白 1個分
- 塩 少々
- 水 7カップ

＜作り方＞

- ①小豆は洗って5時間くらい水につけておく。
- ②押麦は洗ってざるにあげ、水気をきっておく。
- ③黒砂糖と分量の水を火にかけて、卵白を入れてあくを付着させてこす。
- ④鍋に小豆を入れて強火にかけて、煮立ったら煮汁をこぼす。新たに分量の水を加え、50分~1時間くらいゆっくりに煮る。
- ⑤小豆が柔らかくなくなったら押麦を入れ、さらに20~30分くらい弱火で煮る。
- ⑥濃度が出てきたら溶かした黒砂糖と塩を加え、5~10分くらい煮て、甘味をよく浸透させる。
- ⑦器に盛りつけ、菖蒲の葉を箸の代わりにして供する。

青豆のあまがし

材料(5人分)

- 青豆 (緑豆) 1カップ
- 水 7カップ
- 押麦 3/4カップ
- 水 かぶる程度
- 砂糖 (黒砂糖) 200g
- 塩 少々

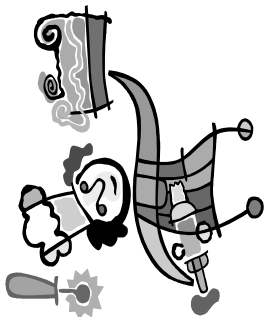
＜作り方＞

- ①青豆は洗って分量の水にしばらくつけておく。
- ②押麦はかぶる程度の水と一緒に鍋に入れ、柔らかくなるまで煮る。
- ③青豆は鍋に入れて強火にかけて、沸騰させてあくを出し、一度茹でこぼす。再び火にかけて、柔らかくなるまでゆっくりに煮る。
- ④②と③を合わせて砂糖を2~3回に分けて入れ、好みの甘さ加減にし、塩少々を加えて隠し味にする。

松本料理学院 〒900-0021 那覇市崇崎1丁目9番13号
 TEL 098-861-0763 FAX098-861-5163
<https://www.matsumoto-cooking.com/>



県立博物館・美術館



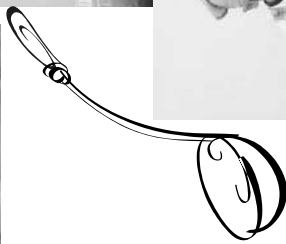
体験学習教室

2011.5.21(土)10:00~13:00



『ポーポー・キンピンを作ろう』

博物館実習室にて 親子13組



松本県立博物館・美術館
 体験学習教室
 『ポーポー・キンピンを作ろう』
 5月21日(土)
 10時~13時
 (受付9:45)
 講師 松本麗代子氏(松本県立博物館学芸員)
 料金 無料
 申込 5月12日(木)まで
 申込先 松本県立博物館・美術館
 〒270-8501 松本市大町1-1 TEL.0961-941-9200

平成 23 年度博物館体験学習教室「チンビン・ポーポーを作ろう」(まとめ)

○講師（松本調理学院長）松本嘉代子

<事前準備>

- ・ 広報、抽選、応募者への連絡、材料・用具買い出し（中村・大濱）
- ・ ボランティアへの呼びかけ（池原）
- ・ IPM 会議への提案[美装・中央監視への協力願い]（池原・宮平(妃)）

○前日準備

- 1 5月20日（金）
- 2 中村・大濱
- 3 作業内容
 - ・ IH 調理器の確認（今回7台の IH 調理器を新規購入した：保管は実習室棚）
 - ・ 小麦粉の取分け（ビニール袋づめ作業）
 - ・ 黒糖（講師の先生より提供：青い海社製品）＊当日持参

○体験教室当日

- 1 日 時 2011年5月21日（土）午前10時～午後1時
- 2 参加者 親子16組（33名） ＊2組キャンセル
ボランティア（9名）（西川、又吉、宮里(佐)、島袋、末吉、我那覇、田場、國松、池内）
職員（池原、宮平(妃)、中村、大濱）
- 3 体験教室の様子
 - ～9：00 ボランティア員集合
 - ～9：15 会場準備（各テーブルへのビニール張りとアルコール、用具等の配置や配線など）
 - ～9：30 講師の松本先生着
 - ＊トラブル発生＊
油味噌と黒糖を先生が忘れたため、急遽宮平（妃）がコープへ買い出しへ。
予定していたボランティアと先生とのミーティングは出来なくなった。
 - 9：45～ 受付開始
 - 10：10～ 開会式
 - 10：20～10：45 松本先生の話
 - 10：45～11：20 松本先生による実演見本
 - 11：20～12：45 親子で調理開始（前半ポーポー、後半チンビン）
 - 12：30～ 片づけ
 - 12：30～ 閉会式
 - 13：15～14：30 スタッフ片づけ

—体験教室の様子と反省—

●受付・開会式

*当日9時にボランティア集合（最終準備と打合せ）

- ・椅子とテーブルの準備は、前日に文化の杜で担当。
- ・ボランティアでテーブルのアルコール消毒とビニール張り。その後、用具の配置。
- ・9時20分に着席。ボランティアミーティング（子どもへの支援の在り方確認：

手は出さず、声かけによる支援を！）

*講師の先生は、9時30分に館到着。

*参加者は親子で総勢28名になった。

*当日ボランティアは、9名参加。

ボランティア氏名（西川、又吉、宮里(佐)、島袋、末吉、我那覇、田場、國松、池内）

*書き込みができるレジユメを準備したため、参加者にはバインダーを添えて配布した。

●展開

*レジユメを準備し、流れを先生にお任せしていたが、当初レジユメに沿わない内容で進行していった。中村が修正に入り、参加者の集中力が回復した。

*ボールや泡立て器等、事前に調整していなかった調理道具が多々あり、急遽購入する事態があった。しかし、それでも調理道具の足りない場面が多々あり、文言での打合せだけでなく、予行練習（実際に調理）の必要性を改めて感じた。

（不足分：ボール、泡立て器、軽量スプーン、ふきん）

油をひく為のキッチンペーパー用の皿は、ボランティアがアルミホイルで代用

*油味噌や黒糖など講師に準備を依頼するものに関しては、前日搬入を検討する。

*先生にお持ちいただいた黒糖は、色が薄かったので、急遽スーパーにて購入した黒糖で色を足す形となった。

*途中流し台排水溝が、小麦粉で詰まった。ボールを洗う前には、残をふき取ってから洗うよう指導を徹底するべきだった。

*講師の先生の実演の際、参加者全員を講師の手前まで集合させたことで集中力がでて、講師の話に耳を傾けることができた。

*小麦粉の取り分けで、計量カップとグラムの数値の読み違いをしてしまった。（粉の場合1カップ約100gになるのを水などと同じ200gで計算してしまった。）その為、ポーポーの生地をこねる形になってしまい、グルテンが出て固くなってしまった。

●閉会式・片づけなど

*閉会式の中の先生のお話が、ポーポー・チンビンからそれて料理全般の内容になっていった。

*IPMの観点から、退室は屋外へ通じる外ドアを利用してもらった。

*美装班の協力で、教室終了後直ちに清掃が入ることができた。

「ポーポー・チンビンを作ろう」アンケート集計結果

【2011年5月21日(土)実施分】

参加人数30人(定員15組)

回答者数 18人

問1 性別

※単位=人

男性	女性	無回答	合計
6	12	0	18

問2 年齢

10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
3	9	0	3	2	0	1	1	0	0

問3 交通手段

自動車	モノレール	公共バス	観光バス	バイク	自転車	徒歩	その他	無回答
15	0	1	0	0	0	1	1	0

※その他:タクシー

問4 沖縄県立博物館・美術館を何で知ったか？

沖縄タイムス	琉球新報	館内チラシ	館内ポスター	友の会	以前講座に参加して	その他	ネット	無回答
8	5	2	1	0	0	0	0	0

※新聞のみと回答2名

問5 今回の講座の内容はどうだったか？

有意義な内容だった	適当	不満	無回答
15	2	0	1

問6 問5で「不満」と回答した方へ質問、今後改善すべき点は？

なし

問7 今まで当館で開催された中で一番印象深い講座は何か？

※初めての参加者のみならず、過去の体験講座に参加した方もおられるようだ。

「初めての参加」(他2件)「本日の講座」(他2件)「標本作り」「今年の虫かご作り」「空気ほうの実験」

問8 次に博物館で開催してほしい講座は何か？

※伝統料理に関する講座を望む声が多い。

「同じ講座」「餅つき」「ムーチャー作り」「エコクラフト」「沖縄で作られるナントウを教えてください」「解剖」「金魚すくい」「博物館の役割や楽屋裏」「琉球料理、伝統料理」(他1件)

問9 その他感想や質問など

※参加者にとって好評の講座であったようである。

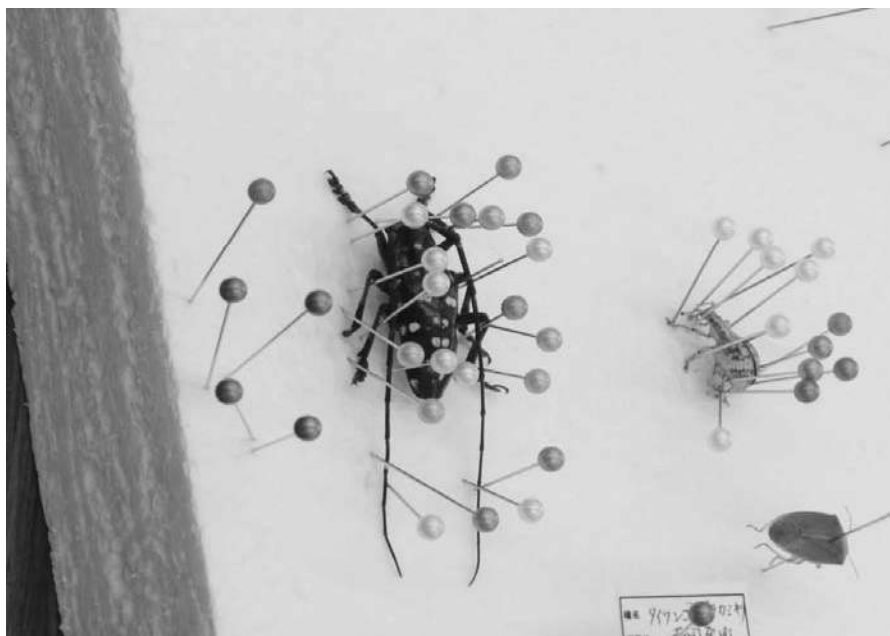
「おもしろかったです。有難うございます。」「ポーポーとチンビン初めて作って楽しかったです。」(他1件)
 「素晴らしい松本先生のご指導頂きうれしかったです。」「どうも有難うございました。また講座を受けたいです。」「これを機会に家で作ってみます。5月4日、5月5日に関してのお話を細かく聞くことが出来ました。すごく勉強になりました。」

平成23年度

博物館体験学習教室

第2回講座

「昆虫標本を作ろう」実施計画



期日 平成23年7月29日(金)30日(土)

時間 午前 9:45～15:00

場所 1日目＝琉球大学風樹館
2日目＝沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

内容 1日目＝琉球大学風樹館 見学
2日目＝昆虫標本づくり

博物館 体験学習教室

「昆虫標本を作ろう」実施計画

2011.6.21.教育普及

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日時

平成23年7月29日(金) 9:45 ～ 12:00
7月30日(土) 9:45 ～ 15:00

3 対象者

小学校3年生以上の親子(一組2名)

4 募集人員

15組(多数の場合は抽選)

5 場所

7/29(金) 琉球大学風樹館 7/30(土) 県立博物館実習室

6 日程

7/ 29日 (金)	現地(風樹館)集合 *別紙案内地図参照		～	9:30
	受付	9:45	～	10:00
	開講式 <風樹館入口> 始めの言葉……司会(文化の杜:中村) 講師紹介……教育普及担当(池原)	10:00	～	10:05
	講座<風樹館&ビオトープ> ・佐々木先生による解説案内 *前半(内)	10:05	～	10:50
	*後半(外)	11:00	～	11:30
	閉講式 <風樹館入口> 始めの言葉……司会(文化の杜:中村) 講師によるまとめ 記念撮影 終わりの言葉……司会	11:45	～	12:00
7/ 30日 (土)	受付	9:30	～	9:45
	開講式 <博物館実習室> 始めの言葉……司会(文化の杜:中村) 講師紹介……教育普及担当(池原)	9:45	～	10:00
	講座<博物館実習室> 解説とく 制作実習実演 *講師が、3グループを30分のローテーションで回る	10:00	～	11:30

	* 昼食	11:30	～	12:30
	制作実習〈昆虫標本づくり〉 持参した昆虫の種類ごとに分かれて製作	12:30	～	14:00
7/30日 (土)	片付け	14:00	～	14:30
	閉講式 始めの言葉……司会(文化の杜:中村) 講師によるまとめ 記念撮影 終わりの言葉……司会	14:30	～	15:00

7 講師

佐々木 健志:琉球大学資料館(風樹館)学芸員

比嘉 正一 :沖縄昆虫同好会会長

松村 雅史 :沖縄昆虫同好会会員

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|----------------|------------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 池原 |
| ② マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③ 受講生受け付け | 文化の杜 |
| ④ 講師打ち合わせ | 池原・中村・宮平 |
| ⑤ 説明資料作成 | 池原・文化の杜:中村 |
| ⑥ 報償費支払い事務 | 文化の杜 |
| ⑦ 材料・用具等の諸準備 | 文化の杜 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|---------------------|---------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収 | 文化の杜:中村 |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 文化の杜:中村 |
| 講師紹介 | 池原 |
| ③ 講座の進行 | 文化の杜:中村 |
| ④ 材料等の準備及び配布 | |
| ⑤ 記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

- ・厚さ3cmの発泡スチロール(20cm×30cm、一人一枚)
- ・まち針(一人20本×15名≒300本) ・パラフィン紙 ・ラミネート(シートと機器)
- (鱗粉転写用具) ・色鉛筆 ・サインペン ・はさみ ・カッターナイフ ・スプーン
- ・ケント紙(A5()枚)

○博物館で準備(購入)するもの

- ・発泡スチロール ・ラミネート機

○文化の杜で準備するもの

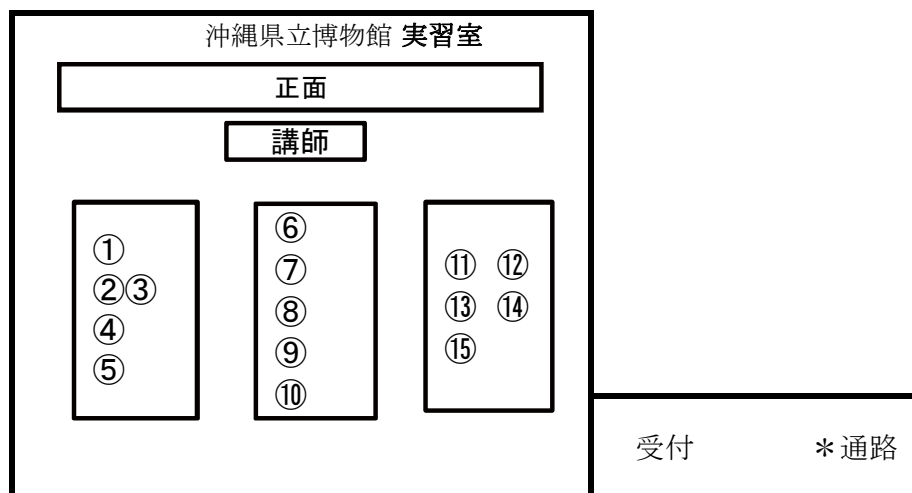
- ・ラミネート紙、ケント紙
- ・レジューメ印刷
- ・講師飲み物

○受講生が準備するもの

- ・作業ができる服装 ・20cm×30cm以上の箱(持帰り用)
- 材料費 1組()円

★昆虫は受講者自身が持参【採取後、要冷凍庫保存】

10 体験会場



昆虫標本の作り方

はじめに

生きている昆虫では観察するのが難しい身体の細かなつくりや形なども、標本をつくることでじっくりと調べることができます。また、いろいろな種類の昆虫標本を並べて比較すると、それぞれの虫の特徴やほかの動物との違いなどもよく分かります。きつと、見なれた身近な虫たちにも思わぬ発見があるはずです。ぜひ、みなさんも昆虫標本作りに挑戦してみてください。

1. 標本の作成に必要な道具

昆虫標本を作るには、まず道具をそろえる必要があります。標本作りの道具は、理科室器具販売店などで市販されていますが、家庭にあるものを使って自分で作ることもできます。



① 発泡スチロールの板 ② ピンセット ③ 柄付き針 ④ はさみ
⑤ カッターナイフ ⑥ まち針 ⑦ 昆虫針 ⑧ 展翅テープ

① 展翅版と展翅板

標本にするために、昆虫類の翅を広げることを展翅^{てんせう}といいます。展翅版は、チョウやトンボなどの翅を広げて固定するための道具です。専用のものが市販されていますが、発泡スチロールなどを使って自分で作ることもできます。また、カプトムシやバタタなどのあ

しを整えて固定するのに使うのが展足板で、同様に発泡スチロールなどで代用できます。

② ピンセット

ピンセットは、できるだけ先のとがったものを用意します。昆虫のあしやはねを整えるのに使います。

③ 柄付き針

長のはねを動かすのに使います。柄付き針の先をチョウのはねの付け根近くにある太い翅脈に引っかけるようにしてはねを整えます。

④ はさみ

展翅テープを切ったり、標本ラベルを切ったりするのに使います。

⑤ カッターナイフ

カッターナイフは、展翅板に溝を掘るのに使います。

⑥ とめ針

チョウやガのはねを広げるためのテープを展翅板に固定したり、カプトムシやバタタなどのあしを整えたりするのに使います。手芸用のまち針を利用します。

⑦ 昆虫針

昆虫の身体に直接さす針のことです。手芸用のまち針などでも代用できますが、できれば専用のステンレス製の昆虫針を使うほうが標本を長く保存できます。昆虫の身体が大きさに合わせて、0号（細い）から5号（太い）までいろいろな太さの針があります。

⑧ 展翅テープ

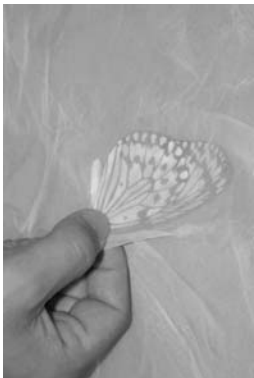
展翅版の上に広げた昆虫のはねをとめるのに使う、幅が1~4cm、長さ20cmほどの細長い紙のテープです。チョウやガの鱗分がはげ落ちないよう、表面がすべすべしたパラフィン紙やハクロン紙などを利用しますが、はねに鱗分のないトンボやセミなどは、表面がなめらかで丈夫な紙ならなんでも利用することができます。

⑨ 標本ラベル

標本作りの中で最も大事な作業の一つが、「標本ラベル」の作成です。標本には必ず、採集した場所・日付（年月日）・採集者の名前を記入した標本ラベルを、標本と同じ針にさします。ラベルには、ケント紙などの厚紙を幅20mm×長さ30mmほどに切り分けたものを利用し、鉛筆か黒インクで記入します。

2. チョウの仲間の標本の作り方

先ず、チョウを採集します。捕まえたチョウは、はねの粉（鱗粉）が落ちるのを防ぐために、網の中で胸を強く握りつぶして仮死状態にしておきます。



網の中でチョウの胸を強く押しつぶして殺す。



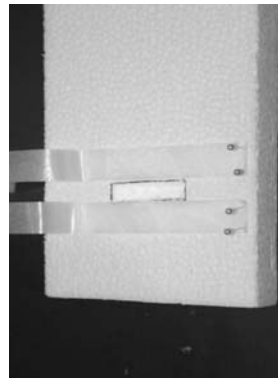
三角紙に入れて持ち帰る。



① 体の長さに合わせて掘る位置を決める。



② 身体がちょうど埋まるくらいに彫り込む。



② まち針で展翅テープをつける。



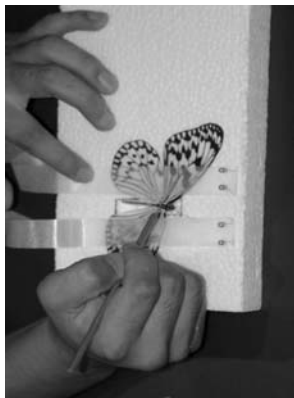
④ チョウの胸に昆虫針を直角に刺す。



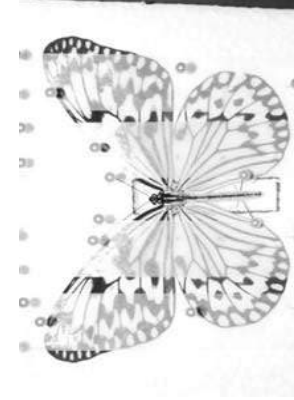
⑤ 展翅台に昆虫を刺す。



⑥ 両方のはねを仮止めする。



⑦ 柄つき針をはねの付け根の翅脈にひっかけ、前ばねの後の線が体と直角になるようにはねを上げる。



⑧ 触角を前方に伸ばし展翅テープで固定し、腹はまち針を交叉させて固定する。

3. カブトムシの仲間（甲虫類）の標本の作り方

カブトムシやクワガタムシ、カミキリムシなどの昆虫は、あしをきれいにそろえて標本にします。あしのそろえ方は、昆虫図鑑などの標本写真を参考にして下さい。また、とめ針であしを固定するときは、あしを二本の針を交叉させて挟むようにして固定します。



① 右はね上部の体を中心よりの中あしと後あしの間にもつすぐに針をさす。



② 展足板の上にもつすぐに虫をさし、あしの位置を決めてまち針で固定する。

3. バッタやトンボの仲間の標本の作り方

比較的大きなバッタやトンボの標本を作るときには、腐りやすい内臓を取り除く必要があります。先のとがったハサミで腹部の途中に切れ目を入れて、そこからピンセットを使って内臓を取り除きます。バッタの仲間には、後はねにもよを持つ種類もあるので、できれば片方のはね(右のはね)を広げた標本にします。また、トンボの腹部は細長くて標本にするときに曲がったり折れたりしやすいので、エノコログサの花茎や竹串を細く削った芯をのどの部分からお腹の中にさし込んで腹をまっすぐに伸ばします。



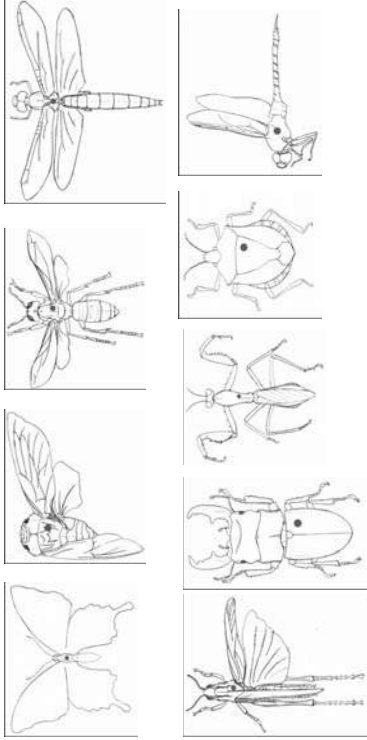
腹の横に 1cm ほどの切れ目を入れ、ピンセットで内臓を取り出す。



のどの部分から芯をさし込み、腹の先の少し手前でとめ、あまった部分を切り取って芯を体の中に押し込む。

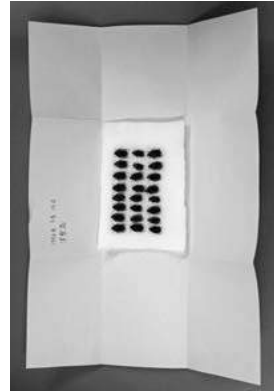
5. 虫のからだに昆虫針を刺す場所

昆虫に昆虫針を刺す場所は、標本が見やすいように虫の種類によって決まっています。



6. たとう紙による展足と保存

「たとうがみ(畳紙)」とは、着物などを入れて折りたたんで保存するための和紙のことです。昆虫標本の作成では、比較的小さくして身体にあまり厚みのないクワガタムシ、カミキリムシ、テントウムシ、ホタル、ゲンゴロウ、カメムシ、コオロギなどの展足と標本の保存に使われています。B4のコピー用紙などを写真のように折りたたみ、中心に長方形に薄く切った綿をのせ、その上に虫を並べてピンセットで触角やあしの形を整えて乾燥させてから保存します。シリカゲルを入れたタッパーなどで触角やあしの形を整えて乾燥させる間に乾燥するまでの間に何度かタトウ紙を開いて何度かタトウ紙を開いて触角やあしの形を整えたりとさせていただきます。標本の採集データは、たとう紙の表と中に鉛筆で記入します。



綿を敷いた上に昆虫をならべてあしや触角を整える。

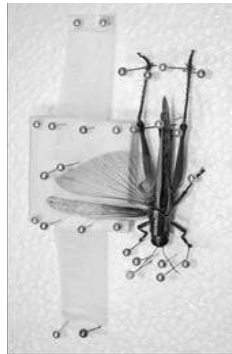


シリカゲルを入れた密閉できるタッパーで乾燥させ保存する。

4. 標本ラベルの付け方

標本作りの中で最も大事な作業の一つが、「標本ラベル」の作成です。採集した標本が、「いつ」「どこで」「だれ」が採集したものが分かるように、必ずラベルを付けましょう。

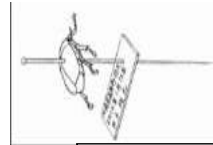
- ・ラベルは、完成した標本と同じ針に刺す。
- ・紙はケント紙などの厚めの紙を使い、鉛筆で記入する。
- ・大きさは、たて 2cm × よこ 3cm ほどの小さめにする。



展足板の上に薄い発砲スチロールの板をおいてはねをひろげる。



展足板の上でチョウと同じ手順ではねを広げてとめる。



2004年7月17日
沖縄県宜野湾市赤道
(ススキ原)
比嘉 智也

ラベルの記入例

7. 標本の乾燥方法と保存

長く保存できる昆虫標本を作るためには、虫が腐らないようにできるだけ早く乾燥させる必要があります。風通しのよい場所やテレビの上などで時間をかけて乾燥させる方法もありますが、高温多湿な沖縄ではカビが生えたりアリアリやゴキブリに食べられたりして標本がぼろぼろになることがあります。そこで、密閉できる大型のタッパーに乾燥剤を入れ、その中で標本を乾燥させると虫に喰われることもなくきれいな標本を作ることができます。乾燥させる期間は、小さな虫で1週間ほど、カブトムシなどの大型の虫でも2〜3週間ほどで完全に乾燥させることができます。中に入れる乾燥剤は、市販のドライフラスワーリなどなどに使われるシリカゲルが最も使いやすく、電子レンジなどで何度も再生して利用することができます。完成したた涼しい場所に保存するといつまでもきれいな状態を保つことができます。



密閉できるタッパーにシリカゲルを敷き、標本を乾燥させる。

透明なアクリルケースに乾燥剤とともに標本を入れ、ビニールテープなどで密閉して保存する。

発見いっぱい夏休み

虫の整理術学ぶ

標本作り親子ら挑戦

那覇

昆虫標本作りを楽しむ体

那覇市立立寄小4年の児童が、親子で昆虫標本作りに挑戦した。親子ら12組21人が参加し、チョウやセミなどをピンセットで注意深く扱いながら、発泡スチロールの板にまち針で固定。チョウの表面についた粉を「ミネート保存



する鱗粉転写と呼ばれる標本も学んだ。

琉球大学資料館(風樹館)学芸員の佐々木健志さんと、昆虫同好会の比嘉正一さん、松村雅史さんの3人が指導。母親と一緒に挑戦した那覇市立立寄小4年の児童が、親子で昆虫標本作りに挑戦した。親子ら12組21人が参加し、チョウやセミなどをピンセットで注意深く扱いながら、発泡スチロールの板にまち針で固定。チョウの表面についた粉を「ミネート保存

海の保全考える

大度海岸で観察会

糸満

自然への理解を深める県

主催の「海の自然観察会」が7月29日、糸満市の大度海岸であり、親子連れら約60人が参加した。写真。サンゴ礁のリーフ近くを散策し磯の生き物たちに触れながら、自然の大切さを学んだ。



琉球大学特命研究員の鹿谷法一さんが講師を務めた。「海のお掃除屋さん」と呼ばれるクログモヒトデなどの生物について説明。サンゴの保全について「植えても環境が悪くては生えられない。みんなを守るためにどうすべきか考えよう」と呼び掛けた。高倉征人君(兼城小4年)は「いろいろな生き物に触れて興味があった」と話した。

新聞掲載
沖縄タイムス
2011年8月3日(水)

平成 23 年度博物館体験学習教室 「昆虫標本を作ろう」(まとめ)

□講師：琉球大学資料館（風樹館）学芸員 佐々木健志

：沖縄昆虫同好会会長 比嘉 正一

：沖縄昆虫同好会会員 松村雅史

□補助：琉球大学 学生 2 名、ボランティア（吉見、喜屋武くみ）

博物館班教育普及（池原、當眞）、文化の杜（中村、大濱）

〈事前の取り組み〉

- ・ 4/21(木)・・・講師（佐々木氏）との初打ち合わせ（博物館班 学芸員研究室にて）
一博物館普及（池原、當眞）、文化の杜教育普及担当（中村）

〈役割分担〉

- ・ 広報、抽選、応募者への連絡、資材買い出し（中村・大濱）
- ・ 日程調整、ボランティアへの呼びかけ、資材加工（発砲スチロール購入・切断）（當眞・池原）

■体験教室 **1日目**

1 日 時 7月29日（金）午前9時～午後12時

2 場 所 琉球大学風樹館

3 参加者 親子 12組（28名）

4 体験教室内容

8：35 公用車出発—池原/宮平(館)、中村/大濱(杜)、具志堅/幸喜(緊急雇用)

10：00～ 開会式（講師紹介等）

10：20～ 「標本の保管と展示の在り方、タイプ標本見学」風樹館資料室等
解説：佐々木先生

11：20～ 「昆虫採取の実際、実演等」風樹館横ビオトープ
解説と実演：佐々木先生・松村先生

12：00～ 講師によるまとめ（明日に向けての確認等）

2日目

1 日 時 7月30日（土）午前9時～午後3時

2 場 所 県立博物館・美術館 実習室

3 参加者 親子 12組（28名）

4 体験教室内容

9：30～ 受付

10：00～ 開会式（講師紹介等）

10：07～10：35 「昆虫標本の目的、標本作りの流れ、諸注意確認等」

10:35~12:00 標本作り開始(3つのグループに分かれ、講師がローテーションで解説)

12:00~13:00 * 昼食休憩 *

13:00~13:10 ^{りんぷん}鱗粉転写説明

~14:30 鱗粉転写作成

~14:40 講師まとめ

14:40~15:00 片づけ、アンケート記入

■ 一体験教室の様子と反省一 (今年度)

□事前準備(上記の役割分担から…)

- ・講師からの提案により、当日のボランティアの要請は控えた(理由:標本作りに慣れていないボランティアの方では、かえって指導が滞ってしまう為)、ただし、体験教室はボランティアの勉強の場でもある為、道具の配布、片付け係として2名のボランティアスタッフにお手伝いいただいた。
- ・昨年から引き続きの開催ということもあり、材料等の準備は滞りなく行えた。
- ・事前の連絡で、持参する昆虫の保管の仕方について通達してあったので、保存状態の良い昆虫が集まった。参加者全員が、自分で採集した昆虫を持参した。
- ・発泡スチロール購入の際に、カッターとスケールを持って行くと良い。(車に載るサイズにする為にカット代が出る為)
- ・ラベルは、事前にデータを送ってもらえば当日慌てない(事前に貰う予定が当日になり、切り取り作業が出た。)

□企画段階、当日の様子、今後の課題など

- ・意識の高い受講生ばかりで、とても充実した講座だった。
- ・名護からの参加ということで、2日間とも遅刻をした人がいたが、携帯電話で連絡を取ることができて対応がうまくいった。受付時に携帯電話の番号を控えておくことは必須だと感じた。
- ・時間配分がちょうど良い講座だった。
- ・2日間の連続講座ということで、前年度に比べ希望者は少なかったが、講師からも「意識の高い参加者が集まり、充実した内容だった」との感想があった。
- ・当日は、琉球大学の学生が2名お手伝いに来てくださり、顕微鏡の操作等を担当した。(弁当支給)。さらに普段見ることのできない高額な昆虫図鑑等も持参され、資料が充実した。
- ・2カ年連続で同じテーマの教室を開催することにより、受講者の動向や運営のノウハウを得るとともに、琉球大学(外部団体)との連携を図ることができた。

平成23年度

博物館体験学習教室

第3回講座

『台所でできる草木染』



期日 平成24年1月14日(土)
時間 9:15～16:30
場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

受け付け	AM	9:15	～	9:30
開講式及び諸連絡		9:30	～	9:45
講座(実習)《うこん染め》		9:45	～	12:00
月桃刈取り	PM	12:00	～	12:30
昼食		12:30	～	13:30
講座(実習)《月桃染め》		13:30	～	16:00
後片付け		16:00	～	16:15
作品鑑賞会並び閉講式		16:15	～	16:30

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成24年1月14日(土) 9:45 ～ 16:30

3 対象者

小学校3年以上の親子(一組2名)

4 募集人員

12組(多数の場合は抽選)

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

	受付	9:15	～	9:30
	開講式 <実習室>	9:30	～	9:45
	始めの言葉……司会 (文化の杜:大瀨)			
	講師紹介……教育普及担当 (池原)			
14日 (土)	講 座 <実習室>			
	《 う こん 》 染め	9:45	～	12:00
	月桃刈取り	12:00	～	12:30
	昼食	12:30	～	13:30
	《 月 桃 》 染め	13:30	～	16:00
	後片づけ	16:00	～	16:15
	鑑賞会並び閉講式	16:15	～	16:30
	始めの言葉……司会 (文化の杜:大瀨)			
	講師によるまとめ			
	記念撮影			
	終わりの言葉……司会			

7 講 師

江谷 紋子(染色家)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|----------------|------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 池原 |
| ② マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③ 受講生受け付け | 文化の杜 |

- | | |
|--------------|----------------|
| ④ 講師打ち合わせ | 池原・大濱・中村 |
| ⑤ 説明資料作成 | 池原・文化の杜:大濱 |
| ⑥ 報償費支払い事務 | 文化の杜 |
| ⑦ 材料・用具等の諸準備 | 文化の杜 博物館ボランティア |

(2)当日の役割分担

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収 | 文化の杜:大濱 |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介
司会
講師紹介 | 文化の杜:大濱
池原 |
| ③ 講座の進行 | 文化の杜:大濱 |
| ④ 材料等の準備及び配布 | |
| ⑤ 記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

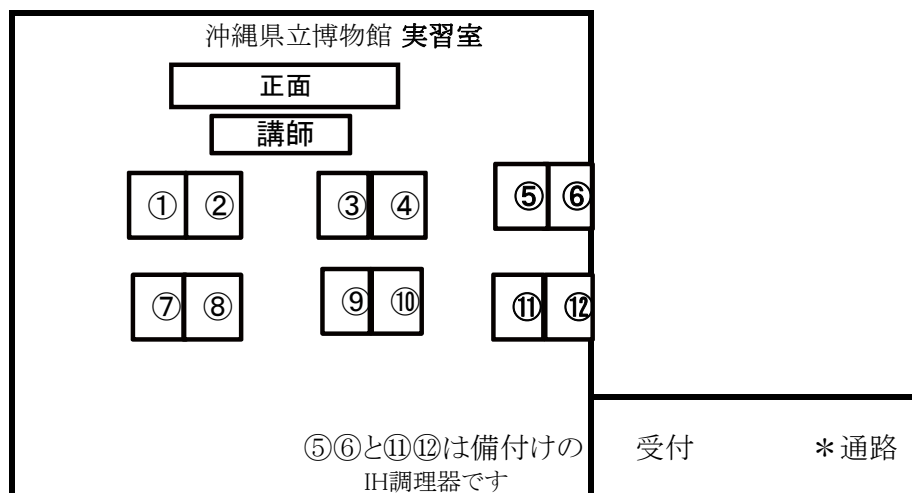
○準備するもの

- | | |
|------------|-----------------|
| ・IH調理器(9)台 | —IH調理器1台に、親子1組— |
| ・なべ(14)個 | ・ボール(7)つ |
| ・計量カップ(7)個 | ・さいばし(7)膳 |
| ・すくい網(7)本 | ・新聞紙 ・ふきん |
| ・レジュメ印刷 | |
| ・講師飲み物 | |

○受講生が準備するもの



- 作業ができる服装
材料費 1組(800)円

10 体験会場



2012,1,14 博物館体験学習教室 『台所でできる草木染め』

うこん 染め

時間	1の鍋	2の鍋	お話
5分	水__Lに うこん茶葉____gを入れる 綿布18g×4枚=____g		
15分	沸騰させる		染める布の準備 絞りの説明
20分	沸騰したら、中火で煮出す		絞り準備
7分	いったん火を消す うこん茶葉を取り出す 染液に布をつけて、火にかける		
15分	沸騰したら、中火にしてひたす		媒染剤を使う理由 媒染剤の作り方の説明
20分	火を止める さめるまで浸しておく	媒染剤をつくる 水__Lにみょうばん を布の重さの3%とかす (3%=2,16gなので約 3g)	
20分		布を媒染液の中に浸す 	空気が入らないように注意する。
5分	染液に戻す 沸騰させて火を止める		
20分	布を入れてさます 		
20分	絞りをほどいて 水に色が出なくなるまで洗う 軽く絞り干す 仕上がり		絞りのほどき方の注意 洗い方の説明

2012,1,14 博物館 体験学習教室 『台所でできる草木染め』

月桃 染め

時間	1の鍋	2の鍋	お話
5分	水__Lに 月桃____gを入れる 絹布__g×2枚=__g		
15分	沸騰させる		染める布の準備 絞りの説明
20分	沸騰したら、中火で煮出す		絞り準備 
7分	いったん火を消す 月桃を取り出す 染液に布をつけて、火にかける		
15分	沸騰したら、中火にしてひたす		媒染剤を使う理由 媒染剤の作り方の説明
20分	火を止める さめるまで浸しておく	媒染剤をつくる 水__Lにみょうばん を布の重さの10%とかす	
20分		布を媒染液の中に浸す 	空気が入らないように注意する。
5分	染液に戻す 沸騰させて火を止める		
20分	布を入れてさます		
20分	絞りをほどいて 水に色が出なくなるまで洗う 軽く絞り干す 仕上がり		絞りのほどき方の注意 洗い方の説明

平成 23 年度博物館体験学習教室「台所でできる草木染め」(まとめ)

○講師 江谷紋子(染色家)

○事前準備

- ・ 広報、抽選、応募者への連絡(中村・大濱)
- ・ 材料・用具買い出し(中村・大濱)

○事前打合せ

第 1 回=2011 年 10 月 26 日(水) 14:00~15:30 (顔合わせと内容確認、作品見本確認)

第 2 回=2011 年 11 月 22 日(火) 13:00~16:30 [うこん染めのリハーサル]

(手順と時間の確認)

第 3 回=2012 年 1 月 6 日(金) 9:00~12:00 [月桃染め見本確認と用具の最終確認等]

(ボランティア参加無しのため、染めのリハは取止め)

○前日準備

- 1 2012 年 1 月 13 日(金)
- 2 中村・大濱
- 3 作業内容
 - ・ 会場準備(テーブル、いすの配置、機器の準備等)
 - ・ IH 調理器の確認(今回() 個の IH 調理器対応なべを購入した:保管は実習室棚)

○体験教室当日

- 1 日時 2012 年 1 月 14 日(土) 午前 10 時~午後 4 時
- 2 参加者 親子 13 組 21 名: *内 4 組 8 名キャンセル
ボランティア: 参加無
職員: 池原、當眞、中村、大濱
天候: 午前・晴れ一午後・曇り
- 3 体験教室の様子
 - 9:00~ 講師の先生着
 - ~9:15 用具の配置(講師持参分)
 - ~9:30 受付
 - 9:30~ 9:45 開会式
 - 9:45~12:00 <<うこん染め>>
 - 12:00~12:30 月桃刈取り
 - ~13:30 昼食
 - 13:30~16:00 <<月桃染め>>
 - ~16:15 片づけ
 - 16:15~16:30 閉会式

—体験教室の様子と反省—

●事前打合せ、準備

- ・事前の打合せを3回行うことで、実際のタイムスケジュールの把握と待ち時間の活用方法を考えることができ、当日スムーズに展開することができた。
- ・館の畑の月桃（当日採取予定）を実際に染めるなど、講師の熱心な事前研究で、見本を見ながらの打ち合せができた。見本を実際に手で触れてみることで、布の素材感などが理解でき、色々と意見が出た。
- ・材料の取り寄せ等、講師の先生自ら行っていただき、とても感謝です。
- ・多くの種類と手間がかかる染め体験が、事前指導を通して理解することができた。

●受付・開会式

- ・参加者の中に、自宅でも継続して草木染めを研究をしている親子がいた。
- ・自然の風合いの草木染めに対し興味のある方々が参加し、皆優しく和気藹々な雰囲気であった。

●展開

- ・手元や黒板（掲示物）を映すカメラの使用は、後方席の参加者にも見やすく良かったと思う。
- ・参加者の中でケガもなく安全に取り組むことが出来た。
- ・待ち時間も先生の講話（着物の作り、染めの歴史等）を織り交ぜることで、子どもたちも落ち着いて取り組めたと思う。
- ・スタッフが急遽ヨモギでの染め体験をすることができ、比較見本として提示することができた。
- ・実習室からの臭いが、エントランスまで届いていたという報告があった。換気にもっと気をつける必要があったと考える。
- ・館の資料（ふれあい体験室の着物やキット）も紹介できたことで、今回の染めの体験を身近な衣服へと思考をつなげられたのではないかと考える。
- ・予定通りの時間配分と進行ができたのには驚いた。講師の段取り（材料等を容器に小分けに準備して頂いた）が時間や手間を省くことになったと考える。素晴らしかった。

●閉会式・片づけなど

- ・備え付けのIH調理器は140CM前後の子どもには作業のしずらい高さであったため、途中テーブル上のIH調理器の使用に切り替えた。
- ・参加者と協力して片づけをすることで、時間より早く終了することができた。

●その他

- ・インフルエンザの影響で、当日4組8名のキャンセルが出てしまった。
- ・午前中は天気にも恵まれ、外に干した作品が1時間で乾いた。午後の作品は干す時間が無かったため、新聞紙に挟んで持ち帰った。

体験教室『台所でできる草木染め』

参加人数 9組 (定員12組)

【2011年1月14日(土) 実施分】

回答者数 9人

※単位=人

問1、性別

男性	女性	無回答	合計
1	8	0	9

問2、年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
2	0	0	3	1	4	0	0

問3、交通手段

自動車	モノレール	公共バス	観光バス	バイク	自転車	徒歩	その他
7	0	1	0	0	1	0	0

問4、沖縄県立博物館・美術館を何で知ったか？

沖縄タイムス	琉球新報	チラシ(館内)	チラシ(館外)	館内ポスター	友の会	以前講座に参加して	その他	ネット
0	2	4	6	0	0	0	0	0

問5、今回の講座の内容はどうだったか？

有意義な内容だった	適当	不満	無回答
8	1	0	0

問7、問6で「不満」と回答した方へ質問、今後改善すべき点は？

※ 電話での対応については、文化の杜スタッフに呼びかけているが、不十分な点があったとのこと。今後は、更に強化していく。

「内容は充実していたが電話で問い合わせた時の案内が不十分でした」

問8、今まで当館で開催された中で一番印象深い講座は何か？

※ 初参加の方もいるが、以前博物館の講座に参加した方もいる。

「初めて参加しました(他3件)。先生もとても素敵な方で楽しかったです。」

「はやぶさに関すること」

「琉球舞踊」

「土鈴」(美術館ワークショップか?)

問9、次に博物館で開催してほしい講座や講師の希望など

※ 沖縄の文化を親子でできる体験教室や身近なものを利用したモノで制作する講座で学びたいという声がある。

「身近な自然の材料を使って生活に役立つ、又は生活を彩るモノで作る講座。沖縄の歴史など文化に関する講座。」

「琉球の香について(唐に渡った時、三重城で伽羅をたいて見送った)そのときに使用した香木は琉球または渡来のもの？」

「子どもと一緒に体験できる講座を希望します。」

「琉球料理を教える講座」

問10 その他感想や質問など

※ 参加者の多くが楽しく学べたという内容であった。「自宅でもチャレンジしてみます！」という意見もあり、参加者にとって草木染を始めるきっかけにもなった様子が伺える。

感想

「ワークショップがあつて良かったと思う。」
「もっと子供向けのワークショップを増やしてください。」

肯定

「いろいろ驚きや発見があり楽しい講座でした。作品も出来上がり嬉しく思います。」
「なごやかな雰囲気楽しい時間でした。お家でもチャレンジしてみます。ありがとうございました。」
「又、草木染めを開催してください。今日はありがとうございました。できれば大人も参加できる募集でお願いします。」

否定

「今日はわかりやすく、先生も質問にきちんと答えてくださってとても内容の良い講座でした。一日かかる講座で館内で飲食すると場所がないのはどうかと思いました。(講座中の水分補給はなくても良いのか)親子連れには時間的に長すぎるかもしれないと思いました。」
→ 飲食に関しての理由をきちんと伝えることが必要である。

おきなわけんりつはくぶつかん・びじゅつかん
沖縄県立博物館・美術館
 はくぶつかんたいけんきょうしつ
平成23年度 博物館体験教室

http://www.museum.pref.okinawa.jp/

2011年
5月21日(土)
 10時～13時
 (受付9:45)



つくって、食べて、お話を聞こう。

「ポーポー・テンピンを作ろう」

対象：親子15組(小学校1年生以上のお子さんとその保護者)
 ※親子が優先となります。大人のみ参加は、定員に満たない場合ご参加いただけます。
 ※施設の都合上、申込者以外の方のご参加はできません。
 ※持ち物など詳細は、後日ハガキでご通知します。

会場：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室(1F)

参加方法：事前申込制 4/23(土)～5/7(土)末館または電話
 ※抽選の上、参加頂ける方のみ5/11までにハガキでご通知します。

参加費：1組につき300円

講師：松本嘉代子氏(松本料理学院学院長)

ポーポー・テンピンは、菓子名からもわかるように中国菓子の影響を受けたものです。沖縄で昔から親しまれているお菓子について、ユッカヌヒー(旧暦の5月4日、今年は6月5日)との関係や、起源について松本氏にお話を伺います。また、そのあと、親子で調理実習を行います。(ポーポー・テンピンはその場で試食します)

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

おきなわけんりつはくぶつかん・びじゅつかん
沖縄県立博物館・美術館
 はくぶつかんたいけんきょうしつ
平成23年度 博物館体験教室

http://www.museum.pref.okinawa.jp/

昆虫標本を作ろう



日時：
 1日目 7月29日(金)10時～12時(受付9:45)
 琉球大学資料館(風樹館) ※現地集合・解散
 2日目 7月30日(土)10時～15時(受付9:45)
 県立博物館・美術館 博物館実習室 2F(2階)※閉館

講師：佐々木健志氏(風樹館学芸員)
 比嘉正一氏・松村雅史氏(沖縄県昆虫同好会)

対象：小学校3年生以上のお子さんとその保護者15組
 ※2日連続参加できる方が対象となります
 ※2人1組でご参加ください
 ※保護者の都合上、申込者以外のご参加はできません

参加費：600円/1組
 申込方法：事前申込制(T.E.L・末館)
 申込期限：7/13(水)～20(水)
 ※応募者多数の場合は、抽選。
 ※参加いただける方のみ7/22(金)までにハガキでご連絡します。(詳細はハガキでご連絡します)

昆虫標本の作り方や、その意義、楽しさを教えます。琉球大学資料館(風樹館)にあるビオトープ(野外)での自然観察会の後、2日目は昆虫標本を作ります。参加者は、当日まで各自昆虫採集した上で、講義にご参加ください。(採集した昆虫は、冷凍庫に保管し、当日持ってきてね。)
 ※講義の中で、昆虫採集は行いません。自分が持ってきた昆虫を標本にして持ち帰ります。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

おきなわけんりつはくぶつかん・びじゅつかん
沖縄県立博物館・美術館
 はくぶつかんたいけんきょうしつ
平成23年度 博物館体験教室

http://www.museum.pref.okinawa.jp/

台所でできる

草木染め

うこんとげつとうで布をそめてみよう



2012年
1/14日
 9時半～16時半(受付9:15)

対象：親子12組(小学校3年生以上のお子さんとその保護者)
 ※親子が優先となります。大人のみ参加は、定員に満たない場合ご参加いただけます。
 ※会場の都合上、申込者以外のご参加はご遠慮ください。
 ※熱湯を扱います。作業中は、必ず保護者同伴をお願いします。
 (小さいお子さんの同伴はできません。ご了承ください)

会場：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室(1F)

参加方法：事前申込制 12/13(火)～12/28(水)末館または電話
 ※抽選の上、参加頂ける方のみ1/15までにハガキでご連絡します。

参加費：1組につき800円

講師：江谷 紋子氏(えたに あやこ/染作家)

現在は、糸や布を染めるために、便利な化学染料がありますが、昔は植物の葉や土など、自然の中から、色を染める材料を得ていました。
 今回の教室では、「うこん」と「角根」で、ハンカチと風呂敷を染めます。どんな色に染められるか、それは参加してのお楽しみ！また、博物館にあるきれいな植物を現ながら、染(そめ)と織(おり)の違いや、図を材料に染めていたのか、お話しします。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間：9時～18時(金・土は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)
 新年は、1月1日(日)から閉館します。1月4日(水)は振替休日となり、1月5日(木)から通常どおり開館いたします。
 1月29日(水)～12月31日(土)は休館します。

伝統料理を通して沖縄の文化を学ぶ体験学習「親子でテンピン・ポーポーをつくろう」が那覇市の県立博物館・美術館で開かれた。松本料理

伝統料理通し文化学ぶ

体験学習に親子30人

学院の松本嘉代子学院長が講師を務め、参加した親子30人に調理法を指導。子どもは自分たちで作ったテンピンとポーポーを頬張り「おいしい」と笑顔を見せた。

テンピン、ポーポーのどちらも旧暦5月4日のユッカヌヒーに子どもの成長を祝うために作られてきた。松本さんは「同じ時期に同じ料理を食べることで、人の輪や親子の絆を深めることができる」と語り、行事料理を作ることの大切さを伝えた。

新聞掲載
 琉球新報
 2011年5月22日(日)

IV 博物館文化講座

1 博物館文化講座実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

*野外観察（第395回、第406回）については、別途日程を設定する。

場 所：当館講堂（3F）

*第411回については、第2会場（博物館講座室）を設置。

(4) 受講方法

当日先着200名（事前申込不要）

回数	期 日	演 題	講師名	定 員	参加者
407	4月16日	ゲノムでみるアジアの中の琉球人	木村亮介	200	105
408	5月14日	時間ってなんだろう？ —ナマコを眺めながら考えたこと—	本川達雄	200	140
409	6月 4日	「はやぶさ」から貰ったもの	細田聡史 小野瀬直美	200	200
410	7月16日	沖縄の祖先祭祀 一年中行事を通して—	崎原恒新	200	235
411	8月20日	ISSEY MIYAKE・伝統的テキスタイルとパリ・コレクション	藤原大	200	260
412	9月17日	古琉球辞令書の世界	高良倉吉	200	175
413	10月 8日	漆の美 —琉球のわざ・日本のわざ—	室瀬和美	200	95
414	10月22日	沖縄の鉄道の歴史	金城功	200	135
415	11月19日	沖縄の星と石垣島	宮地竹史	200	135
416	12月17日	博物館収蔵秘話	宮城篤正	200	43
特別	2月11日	琉球と袋中上人	知名定寛	200	235
417	2月18日	琉球料理と食育	松本嘉代子	200	98
418	3月17日	グスクめぐり（北部）	當眞嗣一	40	42

2 文化講座の実施状況

第407回文化講座「ゲノムでみるアジアの中の琉球人」

日時 2011年4月16日(土) 14:00～16:00 参加者105名

講師 木村 亮介(琉球大学亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構 特命准教授)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第407回文化講座「ゲノムでみるアジアの中の琉球人」と題して行われた。ゲノムとはDNAから成る生物の遺伝情報を指す言葉。その解析の最新研究の分野から人類の進化の過程を解き明かそうとする講話だった。ヒト集団の遺伝学の基礎の解説から始まり、アジア地域の遺伝的特徴、さらに琉球人の起源に迫っていった。

アジア太平洋における人の移動は、東南アジア近辺から拡散し、分岐と混血を繰り返していった。琉球人の起源について一番近い集団はどちらかと言うと本州人であるだろう。又、遺伝的形質である顔の三次元画像解析からのウチナーヅラの研究成果の報告もあった。今後これら最新の研究により、本土における縄文人や渡来人、沖縄における貝塚時代人などの科学的根拠に基づいた正確な顔の復元も夢でなくなるだろう。

この講座への参加をきっかけに、博物館収蔵資料の港川人にも興味・関心を持って頂けたらと思う。



ゲノム学の視点からの講演



人類の分布と進化のなぞにせまる



琉球人の起源はどこからか

第408回文化講座「時間って何だろう？ - ナマコを眺めながら考えたこと -」

日時 2011年5月14日(土) 14:00～16:00 参加者140名

講師 本川 達雄(東京工業大学大学院生命理工学研究科教授・歌う生物学者)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

琉球大学に勤務していた時に、離島で経験した沖縄独特の時間の概念や、ナマコの観察を通して時間に対する興味を持った話から始まった。生物には時間を感じる特別な感覚器官は無く、時間を体感できるものは心臓の拍動である。拍動の速度は動物ごとに異なり、それと仕事量の関係から、象のような長寿のものやネズミのような短命のものの時間の世界は異なる。

明治以降、特に第二次大戦後の日本は、それまで自然体に行動していた生活様式から、機械(時計)に合わせた社会に変容していった。仕事ができる人とは実は時間内にできる人の評価であり、例えば今の入試制度は時間内の処理能力を図っている。日本人の生活感覚でとらえられていた時間の概念の中に、西洋人のとらえる時間の概念が入ってきたことで考え方が狭くなってしまった。講師自らが作詞作曲した歌を織り交ぜながら、今の私たちの生き方をふり返らせてくれる講演だった。



会場いっぱいの参観者



会場からの質問に答える本川氏



歌を歌い講演する本川氏

第409回文化講座「はやぶさから貰ったもの」

日時 2011年6月4日(土) 14:00～16:00 参加者200名
講師 細田 聡史 (JAXA 月・惑星探査プログラムグループ 開発員)
小野瀬直美 (JAXA 研究開発本部 未踏技術研究センター スペースデブリユニット 研究員)
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

2003年5月、小惑星からのサンプルリターン(試料を採取し持帰る探査)を目的に“はやぶさ”が打ち上げられた。それから7年の歳月と幾多の技術的困難を乗り越えて、2010年6月地球に帰還した。本講座は11月の『宇宙展』のプレイベントとしての位置づけであり、子どもを含め多くの参観者であふれた。

JAXAよりイオンエンジン開発員である工学博士の細田氏、はやぶさの試料採取プログラム担当の小野瀬氏の2名が来館し講演が行われた。宇宙誕生の起源を探るべく発射された宇宙船の旅は擬人化され「はやぶさ君の冒険日誌」と題して制作された小冊子にもとづき、二人の掛け合いで楽しく進行していった。まず日本のロケット開発の歴史からはじまり“はやぶさ”が向かう小惑星“イトカワ”でのミッションプログラムの数々が、わかりやすく解説された。

このプロジェクトの成功は工学と理学の成果であり、苦境でも諦めない研究員のしなやかな強さと日本の技術の誇りでもある。そして次の世代に伝えることの大切さ(教育)を、はやぶさから貰った。



“はやぶさのバヤ”の異名を持つ小野瀬氏



講演後子どもたちに囲まれる細田氏



イオンエンジンとは—

第410回文化講座「沖縄の祖先祭祀 一年中行事を通して—」

日時 2011年7月16日(土) 14:00～16:00 参加者235名
講師 崎原 恒新
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

社会の変化とともに沖縄の年中行事の一部が消えたり、簡略化されている。個々の年中行事の真の目的が忘れ去られ、拝んでいる者が目的を知らないまま祭祀を行っている。まさに、沖縄の伝統行事の崩壊寸前の状態であり、形骸化が進んでいる。本講座はそれぞれの行事の目的を再確認していくものである。

当日館内で行われている子ども向けイベントとは異なり会場は年配の聴衆で満席の状態であり、講師の崎原氏の方言を交えながらの講話はとてもわかりやすく楽しく進行していった。前置きとして、同じ行事であっても地方によって地域によって、それぞれの家々によって内容のとらえ方が異なることを確認して始まった。

年中行事の目的は豊作祈願と健康祈願、そして子孫繁盛などであり、拝む人、拝む対象、場所、日時、そしてお供え物などについて解説された。その後正月の若水から年の夜(トウシノユール)までの、それぞれの行事についてユーモアあふれる解説がおこなわれた。講演後も多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえた。参観者の中には子どもも多く、大人も含め沖縄の伝統文化について考える良い機会となった。



多くの参観者が年中行事を考える



ユーモアあふれる語り口の崎原氏



子どももともに考える楽しい講演

第411回文化講座「ISSEY MIYAKE・伝統的テキスタイルとパリ・コレクション」

日時 2011年8月20日(土) 14:00～16:00 参加者260名

講師 藤原 大 (ISSEY クリエイティブアドバイザー、株式会社・DAIFUJIWARA 代表)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第411回文化講座は、「ISSEY MIYAKE・伝統的テキスタイルとパリ・コレクション」と題して、5年間にわたりミヤケイッセイのクリエイティブアドバイザーとしてデザインチームをリードしてきた様子が解説された。

パリで開催される年二回(春夏、秋冬)のコレクションの舞台裏の姿が、映像とともに紹介された。普段知ることのできない服飾デザインの最先端の世界。毎回テーマをもってコレクション発表に臨むが、それはインスピレーションとわずかな期間でチームの総力を挙げて取組むものである。アイディアは普段人の多い生活の中で浮かんでくるもので、笹舟に乗っているように自然にまかせて動いている。

沖縄との関わりは“伝統的なもの探し”のために来たことから始まる。沖縄には多くの種類の伝統文化があり、本物にふれ本物を知ることができる。現代社会における伝統的テキスタイルとの融合の提案例は、沖縄における伝統文化について考えていく機会を与えてくれる講演であった。



講演をする藤原氏



パリ・コレの華やかな映像



デザイン現場の舞台裏を語る講師

第412回文化講座「古琉球辞令書の世界」

日時 2011年9月17日(土) 14:00～16:00 参加者175名

講師 高良 倉吉 (琉球大学教授・文学博士 琉大附属図書館長)

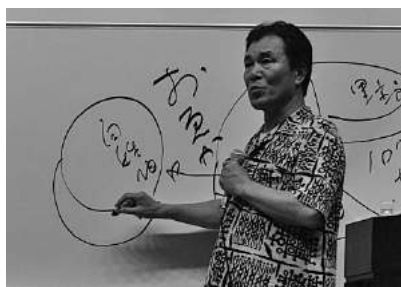
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第412回文化講座は、「古琉球辞令書の世界」と題して、一枚の辞令書を読み解きながら、古琉球時代の世界を考えていく講演であった。初めに「琉球辞令書」について、制作年代ごとに分類された3つのタイプと構成要件の解説があった。現在内容が確認できる古琉球の辞令書は62件。そのうち幻と言われていた「北谷掟宛辞令書(1577年)」の写しが本館に寄贈された。『廉姓家譜』の中で発見された。この辞令書を解説していく過程は、まるでサスペンスドラマを読んでいるような感覚で、参観者は当時の人々の生活の様子に思いを巡らせていった。辞令書の文章からは、土地の割り当てや首里王府と地方を行き交う役人の様子、地方へ下りていく役人の姿、さらに首里城の行政組織としての役割が解き明かされていった。

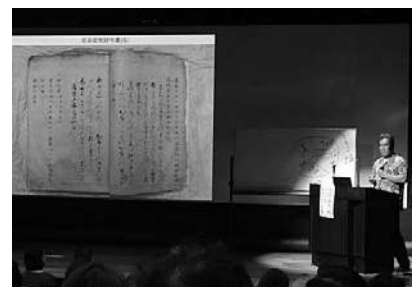
20年間の歳月をかけて、ライフワークとして琉球辞令書を研究している講師の解説は、説得力と聴衆を引き付ける魅力にあふれた講演であった。



講演をする高良氏



辞令書を読み解く



歴史の謎を紐解く世界に聴衆も聴き入る

第413回文化講座「漆の美－琉球のわざ・日本のわざ－」

日時 2011年10月8日(土) 14:00～16:00 参加者95名

講師 室瀬 和美(重要無形文化財〈蒔絵〉保持者)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第413回文化講座は、「漆の美－琉球のわざ・日本のわざ－」と題して、いわゆる人間国宝である室瀬氏を迎え、漆工芸についての講演がおこなわれた。漆芸家としての創作活動だけではなく、国内各地の漆工芸文化財の修復や復元に広く関わる中から、日本人そして琉球の漆工芸のわざの数々にまつわる解説がおこなわれた。植物でありながら木の部首がない漢字の由来(傷をつけると水が出る)からはじまり、その歴史や素材について解説されたが、北海道垣の島B遺跡で2000年に発見された副葬品が、何と9千年前のものという調査結果が出たという。

耐久性があり、古来より日本人の生活に深く結びついてきた漆工芸。近世のヨーロッパの宮廷文化で愛され、数多くの作品が輸出されていった。その中で琉球王国時代の美しい作品が画像で紹介されていった。かつて隆盛を誇った琉球漆器が現在危機に瀕している。今こそ当時の漆工芸の復元を通して、技術の研究を行うことが必要ではないか。沖縄の伝統工芸の今後について示唆を与える講演であった。



人間国宝(技術保持者)である室瀬氏



漆器の世界を語る



美しい漆器の品々が紹介される

第414回文化講座「沖縄の鉄道の歴史」

日時 2011年10月22日(土) 14:00～16:00 参加者135名

講師 金城 功

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

1914年大正元年に沖縄県は、当時53万円にのぼる借金をして、那覇と与那原間9.7kmの鉄道を開通させた。製糖業の拡大に伴い、大量輸送機関の必要性がその背景にあったが、予算の関係で世界標準の軌間1,435mmよりも狭い762mmでの建設が、明治43年の「軽便鉄道法」の制定によって決まった。県が運営する県鉄道(軽便鉄道)建設までの経緯の解説は、当時の人々の苦勞を彷彿させるものであった。

本土では、明治5年の鉄道開通以来、軍部との関係で次々と国有化されていったが、沖縄県の場合は軍の施設が無かったために県が運営する形になったこと、与那原の駅だけが何故かコンクリート製の駅舎だったこと、沖縄県の鉄道の廃業日は1945年3月26日であることなど、当時の歴史背景と聴き取りやフィールド調査等に基づく解説が熱く語られた。



沖縄の鉄道の歴史を紹介する金城氏



担当学芸員による講師の紹介



ケービン鉄道の世界をイメージする聴衆

第415回文化講座「沖縄の星と石垣島」

日時 2011年11月19日(土) 14:00～16:00 参加者135名

講師 宮地 竹史(国立天文台、石垣島天文台副所長)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

開催中の『宇宙展』の関連催事としての位置づけの講座である。2002年石垣島に国立天文台の大型電波望遠鏡が、2006年には通称“むりかぶし望遠鏡”が作られた。石垣島にそれら望遠鏡が配置されたのは、日本で最南西端という地理的位置と、上空の気流が安定し夏場の晴天率が良いこと。さらに南十字星を含め88の星座中84星座が見え、21個の一等星がすべて観察できること等、石垣島の自然条件のすばらしさに基づく観察環境の良さが説明された。また、古くから星や月など天文にかかわる文化(古謡、舞踊、民話)を持つ八重山の島々の人々の暮らしや、星と人間の現代までつながる関わりが紹介された。

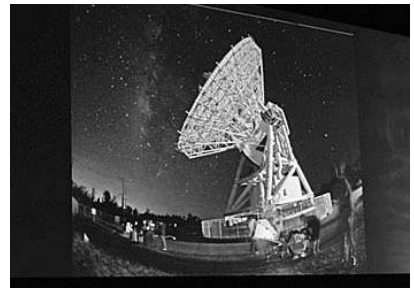
石垣島天文台が果たす役割は宇宙観測だけに留まらず、天文学の学校並びに生涯教育への広報普及が目的でもある。様々な発見を続けている石垣島天文台に、一人でも多くの方々が訪問し、宇宙への関心を持ってもらいたい。高校生をはじめ大学等と連携した取り組みを今後、より積極的に進めていきたい。



講演をする宮地氏



スライド「石垣島の星見石」



スライド「VERA」

第416回文化講座「博物館収蔵秘話」

日時 2011年12月17日(土) 14:00～16:00 参加者43名

講師 宮城 篤正

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

太平洋戦争・沖縄戦で多くの尊い人命とともに、琉球王朝時代より引き継がれていた文化財の数々が破壊され消失してしまいました。しかし、戦後の苦しく厳しい生活の中から、人々はたくましく復興に向けて取り組んでいった。その中で、かつての文化を取り戻すべく廃墟の中から文化財の収集作業が始まり、1945年の東恩納博物館や1946年の首里汀良町の博物館ができていった。その後首里の当蔵町や大中町の博物館時代を経て現在に至る。

当時の博物館歴代学芸員による収集キャラバンの解説や作品収集にまつわる思い出の数々が画像データと共に紹介されていった。また、新聞記事と合わせて、沖縄の骨董ブームの影響で違法に収集された品々についてのエピソードは当時の関係者の苦勞が垣間見ることができ、これからの文化財の収集の在り方について示唆を与えるものであった。



会場の様子



当時の新聞記事を手で解説する宮城氏



次々と映し出される収蔵品の数々

特別文化講座「琉球と袋中上人」—企画展関連催事

日時 2012年2月11日(土) 14:00～15:30 参加者235名

講師 知名 定寛(神戸女子大学 文学部教授)

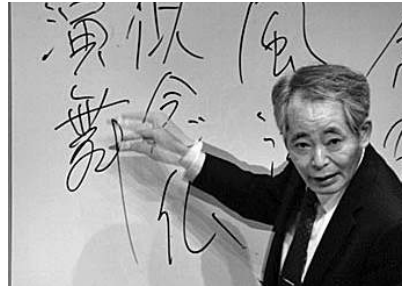
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

企画展『琉球と袋中上人展』の関連催事として、仏教史、特に琉球の仏教伝播研究の第一人者である知名定寛先生を招いて講座を開催した。同展のサブテーマに“エイサーの起源をたどる”とあることから、今回の講座はエイサーと袋中上人の関係を考える内容となった。

歴史学の観点から、先行研究や現存する古文書をはじめ、絵画・新聞資料にもとづく分析と解説には説得力があり、聴衆と共に歴史の謎を解き明かしていく魅力ある講座となった。エイサーはいつ、誰が、どこから始めていったのか、エイサーという呼び名はいつ頃からなのか。現在では、沖縄の大衆文化の一つとして華やかに演じられているエイサーの起源について考えた。



講演をする知名氏



ホワイトボードを活用



会場の様子

日本第417回文化講座「琉球料理と食育」

日時 2012年2月18日(土) 14:00～16:00 参加者98名

講師 松本嘉代子(松本料理学院 学院長)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

琉球料理と沖縄料理の違いは何か。琉球料理とは、沖縄独特の調理法と食材を使ったものであり、沖縄料理とは、戦後様々な文化からの影響を受け入れてきて発展したものである。講演前半は、先人の培ってきた沖縄の食文化についての解説がおこなわれた。特に中国との交易時代、冊封使との兼ね合いで調理法が継承・発展し、その後日本の影響を受けながら沖縄独自の食文化が形成されてきた。しかし、先の大戦の影響を含め、資料が無かったことが現在の混乱を招いている。観光立県として毎年多くの観光客が来る沖縄において、その底辺を支えてきたはずの食文化がないがしろにされている。特に子どもへの影響は深刻であり、このままでは琉球料理の文化が消えてしまう。講師自ら調理した琉球料理の数々が映し出され、それぞれの食材や調理法の特徴が解説された。

いつ、何を、どれだけ、どのようにして、誰と食べるのか?各家庭で、親子で行事食を食し、琉球料理を考えていくこと(食をとおした教育)が今とても重要である。



料理関係者も数多く参加



講演をする松本氏



スライド「重箱」

第418回文化講座「グスクめぐり」

日時 2012年3月17日(土) 9:00～17:40 参加者42名

講師 當眞 嗣一(沖縄考古学副会長)

場所 名護グスク、今帰仁グスク

第418回文化講座は、沖縄考古学副会長當眞嗣一氏をお招きして北部の「グスクめぐり」バスツアーを行いました。平成21年度の中南部地区、22年度の南部地区に続く締めくくりのグスクめぐりだった。

名護グスクは、自然の地形の特徴を活かした中世を代表するグスクであるが、石垣が無いのでこれまであまり注意されずに道路開発などが進み、現在はむしろ桜の名所として有名である。南口の階段を登りながら、斜面を切り取った段々状の削平地(曲輪)解説は、敵の侵入を防ぐ防御側の視点を具体的にイメージさせるものであった。

今帰仁グスクでは初めに、模型を使ってこれまでの発掘調査研究から見てきた周辺集落を含む復元の実態が解説された。石垣の高さや形状の意味、海や陸から攻めてくる敵から如何に防御するのか。当時の人々の視点に立ってグスクの成り立ちを考えさせる現地研修講座となった。



名護グスク



模型を前に解説する當眞氏



今帰仁グスク

(池原 盛浩)

沖縄県立博物館・美術館
第415回 博物館文化講座

特別企画展「宇宙展」
11月17日～19日 関連行事

10月17日(土) 11月19日(土) 11月20日(日) 11月21日(月)

11月19日(土) 14時～16時(開場13時半)
200名(予約不要、当日先着) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

●開館時間 午前9時～午後6時(金・土は午後5時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館
第416回 博物館文化講座

12/17 2011年 土
午後2時～4時 入場無料
(開場1時半) ～美術工芸品～

博物館収集秘話

沖縄は今を去る66年前の太平洋戦争・沖縄戦によって、多くの尊い人命を失い、家族や財産、文化財さらには美しい自然景観まですべてを破壊、消失しました。戦後の状況は筆舌に尽くしがたく、人々の生活は貧しかった。しかし、そのような状況におかれても人々は復興の意欲を燃やし、仕事に励みました。戦後、心ある多くの人々が戦禍の中から文化財の破片をひとつひとつ拾い集めて、博物館に協力しました。かつて失われた琉球王國文化へのあこがれ、郷土の芸術や芸術、音楽は人々に生きる希望と勇気を与えたので。近年首里の地で活動してきた博物館に新しい美術館が併設されて平成19年11月おもろまちに移転・開館しました。現代の情報化、グローバル化する時代に対応するためのあり方を考える時、改めて原点に立ち寄り、今後の方向性や課題に対してヒントが得られるかもしれません。今日は、戦後直後の博物館の収集活動にふれながら、日本復帰前後の約14年間に及ぶ体系的収集活動について振り返りたいと考えています。

●開館時間 午前9時～午後6時(金・土は午後5時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

キーワード: 琉球人、心拍、琉球料理、琉球音楽、琉球美術、琉球工芸、琉球文芸、琉球民俗、琉球歴史

沖縄県立博物館・美術館
特別文化講座

琉球と袋中上人

11月11日(土) 14時～15時半
(開場13時半) 200名(予約不要、当日先着) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

●開館時間 午前9時～午後6時(金・土は午後5時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

キーワード: 琉球料理、庶民料理、琉球料理、重箱、長寿、土産工芸、医薬品、スローフード、スローライフ

沖縄県立博物館・美術館
第417回 博物館文化講座

琉球料理と食育

2/18 2012年 土
14時～16時(開場13時半) 200名(予約不要、当日先着) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

●開館時間 午前9時～午後6時(金・土は午後5時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館
第418回 博物館文化講座

北部バス見学会

喜望峯一帯の案内のもと、沖縄北部の
グスクを巡ります。
グスク周辺の楽しみ方やグスクを囲み
歩くポイントをお伝えします。



グスクめぐり

2012年
3/17 土

講師: 当真嗣一氏
(沖縄考古学会副会長)

9:00~17:30 (集合8時45分)

応募期間: 2月17日(金)~3月2日(金)

40名(事前申込の上、抽選)

申込方法: 来館または電話

参加費: 1,800円 (バス代、高速代、保険代)

対象: 小学3年生~大人 (但し、小学生は保護者同伴のこと)

※当選者には、3月7日(水)までにハガキで詳細を通知します。
ご参加頂ける方のみご連絡となりますので、ご了承ください。
※足場が悪い道が多岐です。団体行動となりますので、
ご検討の上、ご応募ください。



見学コース

9:00 当館駐車場→10:30~12:45 名護城跡・給食(2時間15分)→
13:30~15:30 9世紀城跡(2時間)→17:30 当館駐車場

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0005 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間: 9時~18時(金・土は20時まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜祭日の時は、翌平日) 振替: 中研、大研

県立博物館・美術館で開かれた第417回博物館文化講座で「琉球料理と食育」と題し講演した松本料理学院の松本



嘉代子学院長。琉球料理の調理法、食材の組み合わせなどが栄養学の観点から見ても「昔の人はどうして知っていたのか」と感心する」と、その優れている点を強調した。

先人の食の思想生かそう

魚眼 レンズ

現代では、子どもたちの食生活で塩分、糖分、脂肪が多いこと、さらに県民1人当たりの野菜摂取量は全国最下位であることなど、これまで培ってきた「食の思想」が生かされていないと残念がる。チャンプル、ソフシーなどさまざまな調理法に秘められた知恵を具体的に披露。「まずは行事料理から入って親しんでもらいたい」。地道な取り組みこそが必要と説いた。

2011/2/22 タイムス掲載
第417回文化講座
「琉球料理と食育」

県立博物館・美術館で開催中の「琉球と袋中上人」関連催事で講演した神戸女子大学教授の知名定寛さん。来琉した浄



土僧袋中上人がエイサーを広めたという有名な説について、先行研究や古文書を年代別に掲げながら説明した。説の根拠は「琉球国由来記」。ここでは「念仏」が綱引きや囲碁と同様の「遊戯門」

魚眼 レンズ

エイサー 袋中起源説否定

という項目に入っていることを指摘、ひたすら念仏を唱える浄土宗の教えからすれば、踊りで教えを広めるなど「雑行」になってしまおうと袋中起源説は否定。施餓鬼供養で行われていた芸能が庶民によって形を変えていった過程ではないかと解説した。その上で「袋中の真実の姿は、それまで支配者のためだった仏教の救いを庶民に開放したことにある」と結んだ。企画展は19日まで。

2011/2/15 タイムス掲載
特別文化講座
「琉球と袋中上人」

ケービン 鉄道軍用化で翻弄

元県立図書館長が講演

戦前、県民の足として活躍した沖縄県鉄道（愛称・ケービン）の歴史をたどる文化講座が22日、那覇市の県立博物館・美術館で開かれた。元県立図書館館長の金城功さんが国策に翻弄

された歴史を振り返った。約150人が熱心に耳を傾けた。

金城さんは、日本の鉄道が軍事目的で明治期に国有化される中、沖縄では製糖業の拡大で製品を大量輸送する必要から、県が当時の年間予算に相当する建設費をかけ、大正期に借金や国庫補助で与那原線、嘉手納線、糸満線を整備したと話

した。一時国有化案も争がったが当時の帝国議会で否決。

金城さんは「駐屯部隊のあがるなしが決めた手になったのだろう」と指摘した。年間乗客数が300万人に達するなど県民に大いに活用されたが、太平洋戦争が始まると軍専用の「軍用列車」となり「県民は利用できなくなった」と、戦争

や軍隊に翻弄された歴史を振り返った。

加藤奨励会1級先勝

将棋リコー杯女流王座

将棋の第1期リコー杯女流王座戦決勝5番勝負の第1局は22日、東京都千代田区のホテルニューオータニで指され、後手の加藤桃子奨励会1級(16)が90手で清水市代女流六段(42)を

2011/10/23 タイムス掲載
第414回文化講座
「沖縄の鉄道の歴史」

V 博物館学芸員講座

1 博物館学芸員講座実施要項

1 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

2 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

3 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第4土曜日とし、午後2時～4時までの2時間
場 所：博物館講座室を基本とする

4 受講方法

定員・申し込み方法は、内容にあわせ、各回で設定
* 7月23日開催回のみ、事前申込制

(2) 学芸員講座

回数	日 程	分 野	講 師 名	定員	参加者
1	2011/4/23	美術工芸	與那嶺一子	80	92
2	2011/5/28	美術工芸	園原謙	80	63
3	2011/6/25	歴史	岸本弘人	80	130
4	2011/7/23	民俗	岸本敬	30	15組28名
5	2011/8/13	教育普及	池原盛浩	20	7
6	2011/9/24	考古	片桐千亜紀	80	95
7	2011/10/15	自然史(地学)	仲里健	80	50
8	2011/11/26	自然史(生物)	濱口寿夫	40	26
9	2011/12/10	歴史	早瀬千明	80	44
10	2012/1/28	人類	山崎真治	80	78
11	2012/2/25	自然史(生物)	田中聡	80	30
12	2012/3/24	人類	藤田祐樹	80	30

2 実施状況

第1回 学芸員講座「織物のデザイン画「御絵図」を探る ～博物館所蔵品から～」

日時：2011年4月23日（土） 14：00～16：00 参加者：92名

講師：與那嶺 一子

場所：博物館講座室

博物館の収蔵品である琉球王時代の「御絵図」を研究として、御絵図のパターンやそれが果たした役割などが解説されていった。御絵図に描かれている模様の特徴等が画像と共に紹介され、いつ誰が、何のために作っていったのか等、次第にその謎を解き明かすように説明が進んでいった。依頼主の側から見ると、商品を発注する際に使う今でいうカタログの役目があり、製作側にとっては作品の規格を整える仕様書の役割がある。学生時の織物製作体験から考えられる視点も添えられ、“沖縄の緋の秘密（誕生と変遷）の解明と、沖縄の美意識について探っていきたい”と、今後の研究の方向性も紹介された。



着物姿で解説を行う與那嶺氏



沖縄の織りに関心のある方々が多く聴衆

第2回 学芸員講座「文化財を美味しく味わう ～三線文化の世界～」

日時：2011年5月28日（土） 14：00～16：00 参加者：63名

講師：園原 謙

場所：博物館講座室

平成元年から4年間、戦前製作の三線612丁の悉皆調査をおこない、琉球政府時代の11丁を合わせ20丁の三線が県指定文化財に指定できた。当時、担当として調査等に関わった研究の成果から、琉球王朝時代から現代にわたる三線関連の略歴の解説があった。国内では数少ない、三線を美術工芸品の分野で、文化財指定した沖縄の人々が思いや世界観とは何か。楽器としての存在を超越し、沖縄の人々の心に響く癒しの文化を形成するものである。講座終了後は、常設展示室の11丁の三線を実際に鑑賞する場が設けられ、多くの参観者とともに、沖縄の人々の三線文化を愛する心を共有する講座であった。



三線の魅力を熱く語る園原氏



後半は展示室にて実物を前に解説

第3回 学芸員講座「初心者のための琉球・沖縄史 ～これであなとも県博マニア～」

日時：2011年6月25日（土） 14：00～16：00 参加者：130名

講師：岸本 弘人

場所：博物館講座室

沖縄の歴史をざっと二時間で紹介する初心者向けの講座ということで、会場には学生を含め大勢の参加者でいっぱいになった。はじめに「琉球」「沖縄」の名前の呼び名について、時代の流れの節目で使い分けされてきたことが説明された。旧石器時代の沖縄を代表する港川人から、貝塚時代への紹介へと、常設展示の展示資料に沿った解説が進んでいった。10分の休息の後、後半は明治時代から第二次大戦後のアメリカ統治下時代、そして本土復帰を迎えた現代までの時代の変遷の数々が解説された。“講座の後、ぜひ展示室を回ってほしい”という講師の思いがあったが、きっと多くの方が、展示室を訪ねたと考える、有意義な講座となった。



沖縄の歴史の流れが一気に説明された



会場いっぱいの聴衆

第4回 学芸員講座「子どもの人生儀礼とあそび ～木の実でホタルちょうちん作り～」

日時：2011年7月23日（土） 14：00～16：00 参加者：15組28名

講師：岸本 敬

場所：博物館講座室

前半は、沖縄の古くからの子どもに関する儀式の数々、なかでも出産と満一歳を祝う行事（タンカーユエー）の紹介があった。しかし現在、生活様式の変化にともない、それら儀式の多くが消失したり、本来の目的が薄れ、形が変わってしまっているものが多い。

また後半は、昔の子どもの遊びの一つであったホタルちょうちんを通して当時の子どもたちの豊かな自然を活かした知恵と、遊びを追体験できる講座であった。実際に小さな実を加工して、ホタルを入れる籠づくりに挑戦しました。多くのボランティアの支援のもと、細かい作業にも関わらず参加者全員、可愛いちょうちんを完成することができた。



岸本学芸員の経験談も披露



完成したホタルちょうちん

第5回 学芸員講座「学芸員のお仕事ってな～に」

日時：2011年8月13日（土） 10：00～12：00 参加者：7名

講師：池原 盛浩

場所：博物館講座室

博物館は何をやる場所？ 学芸員の仕事って何？ 知っているようで、実は知らない博物館のこと、資料の収集・保管・調査研究の三つの分野にまたがる学芸員の仕事について説明された。後半は、展示室の収蔵品の実測図を実際に描きこむ、備品台帳づくりの疑似体験をおこなった。参加した子どもたちは、備品台帳そっくりの体験用ワークシートを手に展示室やふれあい体験室に行き、指定された収蔵品を探し出し、ワークシートにそれら収蔵品を写し取っていった。親子で会話を楽しみながら作業に取り組み、学芸員の仕事の一端を体験した。



学芸員の仕事について説明



備品台帳づくりの疑似体験中（実測図体験）

第6回 学芸員講座「水中文化遺産への招待」

日時：2011年9月24日（土） 14：00～16：00 参加者：95名

講師：片桐 千亜紀

場所：博物館講座室

はじめに水中文化遺産についての定義から、その調査研究の目的が説明された。調査方法は文献調査、現地での聞き取り調査を経て、海岸での踏査、水中調査へ移っていく。その後水中での調査方法の数々が画像で紹介され、参観者は水中での調査をイメージしていった。

琉球王国時代における頻繁な交易によって、海底にも数多くの遺跡が存在すると考えられ、実際にいくつかの海域でその証しが確認されている。これら水中遺跡の調査・研究を行うことで、海と生きた先人の歴史・文化をより鮮明に解き明かしていくことにつながる。

今後、遺跡を絞り込み、海底地図を作る、遺物の研究を進めるなどの詳細な調査を実施していきたい。沖縄の海には多くの水中遺跡があることを知り、水中文化遺産に関心を持ってもらいたい。



解説する片桐学芸員



水中考古について説明が行われた

第7回 学芸員講座「隕石から始まる宇宙の探求」

日時：2011年10月15日（土） 14：00～16：00 参加者：50名

講師：仲里 健

場所：博物館講座室

開催中の『宇宙～遙かなるロマンを求めて～』展の関連講座として位置づけである。壮大な宇宙をテーマにした特別展の中から、特に隕石に焦点を当てた解説で宇宙の神秘にせまっていた。はじめに上空100Km（喜屋武岬から辺戸岬の距離）から宇宙と呼ばれることや、隕石の種類などの説明がおこなわれた。隕石を調べることで何がわかるのか。その構成成分の分析から、地球の内部構造をはじめ、他の天体の様子さらに宇宙誕生のなぞを解き明かしていくことが出来ることなど、隕石の価値とその重要性が説明された。展示会の共催である国立天文台からの最新のデジタル画像等も紹介され、参観者とともに宇宙へのロマンを掻き立てられる講座であった。



解説を行う仲里学芸員



「宇宙展」のイベントとしての位置づけ

第8回 学芸員講座「笠貝（カサガイ） ～家に帰る貝の暮らし～」

日時：2011年11月26日（土） 14：00～16：00 参加者：26名

講師：濱口 寿夫

場所：博物館講座室

沖縄の海岸の何処にでもいるけど誰も気にしない貝、笠貝。小学5年の時出会った本の影響で海の生き物が好きになっていった話から、現在野外で行っている調査内容の紹介と、実際に貝に触れることができる観察会もおこなわれた。一人海に背を向けて観察を続ける中でおこったエピソードの数々は真面目で面白く、聴衆者も笑顔で聴き入っていたが、根気強く地道に物事に取り組む研究者としての姿を感じられる内容であった。「小さな生き物であっても、そこには生命の法則があり、ドラマがある。研究を続けることで、生きていることの意味に向き合うことができる。」締めくくりに言葉には、研究者としての誇りがにじみ出ている。



実習室会場の様子



解説する濱口班長

第9回 学芸員講座「沖縄県の指定文化財について ～歴史・美術工芸品を中心に～」

日時：2011年12月10日（土） 14：00～16：00 参加者：44名

講師：早瀬 千明

場所：博物館講座室

文化財とは何か。はじめに文化財保護法の解釈に基づいた詳細な分類と解説がおこなわれた。その後、県指定文化財について、特に講師自身が関わった絵画の調査における登録に向けての苦労話や、絵画（肖像画）に描かれた人物の歴史的な業績を紹介された。

博物館や資料館に収められているものだけが文化財ではない。ましてや指定されたものだけが文化財ではない。個人が所有する品々の中にも数多く存在している。文化財とは、後世に語り伝えていくべき、文化・歴史、そしてアイデンティティそのものである。普段の生活とは縁遠いと考えられていた文化財について、自身のこととして考える機会となった。



解説を行う早瀬学芸員



解説に聴き入る参観者

第10回 学芸員講座「発掘！沖縄3万年の人類史」

日時：2012年1月28日（土） 14：00～16：00 参加者：78名

講師：山崎 真治

場所：博物館講座室

館の収蔵品である港川人を含め、沖縄の人類化石の研究を進める目的は何か。地質の性質上、他県と比べ人骨化石の宝庫といわれる沖縄で、現在数々の発掘調査が進められている。発掘調査の最新の情報をはじめ、人類考古学の研究成果を交えながらの解説は、はるか昔の人類がたどってきた姿に思いを巡らせる魅力ある講座となった。港川人発見者である『大山盛保 生誕100年記念展』が次年度冬季に開催されるが、今回の解説内容を含めた様々な資料を展示されていく予定である。今後の発掘調査の見通しについての質問に「とりあえず地道に発掘調査を続けていくことしかない。しかしそれが、貴重な発見に結びついていくことになる」と締めくくった。



これまでの研究の成果を報告



後半は展示室での解説会

第11回 学芸員講座「小さなエイリアン シロアゴガエル ～驚くべき生きざまとその防除について～」

日時：2012年2月25日（土） 14：00～16：00 参加者：30名

講師：田中 聡

場所：博物館講座室

前半では、在来生物減少の一因となっている外来生物の何が問題なのか、また、県内でどのような外来生物問題が生じているのかが紹介された。後半では、講師自身の5年間にわたる野外調査データから、外来生物であるシロアゴガエルが、高い繁殖率（メスによる頻繁な産卵）と低い生存率で特徴づけられる生活史をもつことが浮き彫りにされた。また、泡巣の除去を実験的に続けた結果、その翌年以降の繁殖参加個体数や泡巣数が激減したことから、この方法がシロアゴガエルを防除する上できわめて有効で、かつ、誰もができる駆除法であることが示された。

本講座は、行政や専門家だけでなく、市民のできる外来生物への取り組みについて皆で考える機会となった。



解説に聴き入る参観者



解説を行う田中学芸員

第12回 学芸員講座「骨を楽しむ会 骨スーツで遊ぼう！」

日時：2012年3月24日（土） 14：00～16：00 参加者：30名

講師：藤田 祐樹

場所：博物館講座室

「骨スーツ」で遊ぶ前に、骨について勉強しましょう」ということで、前半は昨年度開催された「骨の科学展」をふり返るように、骨にまつわる解説が進められた。骨と骨格の呼び名の違いから、体の中での骨の役目、成長する骨、そして動物の骨との違いなど、直接見ることができない骨をイメージで感じさせ、子どもにも理解できるようにやさしく説明されていった。

後半の「骨スーツ」で遊ぶ」では、大人から子どもまで、骨スーツを身に着けた骨人間がどんどん現れ、ビデオモニター画面に映った自身の姿を楽しんでいた。講座終了後も、説明用に準備していたヒトの骨格模型に人が集まり、骨について質疑が膨らんだ。



解説を行う藤田学芸員



メモを取る子ども達



親子で「骨スーツ」試着

(池原 盛浩)

博物館学芸員講座

学芸員のお仕事ってな~に?

2011年
8月13日(土)
10:00 ~ 12:00
(9:30 開場)

博物館で、資料の収集・保管・調査研究などにたずさわる専門職員のことを「学芸員」といいます。学芸員の仕事の紹介と、仕事のひとつである「実測調査」(資料の記録)を疑似体験してもらいます。

沖縄県立博物館・美術館 1階 博物館実習室
池原 盛浩 (教育普及担当学芸員)
当日先着20名 (9:00~総合案内にて受付)
対象: 小3~中3まで (ただし小学生は保護者同伴)
料金: 無料
※保護者の方は、博物館常設展の入場券(400円)が必要です

写真: 野中氏の実測調査

●開館時間午前9時~午後6時(金土は8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館 (HP: 本館) http://www.okinawa.pref.gokyo.or.jp

博物館学芸員講座

水中文化遺産への招待

2011年
9月24日(土)
14時~16時 無料
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
片桐 千亜紀 (考古担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

沖縄県は南北に細長く遠なる島嶼地域であり、広い海域を有する。その歴史と文化は、人類が初めて沖縄の島々に到達した時から海と共にあっただろう。海には海を介して密に人々の交流が高々と結ばれている。琉球王国は海洋国家として中国との朝貢関係を結ぶとつづき、遠く東南アジア、日本・韓国とも貿易を行い、未曾有の繁栄を見た。しかし、その船旅は決して安全なものではなく、海難事故によって機軸の投棄や船殻の沈没を余儀なくされ、目的を果たせなかった船客も多数あった。海難にはその結果残されることになった多くの文化遺産が眠っている。

本講座では、あまり知られていない水中文化遺産の存在を知り、自然だけでは見えない沖縄の海の魅力について考えます。

次期予告: 10月15日(土) 神里 健 (地学)

写真: (左)海面に浮かぶ遺物、(右)ロープワークと環状遺物

●開館時間午前9時~午後6時(金土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

博物館特別展「宇宙へ広がるロマンを求めて」(2011年11月3日~12月28日) 関連講座

隕石

から始まる宇宙の探求

博物館学芸員講座

2011年
10月15日(土)
14時~16時 無料
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
仲里 健 (地学担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

「隕石」とは、宇宙空間に存在している天体が地球に落ちてきたものです。その隕石から地球の内部構造から太陽系惑星の組成など多くのことが分かってきました。しかし、たくさんの謎も存在します。「なぜ? 何故? なぜ?」を繰り返していくと、宇宙の誕生から生命の起源を含めた、とても壮大な物語が潜んでいることに気づきます。時間的にも空間的にも大きなスケールで宇宙というのをとらえてみましょう。

次期予告: 11月26日(土) 濱口 寿夫 (生物)

キーワード: 石質隕石(せきしついんせき)、石炭隕石(せきていんせき)、鉄隕石(てついんせき)、隕石(いんてつ)、太陽系小惑星、銀河系、ゼツグパン、地球の誕生、生命の誕生

●開館時間午前9時~午後6時(金土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

博物館特別展「家へ帰る貝のくらし」

笠貝

家に帰る貝のくらし

博物館学芸員講座

2011年
11月26日(土)
14時~16時 (開場13時半) 無料

沖縄県立博物館・美術館
1階 博物館実習室
濱口 寿夫 (博物館副館長・生物担当学芸員)
40名 (事前申込不要、当日先着)

沖縄の海岸、海苔畑の岩場にはコウガカマツガイ(Siphonaria luteosa)という笠貝の仲間がたくさん住んでいます。笠/殻の方は、褐色を帯びている上、私たちが見るときは、たいがい目にピツツリ張り付いていて目立ちません。小さくて食用にもならない笠貝は、ほとんどの人がとって、生肌気づくことさえない生き物でしょう。

そんな笠貝ですが、逆に「家」を持ち、動物のように特定のタイミングで出て活動し、また家に戻る、という規則的な生活をしています。動いている間は、餌を食べ、交尾・産卵をし、卵を他の個体と分けかかすし流に離れられることもあります。毎日、当道で入れ替わり監視されている。意外にも波打ちに落ちた笠貝たちのドラマを、実際の調査研究をもとに紹介します。

次期予告: 12月10日(土) 早瀬 千明 (歴史)

キーワード: コウガカマツガイ、右巻貝、海苔畑、運動リズム、潮汐(うしうせき) 海苔、移動、産卵行動、産卵時期

●開館時間午前9時~午後6時(金土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館は、1月1日(日)から開館します。4日(水)は通常休館日となります。3日(火)から通常開館となります。12月29日(土)～12月31日(日)は休館です。
 キーワード：文化財・世界遺産・文化遺産・石形・彫形・陶器・書文・歴史資料

“文化財”と“指定文化財”とはいったい何が違うのか。
 “世界遺産”と“無形文化遺産”とは何か。



沖縄県の 指定文化財について

博物館学芸員講座 ～歴史・美術工芸品を中心に～
 2011年

12月10日

14時～16時 無料
 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
 1階 博物館講座室

早瀬 千明 (歴史担当学芸員)
 80名 (事前申込不要、当日先着)

私たちがよく耳にしている“文化財”
 という言葉。皆さんはどこまで理解して
 いますか？

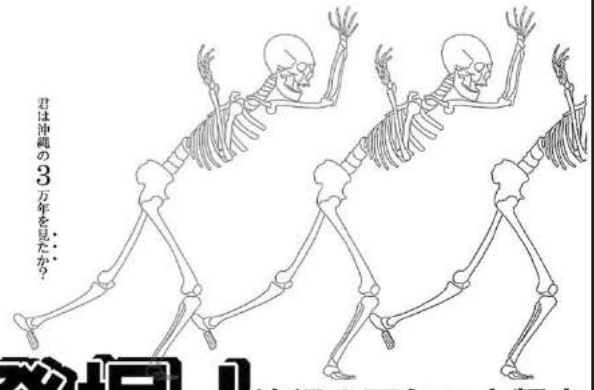
国宝・重要文化財、世界遺産・無形文化
 遺産との違いは何か知っていますか？

現在、沖縄県には1,341件の指定文化
 財があり、有形・無形・民俗・記念物といっ
 た種類に分けられます。そのなかでも“有
 形文化財”。文字どおり目に見えて、形
 の有る文化財に焦点を絞って、当館収蔵
 の指定文化財をご紹介します。

次回予告：1月28日(土) 山崎 真治 (人類)

本講座は「沖縄県立博物館・美術館」の協賛で開催されます。会場：1階 博物館講座室 (小田原 文彦)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌
 平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



君は沖縄の3万年を見たら、

発掘! 沖縄3万年の人類史 —海と島に生きる—

博物館学芸員講座
 2012年

1月28日

14時～15時半 無料
 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
 1階 博物館講座室

山崎 真治 (人類担当学芸員)
 80名 (事前申込不要、当日先着)

キーワード：3万年 骨穴 遺跡 発掘 港川人

沖縄は3万年以上前から人類の痕跡が残されて
 いる、世界的に見ても珍しい島です。オーストラ
 リアやフィリピンをはじめとする、オセアニアや東南
 アジアの島々に比べて、面積も小さく、食料資源
 に乏しい沖縄の島々で、先史時代の人々は、ど
 のような生活を営っていたのでしょうか。

平成23年度に沖縄県立博物館・美術館が発掘
 した南城市武芸洞・サキタリ洞(玉泉洞ケイシ
 ステム内)では、港川人の時代の動物化石のほか、
 縄文時代の獣骨や土器、石器が新たに発見され
 ています。

本講座では、発掘調査の成果から、沖縄3万
 年の人類史をわかりやすく解説します。

講座終了後、希望者を対象に港川人の復元模型や人骨のレ
 プリカを前に「骨の科学展」を実施します。30分程度。
 会場：博物館2階展示室(当日入場券が必要(講座参加者
 には、博物館講座室内で団体料金にて入場券を販売します))

次回予告：2月25日(土) 田中 聡 (生物)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌
 平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



皆さん、ご存じですか。
 私たちの身近なところにたくさんのエイリアンがいることを。

小さなエイリアン

博物館学芸員講座
 2012年

2月25日

14時～15時半 無料
 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
 1階 博物館講座室

田中 聡 (生物担当学芸員)
 80名 (事前申込不要、当日先着)

シロアゴガエル
 —驚くべき生きざまとその防除について—

映画でおなじみのエイリアン。しかし、私たちの身近なと
 ろにもたくさんのエイリアンがいます。エイリアンスピー
 ーズ、外來種たちです。

世界的にも注目される沖縄在来生物たち。競食など
 による影響に加えて、人が持ち込んだ外來生物に圧迫され、
 絶滅が危惧されるものも多いためが現状です。

今回の講座では、沖縄の外來生物問題のいくつかの事例
 を紹介するとともに、5年間にわたる野外調査結果に基づき、
 シロアゴガエルという外來種の生きざまとドキュメントしま
 す。さらに、野外実験結果から、「誰にでもできる防除法」
 をお伝えします。

シロアゴガエルは1960年代に種子島付近で発見さ
 れて以来、分布拡大を続け、今では沖縄自給給の全域や周辺
 離島だけでなく、宮古群島、石垣群島を渡る個体です。

次回予告：3月24日(土) 藤田 祐樹 (人類)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌
 平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



骨を遊ぶ会

骨スーツで遊ぶ会!

博物館学芸員講座
 2012年

3月24日

14時～16時 無料
 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
 1階 博物館講座室

対象：小学生～大人 ※小学生は、大人同伴
 藤田 祐樹 (人類担当学芸員)
 50名 (事前申込不要、当日先着)

●藤田学芸員からのメッセージ●
 骨の話を聞いたあとは、骨スーツを着てホネホネ人間に
 大変身。黒っぽい服を着ると、骨スーツがリアルにな
 るよ!骨スーツは、90、110、130、150、170cmを2着
 ずつ用意します。オナナだってチャレンジしちゃおう!骨
 スーツの準備をしている間は、ホネホネ人間たちを発見
 して楽しんで、骨ゆりえで学習を深めよう。
 カメラ・携帯電話などのホネホネ記念撮影もOKです。

私たちの体に骨はいくつある?
 オトナとコドモの骨はどこが違う?
 動物とヒトの骨はどこが違う?

骨は私たちの生活を支える体の一部であると同時に、
 ヒトや動物の長い進化の過程や、私たちの祖先の生き様
 を教えてくれる重要な資料です。同時に、最近では骨の
 見た目のおもしろさや美しさに興味心が高まり、写真集
 や書籍も数多く出版されています。昨年当館で開催し、
 大人も子どもも楽しんで骨の科学展の後も使っているが
 ら、みんなで骨について勉強します。

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌
 平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

VI 展示解説会

1 展示解説会実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行なう展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、基本第3木曜日 午後2時～3時までの1時間
場所：博物館常設展示室

(4) 受講方法・定員

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

(5) 日程

	日程	分野	講師名	定員	参加者
1	2011/4/21	美術工芸	園原謙	15	21
2	2011/5/19	歴史	岸本弘人	15	14
3	2011/6/16	美術工芸	與那嶺一子	15	18
4	2011/7/21	考古	片桐千亜紀	15	15
5	2011/8/18	民俗	岸本敬	15	7
6	2011/9/15	自然史（生物）	田中聡	15	16
7	2011/10/13	歴史	早瀬千明	15	19
8	2011/11/17	自然史（地学）	仲里健	15	19
9	2011/12/15	人類	山崎真治	15	16
10	2012/1/12	自然史（生物）	濱口寿夫	15	10
11	2012/2/16	教育普及	池原盛浩	15	4
12	2012/3/15	人類	藤田祐樹	15	11

2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。これまで、参加状況を把握するため、定員を決め当日9時より受付を行っていたが、参加人数が把握できたこと、お客様からの声を受け、今年度から申し込み制を廃止した。

参加者の内訳は、博物館ボランティアが半数を占め、その他年間パスポートや友の会会員等、リピーターの参加が定着している。常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回170名（定員なし、平均参加人数14名）の参加を集めた。

企画展・特別展の展示解説会では、新たな試みとして特別展「宇宙—遙かなるロマンを求めて」において子ども向け解説会を実施。当初は小学生を想定していたが、未就学児の参加が多く、展示のストーリー性以上に「学芸員と展示を一緒に見ていく」ことに標準を置くなど方針を変えたことにより、より参加者の満足度も上がったように感じられた。対象者をはっきり提示したこと、実施日を毎週日曜日に固定したことにより、全16回416名（大人179名、子ども237名／平均参加人数26名）の参加者を集め、入場者増にも影響を与えたように思う。

また、企画展「工芸王国—受け継がれる琉球のわざと美／日本の伝統美と技の世界」では、学芸員による解説会（全3回55名／平均参加人数18名）のほか、外部講師による解説会（全4回79名／平均参加人数20名）も実施した。技術者の話を間近に聞ける機会とあり、リピーターの姿を多く見た。

企画展「琉球と袋中上人」では、当初解説会を予定しておらず、ポスターチラシにも情報の掲載をしていなかったが、全2回63名（平均参加人数32名）と多くの参加者を集めた。講座やワークショップ終了後に実施できたことで、広報面での心配をカバーすることができた。

企画展・特別展の展示解説会としては、全25回613名（定員なし、平均参加人数25名）の参加者があった。

（大浜・中村）

■特別展「宇宙—遙かなるロマンを求めて」

A: 子ども向け解説会（11:00～12:00）

B: 一般向け解説会（14:00～15:00）

定員なし

日時		子ども	大人	参加者	
1	11月6日 日	A	15	10	25
		B	5	13	18
3	11月13日 日	A	12	10	22
		B	3	12	15
5	11月20日 日	A	15	18	33
		B	5	10	15
7	11月27日 日	A	15	18	33
		B	5	10	15
9	12月4日 日	A	8	7	15
		B	3	25	28
11	12月11日 日	A	17	21	38
		B	3	21	24
13	12月18日 日	A	12	17	29
		B	5	23	28
15	12月25日 日	A	19	14	33
		B	37	8	45
合計人数			179	237	416

■企画展「工芸王国—受け継がれる琉球のわざと美

／日本の伝統美と技の世界」

学芸員・外部講師による展示解説会

定員なし

日時			講師	参加者	
1	10月10日	月祝	15:00～16:00	與那嶺一子	25
2	10月15日	土	12:00～13:00	早瀬千秋	12
3	10月23日	日	10:30～11:30	平川信行	18
4	10月9日	日	14:00～15:00	池野幸雄(壺屋焼保存会)、新垣幸子(八重山土布保存会)	13
5	10月10日	月祝	14:00～15:00	ルーバス吟子(沖縄伝統本場首里織物保存会)、比嘉恵美子(読谷山花織保存会)	33
6	10月16日	日	14:00～15:00	大城哲(琉球絣と南風原花織保存会)、早瀬千明(当館学芸員)	13
7	10月22日	土	11:00～12:00	前田孝允(琉球漆器保存会)、城間栄市(沖縄伝統びん型保存会)	20

■企画展「京都・檀王法林寺開創400年記念 琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—」

学芸員による展示解説会

定員なし

日時		講師	参加者	
1	2月5日 日	15:00～16:00	園原謙	30
2	2月11日 土	16:00～17:00	園原謙	33

Ⅶ バックヤードツアー

1 バックヤードツアー実施要項

(1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事の出来ない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

(2) 内容

普段見る事の出来ない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第2土曜日 午後2時～3時までの1時間
場 所：博物館バックヤード（収蔵庫・トラックヤード・工作室他）

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。
定 員：12名（当日先着順）

(5) 日程

	日 程	講 師 名	定 員	参加者
1	2011/4/9	藤田祐樹	12	12
2	2011/5/7	田中聡	12	13
3	2011/5/21	濱口寿夫	12	9
4	2011/6/11	岸本敬	12	11
5	2011/7/9	仲里健	12	9
6	2011/8/6	池原盛浩	12	11
7	2011/9/3	與那嶺一子	12	12
8	2011/10/1	早瀬千明	12	7
9	2011/11/5	岸本弘人	12	8
10	2011/12/3	片桐千亜紀	12	12
11	2012/1/7	園原謙	12	12
12	2012/2/11	山崎真治	12	10
13	2012/3/3	濱口寿夫	12	12

※5/21は、国際博物館の日

2 実施状況

バックヤードツアーは、昨年同様、より専門性を生かした内容を目指し、各学芸員が月毎に担当。安全管理面を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフとの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～収蔵庫～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は各専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。公平性を保つため、1人の申込者につき、最大4名の申込みとした。また、各学芸員が月毎に交替して実施することにより、リピーターにも対応できる内容となった。

普段は公開していない博物館の裏側を見学できるという特別感もあり、県外からの観光客や遠方からの親子連れが、早い時間帯に申し込みをする姿も見られた。午前には実施している美術館バックヤードツアーにも参加し、博物館と美術館を比較しながら理解を深める様子も見られた。全13回138名（定員12名、平均参加人数11名）の参加者があった。（中村 愛）



Ⅷ 夏休み！博物館学芸員教室

1 沖縄県立博物館・美術館『夏休み！博物館学芸員教室』実施要項

(1) 趣旨、目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

(3) 実施方法

対 象：県内の小学生・中学生

実施日：2012年8月2日（火）～8月4日（木）

時 間：10：00～16：30 ＊1教室およそ90分程度

定 員：各分野20名程度（当日先着順） ＊教室によって変更あり

参加料：無料

場 所：実習室を中心に。

(4) 受講方法

- ① 各分野の担当学芸員日程表をチラシ等で表示し、参加者を募る。
- ② 当日受付で、先着順とする。
- ③ 各担当学芸員の指示のもと、諸注意を守り受講する。

(5) 実施状況

日時	8月2日(火)		8月3日(水)		8月4日(木) →台風のため 8月16日(火)に延期	
10:00 ～11:30	「植物でおもちゃを作っちゃおう」 小3～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)10組 無料 岸本 敬(民俗)	参加者 9組 /10組	「ちよつと昔の沖縄を調査せよ」 小3～小6まで 15名 無料 岸本 弘人(歴史)	参加者 5名 /15名	「海辺の生物の観察方法 教えます」 小1～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)15組 無料 濱口 寿夫(生物)	参加者 15組 /15組
13:00 ～14:30	「遺跡を調査せよ」 小5～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)10組 無料 片桐 千垂紀(考古)	参加者 5組 /10組	「海の砂の中から宝を探せ」 小3～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)10組 無料 仲里 健(地学)	参加者 10組 /10組	「チキンを食べて 骨格標本を作っちゃおう」 小3～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)10組 300円 藤田 祐樹(人類)	参加者 10組 /10組
15:00 ～16:30	「カタツムリを調べてみよう」 小3～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)10組 無料 田中 聡(生物)	参加者 8組 /10組	「拓本&てん刻にチャレンジ」 小3～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)10組 1,000円 園原 謙(美術工芸)	参加者 6組 /10組	「着物からわかることって どんなこと？」 小3～中3まで(ただし、小学生は保護者同伴)15組 200円 與那嶺 一子(美術工芸)	日程の調整が つかず中止

2 実施状況

平成 23 年度 「夏休み！博物館学芸員教室」

1 趣旨、目的

本館学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する内容をテーマに教室を開くことで、郷土への興味・関心を高める。また、児童生徒の自由研究や調査研究等の手立てとなり得るよう可能な限り博物館の情報を提供していくことで、博物館理解と博物館活動の紹介の場とする。

2 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館機能を紹介するとともに、博物館を通した沖縄の自然、歴史、文化について、子ども向けの教室を行う。

『答えを教えるのではなく、答えを探しだす手だてを教えていく内容』へ！

- ・従来の相談持込み（館側の受け身）ではなく、学芸員の側から説明会（教室）を開く（発信型）。
- ・学芸員からの指導を通して、自由研究のきっかけを感じ取れるようにする。
- ・博物館で学んだこと（やり方ノウハウを体験）を生かし、自宅に帰って自分なりに研究を進めていく。

ここ数年の来館者の応募・参加状況を踏まえ、各分野の学芸員に調整を図り、昨年度まで実施していた「夏休み子ども相談週間」の内容を改め、受け身の形から発信型の企画を立案、実施に至った。

博物館班の学芸員が、夏休みの課題に取り組む子ども達に向けて、テーマ設定の仕方や検証の為の実験方法、観察の仕方や着眼点、準備段階からデータのまとめ方まで等の情報を提供する場とし、難易度によっては親子で参加するものと、子どもだけで取り組むものを各学芸員の意図で設定。身近な所から課題を見つけ自分の力で取り組める、子ども向けの良い教室となった。

後日、個人的にはあるが、田中学芸員の担当した「カタツムリを調べてみよう」から研究に取り組み、科学作品展に出展し受賞したという報告をいただいた。このように、様々な方向で講座や教室が活かされていることを願ってやまない。今回は、発信オンリーの教室の開催となったが、次年度は、夏休みスタートの時期に教室の開催をする予定。夏休みの後半には受講した子ども達向けにふり返りとしての相談日を担当学芸員の予定に合わせて日程調整するキャッチボール型を予定している。

今年度初めて実施した夏休みの子ども向けの学芸員教室は、まだ試行段階であり、今後も時期や内容・広報等含め、改めて検討していく必要がある。

今後も子ども達が、自分でテーマを見つけてじっくり取り組んでいける場作りを大切にしていきたい。

（當眞 妃奈子）

植物でおもちゃを作っちゃおう



テレビゲームやカードゲームもなかった昔、子どもたちはどんな遊びをしていたのかな？博物館の庭にある植物を使って、虫かごやおもちゃを作ります。

- 日時：8月2日(火) 10時～11時半
- 講師：岸本 敬(民俗担当)
- 対象：小3～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：10組
- 参加費：無料

遺跡を調査せよ



沖縄には、世界遺産をはじめ、有名な遺跡がありますが、実は君たちの家の近くにも遺跡はたくさんあります。その見つけ方や図書を使っての調査の仕方を教えます。

- 日時：8月2日(火) 13時～14時半
- 講師：片桐千亜紀(考古担当)
- 対象：小5～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：10組
- 参加費：無料

カタツムリを調べてみよう



透明な殻やとんがった殻…沖縄は、カタツムリの宝庫です。研究者も行うカタツムリの調査の仕方を伝授します。

- 日時：8月2日(火) 15時～16時半
- 講師：田中 聡(生物担当)
- 対象：小3～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：10組
- 参加費：無料

夏休み! 博物館学芸員教室

面白くてためになる。答えを教えるのではありません。子どもたちに疑問を抱くきっかけや、その疑問を解決する方法を伝授します。

ちょっと昔の沖縄を調査せよ



教科書にはまだのっていない「ちょっと昔の沖縄」はどんな様子だったのかな？その調べ方や新聞のまとめ方を教えます。

- 日時：8月3日(水) 10時～11時半
- 講師：岸本 弘人(歴史担当)
- 対象：小3～小6まで
- 定員：15名
- 参加費：無料

海の砂の中から宝を探せ



海の砂をよ～く見ると、様々な生き物のかけらが見つかります。白い砂も、実はある生き物の死がいて知ってる？実体顕微鏡を使って観察します。

- 日時：8月3日(水) 13時～14時半
- 講師：仲里 健(地学担当)
- 対象：小3～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：10組
- 参加費：無料

拓本&てん刻にチャレンジ



博物館のあちこちに展示されている拓本。版画のように見えるけど、どんな方法で作られたものかな？身近にある「あるモノ」を練習台に拓本をとる方法を教えます。また、オリジナルの印かんを作ります。汚れてもいい服装で来てね。

- 日時：8月3日(水) 15時～16時半
- 講師：國原 謙(美術工芸担当)
- 対象：小3～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：10組
- 参加費：参加費1,000円(印刀、印材を含む)

海辺の生物の観察方法教えます



生物を求め、夜な夜な海辺を調査する研究員が、生物を観察する際の「コツ」を教えます。コツをつかめば、楽しさ倍増。当日は、バケツに入ったゲストも登場するかも。

- 日時：8月4日(木) 10時～11時半
- 講師：濱口 寿夫(生物担当)
- 対象：小1～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：15組
- 参加費：無料

着物からわかることってどんなこと？



着物はどんなふうになられているのかな？シャツやスカートと何が違うかな？色？形？いえいえ、もっと明らかな違いがあるんです。きれいな千代紙を使って、ミニ着物を仕立てながら考えます。

- 日時：8月4日(木) 13時～14時半
- 講師：與那嶺 一子(美術工芸担当)
- 対象：小3～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：15組
- 参加費：200円

チキンを食べる骨格標本を作っちゃおう



博物館に展示されている骨の標本。骨博士が、お家で簡単に作れる方法を教えます。おいしいフライドチキンを食べて、鳥の標本もできちゃうなんて、一石二鳥だね。

- 日時：8月4日(木) 12時に一旦集合後、15時～16時半に標本づくり
- 講師：藤田 祐樹(人類担当)
- 対象：小3～中3まで
(ただし、小学生は保護者同伴)
- 定員：10組
- 参加費：300円

申込方法

当日先着順。(当日の9時から総合案内にて受付。午後の回も、9時から受けつけます。/代理での申し込みはできません)1日につき、1つの教室に参加できます。ただし、各教室の開始10分前の時点で、参加人数に達しない場合は、2つ以上の教室に参加できます。

【当日の様子】



Ⅸ ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感を通して体感できる操作や組立てるなどの遊びを通じて学ぶことで、展示資料を深く学ぶことができます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてがふれることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先祖の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

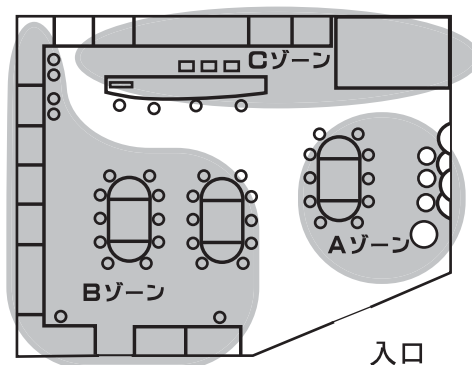
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	・直接的に（一見して）内容が分かる。 （見る、触る 等） ・安全性、耐久性が高い。	・来館者が自由に出し入れ出来る。 *来館者への手助けは少ない。
グループ B	・簡単な操作で内容が分かる。 （聞く、比べる、開ける、押す 等） ・安全性がある程度確保されている。 ・耐久性がある。	・来館者は自由に出し入れできる。来館者によっては、手助けが必要な場合もある。
グループ C	・作業を通して仕組みや内容が分かる。 （組立てる、作る、分類する） ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者への手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル		
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？	1	サインを見逃すな！	自然史	
			2	小さな世界 ～小さいのちの大きな仕事～		
			3	耳をすませば		
			4	この骨だれの？		
			5	サンゴと生きる		
		地史	自然のすがた	6		いろいろなタネ
				7		いろいろな木と草
				8		いろいろな石と砂
			地下にねむる歴史のなぞ	9		見える星座・見えない星座
	10			化石 ～生きていた証～		
	11			港川人		
	12			土層と出土品からわかること		
	13			石で築く		
	14			ヌチグスイ		
	人々のくらし	食の知恵	15	イノー ～海の食料庫～	民俗	
			16	御三味（ウサンミ）		
		食の習わし	17	いろいろな道具		
		生活のくふう	18	島のコトバ		
		沖繩のコトバ	19	いろいろな玩具		
			20	いろいろな楽器		
		シマの心	21	衣からわかること	美術工芸	
			22	焼物 ～かたちのわけ～		
			23	漆 ～飾るたのしみ～		
		色のひみつ・形のふしぎ	24	印かんってなあに？	歴史	
			25	島のかたち		
			26	記録のくふう		
			27	国々のおつきあい		



No. 4



No.23



No.21



No.15



No.12



No. 1

3 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は職員1名（文化の杜共同企業体）と、1日3交替の博物館ボランティアスタッフで運営している。

職員は、常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ4名で構成。所定の研修を受けた「ふれあいスタッフ」が、配属している。ボランティアスタッフは、曜日毎に6つの班を構成。各所属班内で世話が連絡調整することにより、安定した活動を維持する体制ができあがり、スタッフと共にふれあい体験室の運営の大きな役割を担っている。

4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、45,384人（1日平均151人）。昨年度より4,818増加した理由としては、以下、3点の「リピーターづくり」があげられる。

1つめは、学校団体が見学プログラムのなかで、ふれあい体験室を利用するようになったことで、放課後や、週末に再度、家族や友達と来館する姿が見られるようになった。2つめは昨年度から実施している、ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」【毎週土曜日】（5－（2）参照）の参加者が来場すること。3つめは、昨年度完成した「ふれたいシート」（5－（3）参照）の活用である。こうして定着した「リピーターづくり」が来場者の増加に繋がった。

また、10月は、県内で「世界のウチナンチュ大会」が開催され、当館も招待施設として参加した。世界中からの来館者を受け入れる体制として、「外国人対応シート」の活用がはじまった。（5－（4）ならびに本書「XI 6～教育力向上支援業務」参照）来館者とのコミュニケーションが重要なふれあい体験室には、その後も、欠かせないものとなっている。

ふれあい体験室は開設から、4年が経過した。開館当時、小学3年生だった児童は、中学1年生になり、年下のこども達を連れ、訪れている。このことに象徴されるように、ふれあい体験室は、「自らもすすんでやってみよう」と思わせる体験キットを、人（ふれあいスタッフ、ボランティアスタッフ、親子、友達、他人）が関わることにより、受身ではなく能動的に学ぶことができる環境が保たれる。今後も、地域に根ざした、ふれあい体験室を目指し、来館者との「ふれあい」を大切に運営していきたい。

5 その他

（1）ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」in ルーブル保育園

主 催：文化の杜共同企業体

内 容：当館で定例開催しているワークショップ

（5－（2））が出前講座を開催した。

日 時：2011年10月28日（金）10：00～12：00

場 所：ルーブル保育園内つどいの広場

講 師：渡部貴子（文化の杜共同企業体）

参加費：100円

参加者数：11人



(2) ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」

主 催：文化の杜共同企業体

内 容：アダン葉細工を3ヶ月毎に種類を変え、カラフルな画用紙で制作する。

日 時：毎週土曜日 ①10:00/②10:30/③11:00/④11:30

場 所：ふれあい体験室前エントランスホール

講 師：ふれあい体験室スタッフ1名

(文化の杜共同企業体：渡部、屋良、新川、安慶名、平良)

参加費：100円 参加者数：672人 (開催日数50日)

4・5・6月「金魚と風車」(開催日数13日 / 参加者数138人)

7・8・9月「カエル」(開催日数11日 / 参加者数190人)

10・11・12月「ほしっころ」(開催日数13日 / 参加者数148人)

1・2・3月「はぶぐわー」(開催日数13日 / 参加者数196人)

てづくりおもちゃの達人認定者は30人



(3) ふれあい体験室体験のてびき「ふれたいシート」の活用 (平成22年度博物館教育力向上支援事業)

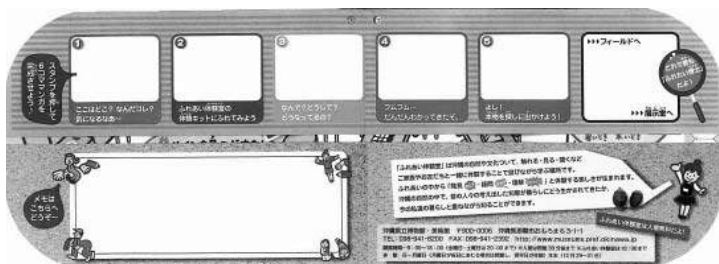
「ふれたいシート」は、当初、ふれあい体験室の案内パンフレットを作成する目的で、そこにワークシートの要素を盛り込んだものが出来上がった。「ふれたいシート」の内側は室内の鳥瞰図がイラストで描かれており、キットの配置場所が示された配置図と、分野別に出題された、ワークシートになっている。外側は、体験チェックリストになっており、体験者は分野毎にチェックが全て埋まると、スタッフからスタンプを押してもらえる。その結果、稼働率が低い「体験キット」がなくなった。また、首から下げられるよう紐通しの穴を開けたり、ミシン目を入れたマスコット (ふれあいスタッフちゃん人形) をつける等、遊びの要素も取り入れ、より楽しく学ぶことのできるしかけをとり入れた。体験をクリアするまで繰り返し、来館して使えるよう、「預け箱」を設置した。現在、337人分のふれたいシートが箱の中に預けられている。

7月から室内のみで配布がはじまり、現在では約1800部が来館者に利用されている。

【配布期間】2011年7月から部数がなくなり次第終了 (5000部)

【配布場所】ふれあい体験室【対象】一般のふれあい体験室利用者 (全てにふりがな)

【料 金】無料



(4) ふれあい体験室「外国人対応シート」の活用（平成23年度博物館教育力向上支援事業）

「外国人対応シート」（本書「XI 6～教育力向上支援業務」参照）は英語、スペイン語、中国語、韓国語の4ヶ国語を用意した。指差し方式になっており、外国語に苦手意識をもっていたボランティアスタッフも、外国人来館者とのコミュニケーションが気軽に取れようになった。



(5) 博物館企画展

「工芸王国—受けつがれる琉球のわざと美」「日本の伝統美と技の世界」展 関連体験展示～触ってみよう・嗅いでみよう～ 体験キットNo.21の活用と沖縄を含む日本の伝統工芸品にふれる体験として、会期中、特設展示コーナーを設けた。

【開催期間】2011年10月6日（木）～23日（日） 9：00～18：00

【場 所】ふれあい体験室内

【入 場 料】無料

触ってみよう、くらべてみよう

<裂地>

- ・宮古上布（沖縄県）
- ・喜如嘉の芭蕉布（沖縄県）
- ・久米島紬（沖縄県）
- ・越後上布（新潟県）
- ・小千谷縮（新潟県）

<焼物>

- ・色鍋島（佐賀県）

嗅いでみよう

<染料>

- ・原料に琉球藍を使用した泥藍（沖縄県）

<紙>

- ・石州半紙（島根県）
- ・本美濃紙（岐阜県）
- ・細川紙（和歌山県）



(6) 「ふれあい体験室」におけるボランティア活動のてびき作成

今年度、ふれあい体験室はボランティアスタッフの活動内容の見直しと、整備を図った。ボランティアスタッフの中から有志を募り、意見交換会議を2度開催した。1度目の会議では、現状と問題点の確認を行った。ふれあい体験室における活動の意義や意識を共通理解できていないこと、配置人数や活動の曜日、時間帯について様々な意見があることなどが問題点としてあげられた。2度目の会議では、問題点の改善策をボランティアが所属する各曜日に協議を図り、取りまとめ、暫定版として作成したてびきの内容確認・修正会議を行った。7月20日に、配布に際した説明会を開催し、「2011年度版『ふれあい体験室』におけるボランティア活動のてびき」が完成した。マニュアルの改訂は、教育普及担当学芸員とふれあいスタッフが協力して行った。



新聞掲載
沖縄タイムスワラビー
2011年5月15日(日)

(渡部 貴子)

X ボランティア養成事業

1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成20年2月13日 館長決済

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第2条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第3条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票（第1号様式）により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長（以下「館長」という。）が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第2様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証（第3号様式）を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消することができる。

(研修)

第4条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第5条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第6条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付 則

この要項は、平成5年7月1日から実施する。

この要項は、平成12年8月1日から実施する。

この要項は、平成20年2月13日から実施する。

■県立博物館ボランティア各種講座(案)

日 時	内 容	備 考
～3月	*継続ボランティア申請書受付 *登録並びに講座(講師依頼)諸準備	
4月	・年度開始(年間計画の確認)	・日時、開催場所、講師日程等を確認する
5月	・継続ボランティア登録式(1～4期生) ・自主勉強会の開始と充実(学芸員の支援) ・「アップ・アップ」の開催1回15名×5回?	・名簿一覧の作成、登録証の発行(色の変更) ・全体会の開催(曜日班、活動内容、スキルアップ講座等の説明)
6月	・ボランティアスキルアップ講座(仮)	・外館講師を招き、自己開示的内容で、自身の能力に気づく、能力を高める講座としたい ・18:00～開催? 次回連続の講座?
7月		・体験教室事前勉強会の開催
8月	一夏休業対応の為、ボランティア講座は特になし	
9月		・小4民具体験学習
10月		
11月		
12月		・次年度計画(年間計画“案”の作成)
1月		
2月		
3月		

ボランティア各種研修(教室・勉強会)一覧

月 日	曜日	開始時間	場 所	ボランテニア研修	*受講必修	学芸員教室*	分野別勉強会	*グループ活動
13 日	金	14:00	講座室	登録証交付式				
18 日	水	14:30	講座室	第1回全体会				
20 日	金	14:00	講座室	コーチング研修①				
27 日	金	午後	実習室			「★水・木・金」体験学習教室(前日準備)		
28 日	土	10:00	民家蔵の畑			與那嶺 一子教室		
31 日	火	10:00	ボランテニア室			池原 盛浩教室(スケッチ) *実習有	学芸員講座を勉強会に!	
4 日	土	10:00	実習室			岸本 敬教室		
10 日	金	13:00	民家蔵			藤田 山崎教室		
11 日	土	14:00	講座室	コーチング研修①-2				
18 日	土	14:00	講座室	マナーアップ研修①				
5 日	火	20:00	末吉公園			田中 聡教室		
7 日	木	14:00	講座室	マナーアップ研修①-2				
12 日	火	16:30	実習室			濱口 班長教室		
15 日	金	19:00	浜比羅島			濱口 班長教室		
20 日	水	13:00	実習室			「★昆虫」体験学習教室、事前勉強会		*「ふれあい体験室ボランテニア支援のてびき」の臨み合わせ(予定)
★夏休み期間 - 学芸員教室8/2・3・4《子ども対象》 学校団体下見(特に民具体験学習対象)								
5 日	金	14:00	実習室			團原 謙教室		
17 日	水	14:00	ボランテニア室			片桐 千亜紀教室		
24 日	水	14:00	ボランテニア室			片桐 千亜紀教室		
9 日	水	午後	実習室外			池原盛浩教室(焼き物) *実習有		
10 日	木	中旬頃				第2回全体会(予定)		
11 日	金							
12 日	土	10:00	現地			岸本 弘人教室		
1 日	日	10:00	実習室			「★染め」体験学習教室、事前勉強会		
2 日	月	14:00	トラップヤード			仲里 健教室		
3 日	火							

○ボランティア向けの従来の解説を中心とした「養成講座」や「専門講座」に代わり
 ボランティア対象の、《学芸員教室》を開催(案)

2011.5.13.
 博物館教育普及

H23年度は・・・場所はボランティア室!で、“お茶しながらお話し会”“学芸員教室”のイメージで!!

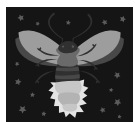
- ・従来の学芸員からの解説会(知識の伝授)ではなく、学芸員の仕事の一端を体験してもらう教室形式の講座を開く。
- ・学芸員からの指導を通して、博物館学芸員の業務を感じ取れるようにする。
- ・開催期日は、学芸員の希望日に設定し、ボランティア室へ手描きポスターで呼びかけ、参加を募る。
- ・定員はボランティア室に入る人数(15名前後?)。

★開催の約1カ月前には、ボランティア室に、案内のチラシ(詳細)を掲示します。

学芸員	ボランティア教室〈講座名〉	内容等	開催日・時・場所など
片桐千亜紀	「考古の基本は分類から」	膨大な資料を実際に分類し整理する	8月17・24日(水)ボランティア室 14:00~16:00
與那嶺一子	「チョマ刈りと糸紡ぎ、 機織り体験」	畑からチョマを刈り取って糸作り、機織りまでやってみましょう。展示模型にある様子を実体験しましょう。	5月27日(金) 民家裏畑 10:00~12:00 民家軒 *帽子を忘れずにー
池原盛浩	「スケッチ教室」	気軽にスケッチしませんか?	5月31日(火) ボランティア室 10:00~12:00 実費有
	「やきもの教室」	使える器を作ってみましょう。	9月に数回 実習室横 14:00~ 実費有
仲里 健	「岩石破片作成」	岩石の薄片を作って、顕微鏡を 観て見る!	2012.2.10(金)トラックド 14:00~16:00 軽作業の服装
園原 謙	拓本をとってみよう	サンゴ石で拓本をつくる	8月5日(金) 実習室 14:00~16:00*墨使用可服装
濱口寿夫班長	「海に降りるヤドカリの観察」	沿岸で幼生の放出を観察する	7/12(火)16:30~実習室 7/15(金)19:00~浜比嘉島 *現地集合、懐中電灯、服装注意
岸本 敬	「ホタルちょうちん (かご)作り」	7月の学芸員講座の内容の予行 ー「ホタルちょうちん」を作っ てみましょう	6月4日(土) 実習室 10:00~12:00 *軽作業できる服装でー
田中 聡	「末吉の森で夜間観察」	公園の中をまわり、昆虫などの 観察をおこなう	7月5日(火)末吉公園現地集合 夜8時~10時*懐中電灯・虫よけ
岸本弘人	「シュガーローフに登る」	沖縄戦の激戦地であった場所を 訪れ、当時と今を見比べてみま しょう	12月10日(土)現地集合 10:00~12:00 *歩きやすい服装ー
藤田 山崎	「発掘現場の土をフルイに かけよう」	武芸洞などの発掘調査現場から 採取した土をフルイにかける作 業を体験	6月10日(金) 民家裏 13:00~17:00 *定員10名、 屋外での作業、水分と服装の注意
早瀬千明	検討中	検討中	検討中



2011.6.4.(土)10:00~12:00
 立博物館・美術館学芸員ボランティア教室岸本 敬学芸員[民俗]
 『ホタルちょうちん作り』



2011.6.10.(金)13:00~15:00

立博物館・美術館学芸員ボランティア教室藤田・山崎 学芸員[人類]

『発掘現場の土をフルイにかけてみよう』 実習室裏にて





2011.5.27.(金)14:00~16:30

県立博物館・美術館学芸員ボランティア教室 與那嶺一子学芸員[美工]

「チョマの繊維の取り方を実験する」

実習室横にて



2011.5.31.(火)10:00~12:00

県立博物館・美術館学芸員ボランティア教室 池原盛浩学芸員[教育普及]

「スケッチ教室」

ボランティア室にて





海に降りるヤドカリの観察

(オカヤドカリの幼生の放出観察) 2011.7.15

博物館班長：濱口寿夫



拓本をとってみよう

印鑑を作ってみよう 2011.7.22

博物館学芸員：園原謙



考古の基本は分類から 2011.9.14 & 2011.9.21
(海底から引き揚げた陶磁器の分類にチャレンジ)

博物館学芸員：片桐千亜紀



岩石破片作成 2012.2.10

博物館学芸員：仲里健



博物館ボランティアのてびき

2011年度版

ボランティア活動テーマ

来館者がよろこぶ博物館に！



沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア

I 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

II 活動の方針

- 1 生涯学習の観点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- 2 ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- 3 来館者を発見へと向かわせるような発問の研究を行います。
- 4 ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

III ボランティアの活動内容

- 1 活動の種類 ① 展示解説ガイド ② 体験学習サポーター ③ 資料整理活動

- 2 活動の内容 ① 展示解説ガイド 「常設展示室」における展示解説、質問対応など（*学校団体/一般来館者）

- ② 体験学習サポーター 「学校団体対応」「ふれあい体験室支援」「体験学習教室支援」

- ③ 資料整理活動 「*学校出前講座」など

- 3 活動の種類、場所、人員の配置数等 「ボランティア間の連絡」「資料整理諸活動」

活動の種類	場所	内容とボランティア配置数	指定管理者担当
(1) 常設展示対応	ふれあい体験室	サポーター=1～3人	1人
(2) 学校団体対応	常設展示室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポーター=若干名	1～2人
(3) 体験学習教室	民家・実習室	サポーター=若干名	2人+外部講師
(4) (財)特別・企画展	特別・企画展示室	サポーター=若干名	なし

4 運営体制

ア 博物館ボランティアは、博物館養成講座履修のボランティアとします。

イ ボランティアは、曜日班に所属し活動します。

ウ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。

エ 曜日班の(副)世話係は、活動の連絡を行います。

博物館担当者・分野及び曜日世話係・文化の杜・友の会による

ボランティア連絡会を月一回開催します。(第3火曜日15:00～)

オ 各分野勉強会に正副の世話係をおきます。

5 経費

ア 博物館において、ボランティア活動の保険に入ります。(保険は毎年4月に更新。保険期間1年。)

イ 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。

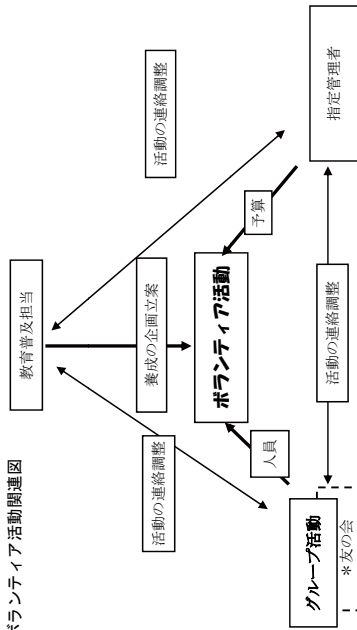
6 活動日、時間、回数

ア 活動は原則的に博物館の開館日とします。

イ 活動時間は、一回で3時間程度とします。(場合によっては考慮します)

ウ 活動回数は、月に2日以上とします。(場合によっては考慮します)

V ボランティア活動関連図



*グループ活動とは：分野別勉強会や曜日と同じ考えで贈活動に取り組むボランティアの自主的な活動をめざす

VI 登録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 養成講座 応募者については、資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。
*H23は休止
- (2) 登録 養成講座受講者のうち、当館が定めるボランティア専門講座を完了した者で、館長の認定した者を正式登録者としてします。
- (3) 登録の更新 登録の活動期間は1年とします。但し、継続を希望し所定の更新研修を完了した者は再登録とします。
- (5) 登録カード ・登録者には登録カードを交付します。活動時は携帯してください。
・ボランティアの継続が出来なくなった際には、カードは返却するものとします。
- (4) 登録の抹消 ・登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は登録を抹消することがあります。

VII ボランティア活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らして、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それにもとづいてボランティア活動を改善計画の作成に資することを目的とします。(評価様式は別に作成する)

- (1) 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- (2) 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- (4) 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。

7 遵守事項

- ア 博物館の諸規則に従ってください。
 - イ 博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
 - ウ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。
 - エ 博物館の名譽を傷つける等の行為は行わないでください。
- ### 8 活動中の事故
- ア ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアまたは他人がけがをした場合は、ボランティア保険の対象となります。(バス見学研修等も含まれます)
 - イ ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身がその責を負うことになります。

IV ボランティア活動の組織

1 役割分担

博物館教育普及	
教育普及	主任担当 池原 富平(記)
イ 担当	副担当

2 ボランティア担当の役割

- ア ボランティア登録に係る諸業務。
- イ ボランティア研修に係る企画、調整。
- ウ ボランティアの活動に関する企画、調整。

3 ボランティアの分野別勉強会

- ア ボランティアの活動を活性化させるために、分野別正副の世話係を置きます。
- イ 正の世話係は分野を代表し、各分野の学芸員と連携を取り、副の世話係は正を補佐します。
- ウ 分野別勉強会の世話係は、学習会の企画をし、ボランティア室において、全ボランティアに告知します。

	正	副
人類学・自然史	波平 恵子	吉見 慶乃
歴史・考古	村田 実	辻本 淳二
美術工芸	水野さよみ	
民俗	大瀧 直	嘉嶋 宗博
ふれあい体験室	特に配置無し	水野 さよみ
体験学習教室	特に配置無し	
曜日世話係 (火)		
" (木)		
" (水)		
" (金)		
" (土)		
" (日)		

ボランティア活動テーマ **来館者がよろこぶ博物館に!**

- 1 博物館ボランティア一人ひとりが、しっかりと自信と自覚を持ち活動していく。
- 2 博物館ボランティア各自が、互いに連絡を取り合い、自主的な活動が活発になる。
- 3 1と2ができれば多様な来館者サービスが充実し、来館者がよくなるようになる。

『沖縄県立博物館・美術館は、〇〇ボランティアがいるから楽しい』と言わせたい。

そのために—

- 1 **一層の自信と自覚がもてるように、スキルアップ研修を行います**
 - ・コーチング研修＝自分の潜在能力を引き出す、自己を知る、コミュニケーション能力…
 - ・マナーアップ研修＝相手を手を思った対応、もてなしの心、接客心得、サポート術、話し方…
- 2 **より積極的な活動ができるように、グループ活動（同じ活動内容に興味のある仲間同士が協力して活動をする）をおこないます**
 - ・自分のできる時、自分のできる場所で自主的・積極的な活動をおこなっていきます
 - ・連絡網を活用し、情報の共有を積極的におこないます
- 3 **グループで協力して活動していきけるようにします**
 - ・博物館＆文化の杜&友の会とボランティア員が、活動について、同じ席で協議します
 - ・博物館担当(池原)がリードします。将来的にはボランティア自身の力で動けるようになればと考えます

楽しいボランティア活動の実現のために、

ボランティアの力を合わせて、博物館ボランティアを盛りあげていく。

来館者がよろこぶ博物館の実現のために、いっしょに奮っていきましょう！ **共育!!**



ボランティア活動の細則

1 活動内容

各活動区分における活動の主な内容は以下の通りです。

- (1) 展示解説ガイドボランティア
 - ア 学校団体向け・常設展示解説（*一般来館者向け）
 - 総合・各部門展示解説

(2) 体験サポーター

ア 館内

イ 体験学習

ウ ふれあい体験室

エ 体験教室・講座・観覧会・移動博物館等における指導補助

オ ふれあい体験室

カ 各種行事の際の指導補助

キ 屋外展示室の活動補助

(3) 資料整理活動

ア ボランティア間の連絡 資料整理諸活動

2 研修プログラム H23年度は(1)～(4)を休止し、スキルアップ研修を開催します。

- (1) 養成講座・・・1日2時間で5日間 合計10時間
 - 例：館長講話、副館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座

(2) 専門講座・・・1日2時間で5日間 合計10時間

(3) 更新研修・・・1日2時間で2日間合計4時間

(4) 臨時研修…必要に応じて随時実習

例：企画展の解説等

3 表彰及び昇格規程

- (1) ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰します。（評価の方法は今後検討）
- (2) ボランティア活動の充実にもとまない、一般来館者向けの解説ガイド等ができるボランティアを
上級ボランティアとして認定していきます。（評価や認定の方法は今後検討）

4 ボランティア活動時の服装等について

- (1) ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書として
ボランティア登録カードを交付します。
ボランティア登録カードを、常に身につけるものとします。（博物館ボランティアは、みどり色のリボン）
- (2) ボランティア活動を行う場合は、安全性と機能性を考え、博物館ボランティアは、みどり色のリボン

5 ボランティア室の使用について

- (1) ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。
- (2) ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
ア 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
イ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用
エ 来館者を発見へと向かわせるような企画研究
ユ ボランティアのための休憩
- (3) ボランティア室には勝手に私物をもちこまないでください。
（個人の持ち物は、自己の責任で管理してください。）
- (4) ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時間までとします。
- (5) ボランティア室は原則として使用したものが片づけを（整備・清掃）するものとします。

6 平成23年度 博物館継続ボランティア 登録証交付式

2011. 5. 13. 教育普及池原

1 趣旨

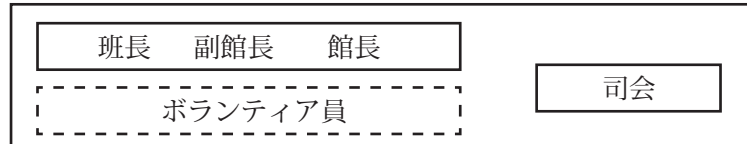
- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営面で更改された事項を確認する。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

2 日時

平成23年5月13日（金） 博物館講座室（14時00分～14時30分）

3 場所

博物館講座室司会



4 式順司会 宮平 妃奈子

- ① 登録証 交付（代表受取） 白保 台一 館長
- ② 館長あいさつ 白保 台一 館長
- ③ 学芸員（博物館職員）紹介 濱口 寿夫 博物館班長
- ④ 文化の杜共同企業事業体代表あいさつ 平良 知二

*登録証 裏面

《ボランティア活動の諸注意》

- ・博物館の諸規則には従ってください。
- ・博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
- ・博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。
- ・博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないでください。
- ・博物館ボランティアとして館外で活動する際には、必ず館職員の許可を得てください。
- ・博物館ボランティアを辞める際には博物館ボランティア登録証（本カード）を返却してください。

900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

急なお休みをするときの連絡先

①博物館班 (098) 851-5401 ②文化の杜 (098) 941-8200 ③友の会 (098) 894-3883

登録証交付式終了後 ボランティア員全体会

14時30分～16時

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員
進行 宮平 妃奈子

1 本年度のボランティア活動について（30分）池原 盛浩

- ① ボランティア活動の方針説明
- ② 『博物館ボランティアのてびき』 読み合せ

2 質疑応答（10分）

—————* 曜日別に座席の移動 * —————

3 曜日別グループミーティング（35分）

（自己紹介、世話係選任、年間活動計画案など）

4 事務連絡（5分）

平成23年度 博物館ボランティア員全体会

平成23年5月13日(金)14:30～16:00 博物館講座室にて
進行：博物館教育普及担当 宮平 紀奈子

- 1 本年度のボランティア活動について(30分)
①ボランティア活動の方針説明
②『博物館ボランティアのてびき』読み合せ
- 2 質疑応答(10分)

メモ

- 3 年間研修計画の説明 (5分)
博物館教育普及担当 池原 盛浩

----- 座 移 動 -----

- 3 曜日グループミーティング (35分) *15:20開始予定
①自己紹介(顔合わせ) ②世話係の選任 *③活動目標・活動計画などについて

メモ

- 4 事務連絡 (5分)

継続ボランティア登録証 交付 館長挨拶

只今、本年度のボランティア登録を希望された皆様に、登録証を交付いたしました。昨年度に引き続きボランティアとしての登録に申請いただいた皆様に感謝申し上げます。本日登録が認められたボランティアは85名(※)になります。

これまで登録には主に、学校団体への展示解説ガイドや誘導ボランティア、体験サポートなど、博物館の様々な支援活動に御援助していただきました。ありがとうございます。

皆様のおかげをもちまして、特に、博物館を利用した学校の先生方からのアンケートには、ボランティアの対応について、感謝の声が多く寄せられております。また、本館は昨年度150万人の来館者数を達成いたしました。これもひとえに皆様の努力の賜物だと考えております。

さて、博物館ボランティアのねらいは、大きく分けて三つあります。一つは、自己研鑽です。生涯学習の一環で、大いに博物館を活用して、皆様自身に学習していただきたいと思っております。

二つ目は、社会への還元です。博物館で得た学習の成果を、ぜひ来館者の皆様へこれから始まるボランティア活動で、発揮して下さい。

三つ目は、仲間づくりです。ボランティア活動を通して人的なネットワークを構築し、楽しく活動して下さい。ボランティアの実践を通して沖縄を学び、県民への文化の橋渡し役として、大いに活動して下さい。

かつてボランティア活動は、社会奉仕という概念のもと行われてきました。

しかし、現在では、社会貢献という考えに変わってきております。当館の活動も、今年度は開館4年目に入りました。ますます多様化する来館者の要望に添っていくためにも、よりきめ細かなサービスが求められています。その意味からも皆様の果たす役割や存在意義がより重要になってきています。

どうぞ多くの県民に親しまれ、愛され、開かれた博物館づくりのために、これからもご尽力くださいますよう、お願い致します。

館長：白保台一

※のちに87名

【交付式・全体会の様子】



館長挨拶



学芸員紹介



教育普及スタッフ紹介



全体会（司会：池原）



全体会の様子



質疑の様子



質疑の様子



質疑の様子



曜日班に分かれて



人数の多い班もあれば



少人数の班も



お世話係を選任

交付式（館長挨拶、学芸員紹介等）の後に、ボランティア全体会を持ち、手引きの読み合わせや前年度までの疑問点や活動方針などについて教育普及担当：池原学芸員とボランティア間で意見の交換を行った。その後、曜日班に分かれて各班でお世話係の選任や今後の活動計画、定例会の設定等を行った。後日の追加登録も含め平成23年度の継続者登録者は87名で、この日の参加者は、56名であった。

H23年度 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア【曜日班編成表】

(2011.05.06現在)

火			水			木		
登録番号	名前	備考	登録番号	名前	備考	登録番号	名前	備考
1	07012 大嵩シゲ		07006 新崎和子			07042 富間子ズ子		
2	07021 喜屋武禮子		07022 金城きみ子			07060 野村力		
3	07023 具志堅直子		07027 源河朝福			07077 宮里佐代子		
4	07051 長嶺昌代		07035 真貝敬子			07078 宮良友子		
5	07067 堀川政子		07064 平櫛紀代子			08109 大濱直		
6	08135 辻田忠弘		07065 平田由美			08114 桑江千鶴子		
7	09180 知念清子		07069 松川潤一郎			08150 宮地順子		
8	09185 吉田孝子		07070 松川郁子			08165 座安英明		
9	10198 加藤弥生		07090 与那嶺彪			09171 稲村幸子		
10	10199 金井光和		07097 又吉健			09173 内間真理子		
11	10203 川上辰雄		08098 赤嶺幸夫			10191 安谷屋昭子		
12	10205 北村昌未		08141 渡久地愛子			10195 上原京子		
13	10206 國松正一		08153 本村朝進			10207 國場榮子		
14	10208 古波倉正子		09170 池内喜与美			10209 下地トミ子		
15	10215 又吉孝子		09188 城間久子					
16			10192 安和艶子					
17			10194 池間尚子					
18			10200 金城和昌					

金			土			日		
登録番号	名前	備考	登録番号	名前	備考	登録番号	名前	備考
1	07030 佐久原好勇		07001 赤崎義房			08124 砂辺節		
2	07049 長田由美子		07047 友利克実			08133 辻本淳二		
3	07050 仲地フミ		07057 西川恵子			08134 辻本淑子		
4	07056 波平恵子		07081 村田実			08149 水野さよみ		
5	07059 新田宗秀		07089 吉見綾乃			08157 山城喜代子		
6	07076 宮里定典		08112 我那覇偉			09168 渡慶次洋子		
7	07080 宮良百合子		08126 平良臣子			09177 喜屋武ミヨ子		
8	08108 生方美奈子		09176 嘉陽宗博			10197 嘉手納順子		
9	08121 島袋美智子		10189 阿賀嶺未智子			10201 兼久久枝		
10	09182 渡具知武清		10190 安里勝子			10214 花城美江子		
11	09187 田場勝子		10196 上原美佐子					
12	10193 安斎孝意		10213 長嶺道子					
13	10202 上運天美代子		10218 與那嶺昌美					
14	10210 末吉愛子		10219 中村恭明					
15	10211 照屋久美子							
16	10216 山浦久美							

※希望日で設定したが、全体会后に移動有

★☆☆曜日班一覧☆☆★

	班会議日時	世話係
火曜	第4火曜日 10:00～	正：國松 正一 (代理)金井 副：北村 昌未
水曜	第1水曜日 13:30～	* 毎月交代
木曜	第4木曜日 13:00～	大濱 直 桑江 千鶴子
金曜	第3金曜日 10:00～	正：田場 勝子 副：山浦 久美
土曜	第2土曜日 11:00～	正：長嶺 道子 副：平良 臣子
日曜	第2日曜日 10:00～	正：辻本 淳二 副：水野・花城

7 ボランティア活動の様子



上記は、学校対応プログラム時のボランティアの活動の様子である。

平成 23 年度は、44 校の小学校に対応し、一校につき約 18 名のボランティアにご協力いただいた。



平成 22 年のタイムズの新聞スクラップが、第一弾として情報センター奥の書架に並びました。新報も整理中です。



シーズンごとに県内外各地へ当館の資料を発送する際の作業をお手伝いしています。



ふれあい体験室の手引きを作る会議や資料製作・清掃・整備、来館者の体験のサポートなども行っています。



友の会とボランティアを兼ねている方も多く、宮古島での移動展には、友の会のキャラバン隊とボランティア混在のメンバー集結！資料の監視員や、紙芝居や骨スーツの体験等のサポートもしていただきました。



外部講師や学芸員の体験教室の打ち合わせや勉強会への参加、準備、当日のお手伝いもしています。

その他にも・・・



けんぱくキット開発会議への参加



僻地・小規模校へのガイド



工房や施設を訪ねての勉強会

上記の活動の他にもボランティアは、各曜日班や勉強会に参加し、様々な研修会や勉強会を独自に行っています。今年度は例年にも増して活動躍進の年でした。今後も、様々な方面での博物館ボランティアの活躍を期待します。

ボランティアの活動は、博物館班のみならず、指定管理者：文化の杜、博物館支援団体：博物館友の会のご協力により支えられています。

(当真 妃奈子)

発行日：2011年3月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722 No.2

ボランティアの皆さま、半年間いろいろな期間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。博物館業務に携わり、皆さまの博物館支援や子ども達への支援は、本当に嬉しい事だと感じておりました。

遠くからボランティア活動に参加される方、毎日お仕事のように活動される方、年齢を重ねても元気なエネルギーを発揮されている方...そして、同僚の先輩の方の多くとそばに心を通わしました。

お一人、お一人の「博物館が好き」その気持の輪が今後も拡大する事を願っております！
有り難うございました
瀬底正美



私にとって県立博物館での半年間の勤務は、新鮮で学びの多いあっという間の出来事でした。その中でも民具体験学習を通して、人生経験豊富なボランティアの方々との交流をもてたことで、今後の私に必要な知見を身につけることができました。半年間本当にありがとうございました。
奥座 貴博

昨年9月から今年3月まで、「沖縄県立博物館・美術館教育力向上支援事業」という名のよほど、3名の方々が博物館班の教育普及事業に携わり、そのうち、心算学専門の瀬底さんを始め、教員を目指す奥座さんのお二人がボランティアの皆さんと協力して学校対応プログラムに携わり、そこで得られた傾向と対策をレポートにまとめました。また、特別支援学校へ出前授業にも動かれ、先生方や生徒達からのデータを通して来賓の嬉しい子たちへの為の持出しキットの制作にも携わり、キットの構想を形にする為に最終日まで走り回っていました。瀬底さんと奥座さんは、初めて携わる業務を担いまして、様々な形で残っていてくれました。

奥座大好き福井の元学芸員依藤さんは、中村さん、渡辺さんと一緒にふれあい体験室のリーフレットの構想や、瀬底さん、奥座さんと家習町児童館の整備をしたり、普及資料のデータ整理に携わっていました。

現在、3名が残してくれた成果物を形にすべく、文化の杜の平島さんや渡辺さん、中村さんが業務と調整中です。今後の経過は、少しずつお伝えしていけたらと思います。(博物館教育普及)



まずは半年間ありがとうございました。皆さんが博物館での活動にやりがいを見出してくださっていることが、とてもありがたい状況だと思います。私は後半はたまにまじりかたで皆さんと活動できなかったのですが、弊に民具体験で皆さんが運営に携わっていく様子を見たり、どのような意見を持っていたらいいのかなど、目の当たりにさせていただき、自分でも勉強になりました。どこかでお会いできれば幸いです。
佐藤友香

沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティアの登録に関して

18日にボランティア全体会を持ちました。その際に、「博物館ボランティア登録申請書」も配りました。

提出は、3/29(火)です。
大層された方は、池原まで受取りにいらしてください。
博物館学芸員室：098-951-5401(内線253)

票面もあります。

文化の杜から

今月からふれあい体験スタンプに安慶名 健吾(あげな けんご)さんが加わりました。琉球大学3年生、琉球民俗学を専攻されていて、カボエイラのサークルに所属されているそうです。是非、今度披露してもらいたいものですね、ご指導よろしくお願いたします。(渡部)

はじめまして、3月1日より文化の杜共同体の教育普及班に仲間入りしました大濱萌子です。これまで、奈良県明日香村の県立万葉文化館で勤めておりました。私は、那覇市首里出身で先祖は八重山の正真正正の沖縄人(うちなーんちゅ)です。趣味は、街並み散策と色鮮やかな草花の写真を撮ることです。よく「離れて気付く故郷の良さ」と言われますが、私も最近カメラアライを通して、そのことを実感しております。これからはボランティアの方々と交流を深めて沖縄のこと、博物館・美術館のことについて沢山学んでまいりたいと思っております。皆様には、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが一生懸命頑張りますのでご指導宜しくお願いします。(大濱)

民俗勉強会の報告

3月の民俗の勉強会は、糸満海人工房資料館に出向き、理事長の上原さんから「海のワザ」に関わる多くの話聞くことができました。特に、ミーカガン(水中メガネ)を最初イモで作ったとか、完成するまでのことを実物を見せながら説明してもらいました。民俗展示の展示物を理解するのにとても有意義な見学会でした。



4月の勉強会

- ※ 民俗勉強会 4/2(土) 10:00~12:00 (ボランティア室)
平成23年度世話人の選出及び上期の勉強会メニュー等について。
*メンバー全員の参加を是非お願いします。
- ※ 歴史勉強会 4/9(土) 10:00~12:00 ガイドマニュアル作成(3階研修室)
- ※ 美工勉強会 未定 (担当者にご確認ください)
- ※ 自然勉強会 未定 (担当者にご確認ください)



発行日：2011年4月26日 発行 098-868-2722 No.1

※必ずご参加ください!!

お知らせ

登録証交付式と**全体会**があります。
☆5月13日(金)14時～16時ごろまで

*全員参加をお願いします。(お仕事の都合等どうしても参加の出来ない方は、教育普及(池原、宮平)までご連絡ください。) *登録証の色が若草色に変わります。昨年度の登録証と引換になります。

スキルアップ研修

※コミュニケーションミナ等

A☆5月18日(水)または6月11日(土)14時～(1時間半程度)

B☆6月18日(土)または7月7日(木)14時～(1時間半程度)

※スキルアップ研修に関しては、A・Bとも必ずいずれかの日を選んで受講してください。全員が受講出来るように、どちらも同じ内容で設定しています。

講師：**A** 神村佳宏氏 (ハートフルオフィス) **B** 小郡頼理奈 (オフィス・キャリアール)

年度替わりに、学芸員の移動がありました。

羽方学芸員⇒埋蔵文化財センターへ

平川学芸員⇒文化財課へ

☆新職員紹介

考 古 担 当：片桐千恵紀学芸員⇒埋蔵文化財センターより

美術工芸担当：園原 謙 学芸員 ⇒平和祈念資料館より

崎原恭子学芸員(産休・育休)の代わりに、早瀬千秋学芸員が文化財課を経て歴史担当で当館へ

平川学芸員と羽方学芸員からのメッセージ

「旧館から色々とお世話になってきました。皆さんの笑顔とサポートに支えられたの博物館だと思えます。これからも博物館・美術館をよろしくお願ひします。」

「僕の拙い講座等に参加していただきありがとうございます。発送作業等でもお世話になりました。お体に気をつけてボランティア活動を楽しますように。」

崎原学芸員は、赤ちゃんを博物館に連れてきますと約束していました。今月が出産予定です。元気な赤ちゃんが生まれますように☆安産を祈っています*。*☆

裏面もあります。

発行日：2011年5月25日 発行：沖繩博物館友の会 電：098-868-2722

お知らせ

今年度のボランティア活動の開始!!

1 5月13日(金曜)白保館長より、継続ボランティアの皆様へ登録証が交付され、今年度の博物館ボランティアの活動が始まりました。

配布された「博物館ボランティアのてびき」「今年度の方針」「各種研修一覧」さらにボランティア室に掲示してある「各種お知らせ」を確認し、各自活動を始めていただきたいと思ひます。

2 **スキルアップ研修** 受講されましたか? * 必須の研修です!

3 **登録証の交付がまだの方は、博物館学芸員室：池原までー!** * 至急

* 1の「配布資料」と「新編駐車場許可書」も合わせて配布しています。

～ 文化の杜から ～

去る5月13日、ボランティア認定証交付式を無事終えることができました。今年度は85名の皆様に参加を継続していただくことができました。とても心強く感じるとともに、深く感謝申し上げます。今年度は、新規募集を見合わせたことをはじめ、いつもと違う雰囲気戸惑われている方も多いかと思ひます。継続ボランティアを対象としたスキルアップ講座を開催することにつきましては、コーチングやマナー講座といった内容を皆さんがどう感じるか、正直不安でした。しかし、先日開催した神村氏をお招きしたの第1回目の講座で、皆さんが笑顔で受講されている姿を見て、少し安心しています。「お客様が喜ぶ博物館づくり」をテーマに、私自身も勉強させていただきたいと思ひています。

さて、話はこちらと変わりますが、先月とても嬉しいことがありました。展示室を巡回していると、私を見つめる少年とお母さんがいます。「どこかで見た覚えがある人だけど、誰だったかな?」と思ひながら挨拶をすると、母「つかぬことを伺いますが、沖繩の方ですか?」、私「!!!」、7,8年ぶりの再会でした。以前、勤務していた千葉の博物館に一時期、通いつめていた母子で、その時ヨチヨチ歩きだった男の子が4年生になりました。男の子の名前が個性だったもので、すぐに思い出すが、お話を聞くと、福島原発の一件で沖繩に約2週間滞在していたとの事、食事で離れ離れになった人から「博物館がおもしろいよ!」とすめられたことをきっかけに、男の子が自ら「行こう!」と思ひ立ってくれたそうです。少しは小さい頃のことを覚えていてくれたのかな、と自分の仕事に対し意味を感じた日でした。私は、博物館で仕事することは「タネ」を蒔くことだと思ひます。彼の中マタネが芽吹き、育ってくれたら、本当に嬉しいと思ひます。(中村)

6月の勉強会

※ 民俗勉強会 6/4 (土) 10:00～12:00 (実習室)

「ホテルちようちん(カゴ)を作ってみよう」に参加 岸本 教学芸員

※ 歴史勉強会 6/11 (土) 10:00～12:00 (3階研修室) ガイドマニュアルの検討勉強会

※ 美工勉強会 未定 (担当者にご確認下さい)

※ 自然勉強会 6/11 (土) 14:00～ バックヤードツアー (考古)

6/25 (土) 10:00～ 末吉公園の植物観察会

平成23年度世話人 波平 恵子・吉見 綾乃

発行日：2011年6月25日 発行：沖繩博物館友の会 ☎：098-868-2722

☆ボランティアスキルアップ研修

コーチング研修が終了し、マナーアップ研修も始まっています。

必須研修です！ 7月7日(木) マナー研修 14:00～16:00

<追加講座予定>

コーチング研修Ⅱを開講することになりました。

8月23日(火)もしくは、9月3日(土)どちらも14:00～16:00の受講になります。どちらかの日程で全員が参加できますよう、スケジュールの調整をお願いいたします。

☆グループ会議☆

- ・「ふれあい体験室の在り方について」グループ会議…7月8日(金) 15時～
- ・「ふれあい体験室のてびき」配布と読み合わせ会…7月20日(水) 15時～

☆学芸員教室(ポラテア向け)

7/5(火) 田中 7/12・7/15=漢口 7/22=國原

*園原学芸員の教室は、8/5-7/22に日程変更になりました。各教室の内容につきましては、全体会の資料(「ポラテア各種研修<教室・勉強会>」をらんくください。

*各教室の時間や準備するものなど詳細は、ポスター等でポラテア室に掲示します。そちらでご確認ください。

～ 文化の杜から ～

現在制作中のふれあい体験室のパンフレットは、常連さんも楽しめるよう、繰り返し使える楽しいパンフレットを目指しています。分野ごとにクイズがあったり、体験キットをクリアすることによってもらえるし、くみになっていきます。また、そのスタンプは6コママンガになっていて、「体験キットをもっとクリアして、次のスタンプをもらおう」と思わせるしかけになっています。パンフレットの名前は、ふれあい体験室で体験すること、ふれあい体験室を探索する探検隊の意味、お客様とスタッフやボランティアの皆さんとの関係を表し、「ふれあいシート」と名づけました。7月中旬からふれあい体験室で配布する予定です。体験キットと共にご利用いただけるよう、来館者へのご案内をよろしくお願ひします。(課部)



6/4 岸本 学芸員教室(民俗勉強会)での「ホテルちようちん作り」

7月の勉強会

※ 民俗勉強会	7/9(土) 10:00～12:00	ポラテア室
※ 歴史勉強会	7/9(土) 10:00～12:00	3階研修室 (ガイドマニキュアル作成)
※ 自然勉強会	7/12(火) 琉大「風樹館」見学	9:00 博物館バス駐車場前に集合 9:45 現地集合
※ 美工勉強会	未定	(担当者にご確認下さい)

発行日：2011年4月26日 発行：098-868-2722 No.2

文化の杜から

春の陽気が続く今日この頃、新年度もスタートしGWが近づいてまいりました。私にとっては勤務し始めて約1ヶ月、少しずつ皆さんと交流を深めてきたと思っています。そこで今回は、私がボランティアさんと接してきたことが素敵!と思ったことをお話しします。

まず、お仕事して時の皆さんの笑顔が素敵だと思えます。ニコニコしながら子どもたちと接する姿がとても印象的です。次に、一人一人の知識が豊富であるということ。一つのモノに関する引き出しが多く、私も沢山ご教授いただきました。そして最後に、多くのボランティアさんが声をそろえて「博物館の役に立ちたくて参加しています」とお話ししてくださいました。博物館への愛憎を感じるとともに、とても貴重な存在だと日々感じております。いい刺激をいただきましたありがとうございます。

いよいよ今年度も学校団体のプログラムも始まります。情報センターには、続々と団体予約も入ってきております。皆さんと共に力を合わせ、笑顔のまんままで皆様と業務に励みたいと思っております。今後とも、宜しくお願ひいたします。(大浜)

5月の勉強会

- ※ 民俗勉強会 5/7(土) 10:00～12:00 (ポラテア室)
- ※ 歴史勉強会 5/14(土) 10:00～12:00
ガイドマニキュアルの勉強会 岸本 学芸員
ガイドマニキュアル作成
年間計画打合せ(3階研修室)
- ※ 美工勉強会 未定(担当者にご確認ください)
- ※ 自然勉強会 未定(担当者にご確認ください)

今後の民俗勉強会の日程

- 平成23年度世話人 大濱 直・嘉陽 宗博・水野 さよみ
- 6月 ホテルちようちん籠作り 事前勉強会 岸本 学芸員
 - 7月 " " 学芸員講座手伝い 岸本 学芸員
 - 8月 ガイドマニキュアルの勉強会 岸本 学芸員
 - 9月 名護市屋敷の芸能の踊り見学(友の会行事への参加)

☆ボランティアスキップ研修<追加講座>コーチング研修IIを開講します>
必修研修です！

8月23日(水)もしくは、9月11日(日)どちらも14:00～16:00です。
 いづれかに参加できますよう、スケジュールの調整をお願いします。

*当初9/3(土)、次に9/10(土)と、お知らせしていましたが、施設予約の関係で

9月11日(日)となりました。再三の日程変更で、申し訳ありません

☆グループ会議 ☆

- ・「学校出前講座について」グループ会議
8月9日(火) 14時～ボランティア室にて
- ・「民具体験学習について」グループ会議
8月17日(水) 14時～ボランティア室にて
- ・「資料整理活動について」グループ会議
8月24日(水) 14時～ボランティア室にて

～文化の社～

毎日暑い日が続いている中、ボランティア活動にご協力いただき有難うございます。
 さて、5月～7月に神村先生のコーチング研修、小那覇先生のマナー研修が行われましたがいかがでしたでしょうか。私はというと研修を受ける前は、テレビで見かけるマナー研修を想像し、かなり緊張しましたが、実際はとても美しく皆さんと交流を深めながら受講することができました。また会場では皆さんのすてきな笑顔がたくさん見られ、とても充実した様子を物語っていたと感じております。

皆さんからの反響を受け、神村先生によりますコーチング研修 第2弾を8/23-9/11に予定しております。こちらもまた是非ご参加ください。

夏が過ぎると、いよいよ学校団体に向けた対応が始まります！

今回の研修で身につけた技を發揮し、笑顔いっぱい楽しい活動にしていきましょう！(大浜)

8月の勉強会

- ※ 美史勉強会・・・7/31(日)10:00～ボランティア室
 園原学芸員をお迎えし、美工班の方針を話し合います。
募集中心！美工ボランティア勉強会員(勉強会の時間:場所:直接お申し込み)
楽しい美工班にしたいと思えます。
- ※ 民俗勉強会・・・8/6(土)10:00～12:00 ボランティア室
 民俗展示解説ガイド実施(一般:修学旅行生)に向けての話し合い
- ※ 歴史勉強会・・・8/13(土)10:00～12:00 常設展示室・3階研修室
 ガイドマニュアル作成(常設展示室でガイド後、研修室で検討会を行います)
- ※ 自然勉強会・・・未定(担当者にご確認下さい)

☆☆☆ ～浜比嘉島のナイトツアー～☆☆☆

7月15日夜、濱口班長による「オカヤドカリの放幼観察」が浜比嘉島で行われました。学芸員のご家族も現地でご覧され大盛り上がり。この日は大潮。見事な満月に酔いしれていい気分になってきたところへ、浜はオカヤドカリで混雑し始め、みんな大歓声！放幼の邪魔にならないよう懐中電灯をそらし息を凝らしてその瞬間を待ちます。でもあつという間に幼生を放出するため、なんと自分の動体視力ではついていけない。早々と観察できた人からそのテクニクを伝授してもらうものの、これがなかなか難しい。初めは放幼をみるのに夢中だった私たちが、でもいつの間にか必死でからたをポンピングするこの主役たちに「がんばれえ～」と誰もが声を囁かしていったのです。

目取真俊氏の短編「理込め」に登場するアーマンは薄気味悪いイメージがありますが、ここに現れた大ヤドカリたちはなんと健気なことか。たくさんの元気をもらいました。もちろん参加した子供たちからも、すっかり童心に返った大人たちの中には、この夜マブイを落としてしまった方もいるかもしれませんね・・・
 加藤 弥生



※ 歴史・考古勉強会のごき

6月と7月は現在作成中のガイドブックを用いて展示室で仲間を相手にガイドを試みています。実際には声を出して、相手の顔を見ながら、展示物を示しながらのガイドは単に文字を読み上げるのとは大きく違い、予期せぬ戸惑いもあつたようです。しかし、皆一生懸命でした。わずか5・6分のガイドも緊張と冷房のせいかわカラカラになりました。話す内容やテクニクも大事であるが体調の管理も大事なようです。

学校対応「民具体験プログラム」

「民具体験学習」が始まりました！
 “子ども達が楽しく学べる場づくりの為に、お力添えをお願いします”
 (8.20 現在の申し込み状況～10月上旬まで)

日付	曜日	時間	学年	学校名	組	生徒数
8月31日	水	9:30～11:30	4年	大名小学校	2クラス	48名
9月13日	火	*集合 10:30/11:00～12:50	4年	東風平小学校	4クラス	150名
9月15日	木	9:30～11:30	3年	具志頭小学校	2クラス	56名
9月27日	火	*集合 12:30/13:00～15:00	3年	歴安小学校	4クラス	135名
9月28日	水	9:30～11:00	3年	兼城小学校	3クラス	118名
10月4日	火	9:30～12:00	3/4年	喜瀬武原小	1クラス	6名

スキルアップ講座

9/11(日) 14:00～16:00 【コーチャング研修Ⅱ】

* 8/23(火)未受講の方はこの日に参加下さい。

ポラテンテイア向け学芸員教室

1日目 9/14(水) 1～2日目 9/21(水) …連続講座 (考古：片桐千亜紀学芸員)

14:00～ポラテンテイア室にて

～ 文化の社 ～

一年の中でも、夏休みのこの時期は、多くの子ども達とふれあえる楽しい時期です。忙しい中、ふれあい体験室の運営にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。さて、ふれあい体験室で配布中の「ふれたいシート」は手にして頂けたでしょうか？当初、ふれあい体験室を紹介するためのパンフレットを作る予定でしたが、「それだけではつまらない」と考え、リピーター作りを目的に、問題に答えると、6種類のスタンプを押してもらえるとくみになっています。「スタンプが理まったら何か貰えますか？」という質問が多いようですが、景品はありません。スタンプが理まった「ふれたいシート」は、ふれあい体験室での体験が修了した証明書です。クリアした子どもには「よくがんばったね」と誉めてあげてください。そして、常設展示室や野外への発展を促してください。「ふれたいシート」が体験キットとお客様を繋ぎ、さらには、コミュニケーションも生み出してくれることを期待しています。(渡部)

9月の勉強会

- ※ 民俗勉強会・・・9/3(土) 10:00～12:00 ポラテンテイア室
民俗展示解説ガイド実施(一般・修学旅行生)に向けての話し合い
- ※ 歴史勉強会・・・9/10(土) 10:00～12:00 常設展示室・3階研修室
ガイドマニュアル作成(常設展示室でガイド後、研修室で検討会を行います)
- ※ 美工勉強会・・・9/24(土) 13:00～14:00 ポラテンテイア室
「古琉球の美」 園原・興那嶺学芸員と共に
美工ポラテンテイア勉強会員 募集中!! (どなたでもどうぞ♪)
- ※ 自然勉強会・・・未定(担当者にご確認下さい)

～ 内間御殿見学会 ～

金唯班 田場 勝子

ある日のポラテンテイア室での曜日状況報告会の中で、内間御殿の事が話題になり、歴史班にも属している新田宗秀さんの協力で私達の希望通り、野外授業が実現することになり、十六人の方が参加しました。

新田さんは説明レジュメや貴重な写真等を準備して下さり、博識ある解説ガイドで、分かりやすく、聞きとりやすく、多くの事を学んだ。

御殿は現在の西原町嘉手苺にあり2011年2月7日に国指定文化財に指定されている。内間金丸は伊是名村に生まれ、島を出て国頭間切宜名真村や奥間村を経て首里による。内間地頭を経て、御城御嶺側になり、1470年琉球国王に即位し、第二尚王朝の始祖となる。

約1400坪の敷地には大木のフクギが数多くあり、屋敷囲いのずっしりした「あいかた積み」の石垣が御殿の風格を表わしている。(1736年に竹垣から石垣になった。)第二次大戦前の内間御殿の正門は、瓦葺き屋根付きの板戸式であり、第二尚王朝十三代目王、尚敬の頃建てられた。そこには本型の扁額「致和」が軒に掲げられていたが、この扁額は現在、県立博物館に展示されている。また、石製(致和の扁額)は御殿に建てたが、現在は東江御殿神殿にある。

正門入口から東江御殿までの浮道(高貴な人が通った道)を通ると、先王田老碑の台座部分の碑文が目に入る。首里王府の国家的神殿として重要な場所である。敷地内には子宝の神である東ウビジル(御霊石)や西江御殿のウビジルがまつられていた。金丸が使ったと伝えられるカニマールカー(御井戸)をはじめ、いくつもの井戸があり、私達は蚊の大量に大歓迎された。西原町のシンボルの木である樹齢470年のサガリバナは淡いピンクの花びらを夏の夜に垂れ下げ甘い香りを満たして毎年、多くの観客を魅きつけている。

見学後、和気藹々の雰囲気の中、西原町のサンエーで昼食を楽しんだ。スーパードライの新田さん心から感謝！また、新田ファンが増えそうだ！

裏面へ続く

☆今月も7校の学校が民具体験で来館します!!

<10月の学校対応プログラム予定>

日付	実施時間	集合	学校名	学年	組数	生徒数
1 4日 火	9:30~12:00	9:00	恩納村立 喜納武原小学校	3・4年	合同1	11名
2 5日 水	9:30~11:30	9:00	南風原町立 翔南小学校	4年	3	94名
3 20日 木	9:30~12:00	9:00	中城村立 津覇小学校	4年	3	80名
4 21日 金	9:30~11:15	9:00	那覇市立 城南小学校	4年	2	79名
5 25日 火	9:30~12:00	9:00	那覇市立 石嶺小学校	4年	4	133名
6 26日 水	9:30~11:30	9:00	西原町立 西原東小学校	4年	2	73名
7 27日 木	9:30~12:00	9:00	南風原町立 津嘉山小学校	4年	3	115名

所原曜日にこだわることなく、お互いに声を掛けあって、子どもたちの学習の場のサポートをしていただけましたら幸いです。

まだ日中は日差しが強い為、熱中症対策（帽子、水分補給）を怠らないよう、お気を付けてください。ご協力のほどよろしくお願いたしました。

☆5月からスタートしたスキルアップ研修が、終了しました。神村氏によるコーチング研修と小那覇氏によるマナー研修は、博物館というコミュニティにおいてお互いを見つめなおす良い機会になったと思います。最終的に7割の方がこの研修に出席しました。これらの研修で得たものを、現場での実践で、意識していただきたいと思っています。

☆全体会開催（予定）

11月10日（木）15時～、博物館講義室にて全体会を予定しています。詳細は、後日ポランテア室にて掲示連絡いたします。

～ 文化の杜 ～

「印象派の誕生」展は、ご覧いただけただけででしょうか？最終日には、閉館以来はじめて、美術館に足跡の列ができあがりました。1時間近くお待ちいただいた方もいらっしやっただけです。お洒落をして優雅な時間を楽しまれるお客様もいる一方、作品を近くで見ようとするとあまり、間近に顔を寄せたり、指をさしたりと、監視業務をするスタッフは、大切な作品とお客様の安全を守る責任感から、気苦労が多い毎日でした。幸い、作品の搬出時のチェックでは異常もなく、担当者もほっと一安心しています。以前、作家さんから「神龍にこんな立派な美術館ができてうれしい。でも、美術館でのマナーはまだまだ。あなたたちは、ルールを教えることがひとつの仕事だと思って取り組んでほしい」と言われました。とても印象深い一言でした。大賑わいだった夏休みも終わり、ほっとしたのつかの間、今度は学校団体が押し寄せる季節となりました。博物館に初めて来る子どもたちも多いことでしょう。誰もが居心地のよい空間を作るため、子どもたちに知識やルールを教えることももちろんですが、まずは博物館の楽しさや親しみを感じてもらいたい。これは、職員ではなく、ボランティアの皆さんが役割が大きいように思います。ぜひ、一緒によろしくお願いたします。（中村）

No.3

写真掲示板
◎曜日班のうごき

今回は金曜班の屋外研修の様子です。
ガイドは同じ金曜班の新田宗秀さんです。



新田さんの解説に聞き
いる皆さん



内間御殿の正面

この鳥居のことも
話しが盛り上がりました。



研修後の最も楽しいひととき



- 10月の勉強会
- ※ 歴史勉強会・・・10/8(土) 10:00～12:00 3階研修室
ガイドマニュアル検討(出来上がりつつあるマニュアルを皆さんで検討します。)
 - ※ 美工勉強会・・・10/29(土) 15:00～ ポラテイア室
「古琉球の美」(石獅子・羽目)
美工ポラテイア勉強会員 募集中!! (どなたでもどうぞ)
 - ※ 民俗勉強会・・・未定 (ポラテイア室の揭示版をご確認下さい)
 - ※ 自然勉強会・・・未定 (ポラテイア室の揭示版をご確認下さい)

※～※～ 自然班館外学習会 ～※～※

7月12日(火) 琉大「風樹館」の見学会に続き、8月22日(月) 宜野湾市立博物館の特別展『人類の足あと展』を自然班以外の皆さんも含め18名の参加で実施されました。サヘラントロプス・チャダレンシス(猿人)から、ホモ・サピエンス(新人)までの700万年の長い人類の足あとを、館長の知念勇氏が解説して下さい、さらに波平恵子さんの説明がありました。

人類の歴史は苦学意識が強く、歴史を学ぶ際、常にさけてきた分野であり今回の見学会を通して、人類の歴史を学ぶ事の大事さを痛感しました。

さらに数多くの資料や展示物を子供達に興味、関心を持たせる様に、体験コーナーや展示方法に創意工夫がされていた点、県博の資料が多く活用されている事等も学習する事が出来ました。

博物館見学会後 近くの森川公園内の羽衣伝説の「森川の泉」と牧港が一望できる丘に登り、貿易を盛んに行なったという蔡度王時代にしばし想いを馳せた。しばらく公園散策後、「ジミー大山店」で、ダイエットを気にしながら、和やかな雰囲気でのバイキングの食事をし、楽しく有意義な一日でした。この様な楽しい計画もあってもいいのかなーと思います。

島袋 美智子



～ 教育普及 ～

《ポラテイア全体会》開催します ☆☆全員参加☆☆

●11月10日(木曜日) 午後3時～5時まで一博物館講座室にて
持参するもの
1. ポラテイア登録証 (活動時に必ず身に付けてます)
2. 「博物館ポラテイアのてびき」2011年度版
3. 筆記用具

学校対応(民具体験プログラム)

「民具体験学習」真ん中ですが... 人手が不足しています!!
民具体験学習の支援未経験の方でも大丈夫です!!
ご協力お願いします!!

(11月の申し込み状況)

月	曜日	時間帯	集合	学校名	学年	組数	人数
1	11/1	火 9:30～12:00	9:00	浦添市立 当山小学校	4年	2	72名
2	11/2	水 9:30～11:30	9:00	北谷町立 北谷小学校	4年	3	117名
3	11/8	火 9:30～12:00	9:00	浦添市立 当山小学校	4年	3	108名
4	11/9	水 9:30～11:00	9:00	浦添市立 港川小学校	4年	4	160名
5	11/10	木 9:30～11:45	9:00	那覇市立 天妃小学校	4年	3	95名
6	11/15	火 9:30～12:00	9:00	豊見城市立 豊見城小学校	4年	3	93名
7	11/16	水 9:30～13:00	9:00	那覇市立 真地小学校	4年	3	87名
8	11/17	木 9:30～12:00	9:00	那覇市立 上間小学校	4年	3	108名
9	11/22	火 9:30～11:30	9:00	豊見城市立 とよみ小学校	4年	3	122名
10	11/24	木 9:30～11:30	9:00	那覇市立 小録小学校	4年	2	62名
11	11/29	火 9:30～11:30	9:00	那覇市立 城東小学校	4年	3	117名

～ 文化の社～

「民具体験」

私具体験学習で心がけていること、それは「開いた発問」です。

私の担当する「民具体験」では、素材や使用方法について説明しますが、ここでは「何でできている? どうやって作られている? どう使う?」と、子どもたちへ問いかけながら今と昔の生活様式の違いを伝えるようにしています。最近では、今日はどんな答えてくれるかなどワクワクしながら発問をするのが楽しみです。しかし、こんな気持ちになったのは、ポラテイアさんと子どもたちとのある会話を耳にしたことがきっかけでした。

ある日、民具体験から解説にやってきました子どもが、「バーギ」や「ガンジョ」は今で言う何になるの? と、ポラテイアさんに質問していました。ポラテイアさんは「皆は、スーパードに行くとか何に入れるかな? レジまでどうやって運ぶかな?」と、答えではなく発問で返していました。すると子どもたちは、しばらく考え「籠とカートだ!」と、声をあげて嬉しそうに答えました。その後、ポラテイアさんは現代との生活の違いだけでなく、民具体験がモノに変化し、今に生きていくということもお話していました。このやりとりから、子どもたちに想像させるための発問のテクニックが必要だと感じました。

今月も多くの学校団体が体験学習のために訪れます。今日もまたあの日のポラテイアさんを思い浮かべながら上手な発問ができるように頑張ります。(大浜 萌子)

～ 教育普及 ～

☆以前掲示した学校対抗の12月の予定に追加がありました。ボランティア室の日程表（ホワイトボード）にてご確認ください。
9・10・11月と夏季のように学校が続き、沢山のボランティアさんがサポートしてくださっていますが、疲れが出てきたのか12月の予定表には、まだまだ記念空欄が目立ちます。今年も残すところあと数校となっています。子どもたちを博物館好きにさせたいチャンスを！
みんなでリピーターを増やしませんか？ まだ対応したことない方々も、ぜひご協力よろしくお願ひします。

☆12月3日（土）15時～ 『ボランティア全体会Ⅱ』があります。前回の11月10日（木）に参加出来なかった方は是非ご参加ください（電話等、連絡網でお世話係さんより連絡済）。

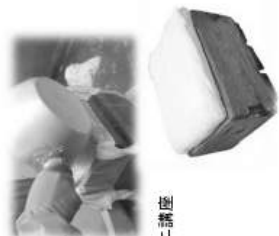
☆年末年始に向け、各曜日班や勉強班で色々な企画を練っているようです。是非ボランティア室にて掲示されている情報を確認し、参加していただけたらと思います。ボランティア室をより活用し、楽しい場づくりをしていただけたら幸いです。

☆冬の足音も沖縄にも聞こえてきました。年の瀬に向かい懐かしくなって参りますが、体調を崩され、お風邪をお召しにならないよう、ご愛用ください。

本年も様々な面において館へのご協力ご尽力ありがとうございました。
今後とも、沖縄県立博物館・美術館をよろしくお願ひいたします。

～ 文化の社 ～

ブータン国王夫妻の来日がテレビなどで大きくはないか、とふと思いましたが、博物館は、とかく取り上げられ、お二人の言葉や仲の良さなどに心が知れただけではありません。ボランティアの皆さんと答える「世界一幸せな国」として紹介されます。「幸せ」とは何なのか、自分にとっての幸せ、他人の幸せについて、ふと考えてみました。結果、よくわからなかったのですが、先日、久しぶりに小学生に対する市民体験をボランティアの方々と一緒に、「自分の土地に誇りをもてる」ことが、優しい人間を作り、それが「幸せ」を作ることで



- ◆◆◆ 12月の勉強会 ◆◆◆
- ※ 民俗勉強会・・・12/17（土） 島ドーフ工場見学・内閣御視見学習
*詳細はボランティア室の掲示版をご確認下さい。
- ※ 歴史勉強会・・・12/10（土）10：00～12：00 3階研修室
*ガイドマニキュアルの研究について・岸本 弘人学委員のミニ講座

- ※ 美工勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示版をご確認下さい）
- ※ 自然勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示版をご確認下さい）

◆ 資料の準備ありますので、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

11月の勉強会

- ※ 民俗勉強会・・・11/5（土）10：00～12：00 ボランティア室及び民俗展示室
1. 民俗展示ガイドの試みについての中間報告 2. 民俗展示室にて勉強会
- ※ 歴史勉強会・・・11/12（土）10：00～12：00 3階研修室
ガイドマニキュアル研究の発表
- ※ 美工勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示版をご確認下さい）
- ※ 自然勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示版をご確認下さい）

☆資料の準備がありますので、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

～☆～ ボランティアのための体験講座 ～☆～
考古学的手法による陶磁器の分類に挑戦

9月14日（水）、9月21日（水）の2回、片桐千重記学委員による考古学分野の講座が実施されました。

9月14日は石垣島名蔵湾の海底からジョージ・H・カー氏が探検した陶片の入った袋が配られ、各自の基礎で陶片を分類しなさいとの課題が与えられた。この陶片は15世紀前半の貿易船の海難事故に關係するものと考えられている貴重な資料で直に触れられ感激しました。

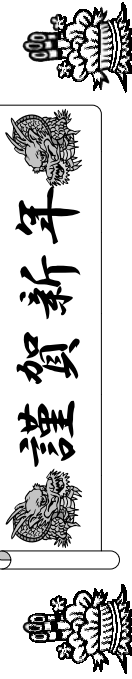
戸惑いながら陶片とジョーツにとらめっこしているうちに、土の質や色、形、厚さ、釉薬の形態等の相違点に分かるようになり、口廻りや肩の形から蓋であるかと推測し先生の指導をうけながらグループ別に分類しました。この壺の形状は？、図解は？、何に使用したのか、なぜ名蔵の海底に眠っていたのかを語ってくれそうのでワクワクしながら楽しく受講しました。

9月21日の講座は、展示室で日頃疑問に思っている点や質問事項等を出し合い学習する講座でした。中でも貝塚時代に出土した装身具の貝輪や貝符はどのような道具を使って貝を切断し、穴をあけ、文様を刻んだりしたのか等の疑問について各自の調査や推測を述べ合いましたが片桐先生のコメントによると「今のところ謎」だそうです。「この時代の人々の物作りの技術は現在より優れていたのかも知れませんがね」片桐先生の言葉が印象的でした。今回のような講座形式は多くの意見が聞けて有意義でした。学校対応の展示解説に参考にしたいと思ひます。

考古学は私にとっても未知な分野でしたがこの講座で「目からウロコ」・・・「謎」が多く興味・関心をもちました。次回の学委員講座も期待してます。

島袋 美智子





新年のごあいさつ

沖繩県立博物館・美術館副館長 千木良 芳範

ポランテイアの皆さん、明けましておめでとうございます。それぞれが新たな想いを胸に、新年を迎えられたことと思います。

さて、ポランテイア活動に関して昨年から頭の中にごびりついている言葉があります。「社会奉仕と社会貢献」という文字です。国語的な意味や内容の違いは傍に置いて、個人的なイメージをまとめてみました。すなわち、「奉仕」は大きな包括的対象を目標にした自己犠牲の上に積み重ねる自己満足、「貢献」はより対象目標を絞り込んで自己の能力範囲で他人に与える満足という感じです。

博物館のポランテイアは、決して職業として行うものではありません。しかし、プロ級の技と知識が要求されます。そして、個人個人の興味、関心、経験を活かして博物館を支える重要な人材であることは疑いのないところです。

新しい年の始まりに、ひとりでも多くの来館者により多くの満足を提供できる、「社会貢献」するポランテイア活動を目標し、博物館も頑張っていきたいと思いをよせています。

新年おめでとうございます

沖繩県立博物館・美術館指定管理者
文化の杜共同企業体代表 平良 知二

今年が皆様にとつといい年になりますよう祈念いたします。そして当館にとつても素晴らしい年になることを願っています。

新年にあたり、文化の杜共同企業体にご協力いただいたことに改めて感謝を申し上げます。この1年も県民に頼まれる牌・美館づくりと一緒に頑張っていきたいと思っております。文化の杜共同企業体一同、決意を新たにしています。

今年3月には入館者200万人を達成する予定です。11月には閉館満5年を迎えます。節目の年であり、力を発揮する年でもあります。よろしくお願ひいたします。

博物館班

旧年中も、ポランテイアの皆様による温かいご支援を賜りまして誠に感謝しております。

本年度は、ポランテイアの新規募集を休止し、外部講師を呼んだセミナーや、学芸員の研究と交流を兼ねた「ポランテイア向け学芸員教室」など、継続登録している方々への研修を充実させました。さらに活動の充実を目標に、各種のグループ委員会を設け、参加型の活動への取り組みを呼びかけました。

その結果、ふれあい体験室のマニュアル完成や、一般来館者向けの新聞切り抜き資料提示の実現化（情報センター設置に向けて準備中）、民俗班の有志によるへき地校、離島の少人数校に対するガイドの試行決定、民具体験学習プログラムの改善、けんばくキットの活用など、様々なことが、グループ委員によって真現化していきましました。

年明けにプログラム実施予定校が2校、2月には9校と、まだまだ小学校団体の来館は続きます。さらに2月には、移動展もあり、昨年までとは違った慌ただしい新しい風が今年度は吹き込んできています。さらに2月に各分野の勉強会や学芸員講座、文化講座や体験教室等も随時ございますので、是非、情報収集やお互いの交流の為に足を運んでいただけたらと思います。

2012年もポランテイアの皆様と共に、沖繩県立博物館・美術館を盛り上げていきたいと思っております。

ポランテイアの皆様とご家族の皆様のご健康とご清栄ご多幸を願って、新年の挨拶と代えさせていただきます。本年も県立博物館・美術館をよろしくお願ひ申し上げます。

文化の杜

新年の目標は「安全管理」です。2月に早速、日本博物館協会主催の研修会に出席してきます。知識や経験も豊富なポランテイアの方々にもアドバイスいただきたきながら、安心して楽しむことができる博物館・美術館づくりをしていきたいと思っております。（中村）

旧年のふれあい体験室は、ポランテイアの皆様との絆をより一層深めることができた年でした。皆様のご協力のもと、てびきの作成ができたこと、ふれあい体験室の勉強会を曜日班で行い、関心を寄せてくださったこと、それを活動に活かしていただけたこと、とても嬉しく思い、また感謝の気持ちでいっぱいです。今年の目標は、この業がりを大切にして、各分野の学芸員にも展示などの協力を仰ぎ、来館者に喜んでもらえる「みんなでうごかす」ふれあい体験室にしたいです。（渡部）

長いようであっという間に過ぎた昨年は、入社立っての私にとつても思い出深い一年となりました。日々緊張していた私ですが、様々な場面でもポランテイアさんに助けられ励まされていきました。特に民具体験や文化講座では、前に出ることが多く手に汗をかいていたところ、多くの方にアドバイスやお褒めの言葉をいただく、まるで心強い家族がいるようで安心して取り組むことができました。昨年の清水寺の漢字は「解」という字でした。まさに、「解」を深めた1年であったと感じています。さて…今年の干支は辰年です。今年の目標は登壇門のように、立派な龍のような出で立ちでドッシリと構えて仕事をこなせるよう努力していきたいと思っております。（大瀬）

1月の勉強会

※ 民俗勉強会・・・1/4（土）10:00～12:00 3階会議室
竹富島の龍について。ピデオ鑑賞（講師 民俗担当学芸員の岸本敬先生）

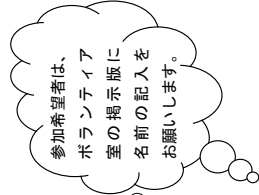
※ 勉強会終了後、新年会 12:00～ 場所：「万葉」
歴史勉強会・・・1/4（土）10:00～11:00 3階研修室

国史館、天壇のDVD観賞・旧首里城正殿について
ガイドマニュアルの詳細（ガイドマニュアルをお持ちの方は持参して下さい）

※ 勉強会終了後、新年会 11:00頃～ 場所：「鮮満」
美工勉強会・・・1/28（土）16:00～ ポランテイア室集合

「琉球と袋中人」の展示解説会

※ 自然勉強会・・・未定（ポランテイア室の掲示版をご確認下さい）



参加希望者は、ポランテイア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

～ 教育普及 ～

☆ 移動展行ってきまーす ☆

2/3(金)～2/5(日)の宮古島での移動展の為、学芸員は早い人では1/30から宮古入りします。目指せ1万人!! 友の会からのキャラバン隊も、今年は何年にも増して参加者多数、ボランティアさんからも自主参加のご協力もあり、教育普及のげんばくキットもお披露目してきます♪ チムドンドン♪

☆ ボランティア継続希望者の方へ「申請書」配布中です

- 1 雅日の世話係の方に「ボランティア申請書」をあずけてあります。
- 2 必要箇所をすべて記入し、3階の学芸員室の池原の所に直接提出にきてください。
（預ける方は受付でまかせん!!）
- 3 受付時に、1年間の活動の状況について、一人一人にお話を伺います。
- 4 受付期間は2月7日(火)より3月9日(金)まで(学芸員の勤務時間内)
※お仕事の都合上等で、平日来館難しい方は、事前に電話等でご相談ください。



2・3月の学校対応了り!! 実施予定

2月 1日	水	9:30～11:30	900	那覇市立 北谷小学校	3年	37名	105名
2月 9日	木	9:30～11:45	900	那覇市立 大名小学校	3年	27名	50名
10日	金	9:30～12:00	900	那覇市立 壺屋小学校	3・4年	27名	64名
14日	火	9:30～11:30	900	那覇市立 松川小学校	4年	37名	94名
15日	水	9:30～12:00	900	那覇市立 城岳小学校	3年	37名	89名
16日	木	9:30～11:30	900	那覇市立 銘苅小学校	3年	47名	153名
21日	火	9:30～11:30	900	那覇市立 上間小学校	3年	37名	108名
22日	水	9:30～11:30	900	那覇市立 松川小学校	3年	37名	71名
23日	木	9:30～11:30	900	浦添市立 浜崎小学校	3年	47名	123名
3月 9日	金	9:30～11:30	900	那覇市立 開南小学校	3年	27名	46名

～ 3月まで、まだまだ来館校目白押しですが、ご協力よろしくお願いたします。～

学力向上支援業務(緊急雇用者)の任期満了を迎えます・・・

昨年の4月、年度あたまたから学校対応やお出かけキットの開発等、様々な場面で皆さんと一緒に活動してきました。幸甚、幸甚、具志堅さんのお二人が、2/5(日)で任期満了となります。(移動展までサポート)その後数日間は二人とも、藤田学芸員の研究のサポート(骨スーツ開発のデータまとめ等)として、博物館に出動していますので(10日頃まで)、見かけたら声を掛けてくださいな。

全体清掃時の「ふれあい体験室清掃」のご協力をお願いします。

2/27(月) 13:20～15:30 (「ふれあい体験室」にて)

春まだかなあ・・・

新都心公園のバラの香りに、なんとなく春を予感させますが、まだまだ朝夕の寒暖の差が激しい日々が続いています。冷えと乾燥にも気をつけて、体調崩しませんようご自愛ください。

～ 文化の社 ～

外瀬、稲岡県太学府にある九州国立博物館(以下、九州)に遊びに行ってきました。特別展「細川家の至宝」では、平利休ゆかりの品々を見学した後、文化交流展示(常設展)へ。九州の展示室の構造は、沖縄県博と似ており、中央の広い部屋のまわり小さな専門展示室が配置されています。時間も限られている中で、どのように見ようかと悩んでいたところ、ボランティアが常駐するカウンター(この時は、50歳の女性が2名)に目がとまりました。私：「30分しかないのですが、案内していただけますか?」女性：「いいんですか?」(どうやら、1人でガイドを依頼することが珍しい様子)。女性：「何か見たいものがあるのかしら?」私：「2年前にも見学したことがあるのですが、お勤めの展示を紹介していただけますか?」女性：「じゃあ、新しく展示換えたいと思います。(中村)

★～★～ 2月の勉強会 ～★～★

※ 歴史勉強会・・・2/11(土・祝日) 10:00～12:00 3階研修室

1. サーターヤードとサーターグルマ(ガイドマニュアルの詳細)
2. その他

※ 民俗勉強会 ～ 民俗の旅・いざ!山原へ ～

日時：2/24(金) 8:30～17:00の予定

参加費用：3,000円

定員：25名(参加者が定員をオーバーした場合は、勉強会及び民俗ガイドを希望する方を優先します。)

1. 「琉球のノロ制度の終焉」(今帰仁村歴史文化センター)
2. 今帰仁城跡(さくらが満開?かも・・・)
3. 名護博物館

* 詳細および申込みはボランティア室の掲示版で確認ください。

※ 美工勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

※ 自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

✦ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いいたします。



～ 教育普及 ～

2月に入り、夏日より暖かい日や涼しい日ランダムに感じたいせいか、体調を崩している方が多いように見受けられます。かくいってしまう私もそのひとりですが・・・。滋養のつくものを摂取し、体を冷やしすぎませぬよう、ご自愛ください。やはり、うがい、手洗い（清濁）大事ですね。

2011年度も、沢山のボランティアの方々に支えられ、教育普及計画を順次実行出来ましたこと、深く御礼申し上げます。学校の先生方や子ども達からも笑顔と感謝の言葉が沢山聞きました。ありがとうございました。2012年度も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

残すところ1校【学校対応プログラム】

今年度の学校対応プログラム実施は、残すところあと1校。

3月9日（金）に開南小学校 来館予定

※体験の方にまだ空欄が残ります。お時間の都合のつく方、関心のある方は、是非ご協力をお願いいたします。

教育方向上支援業務の2人よりメッセージ☆

・ 幸喜 亜優 ・
ボランティアの皆さん、教育普及の皆さん、1年間本当にお世話になりました！ボランティアの皆さんを始め、たくさんの方に出会える教育普及で働けて本当に楽しかったです。ボランティアの皆さんからいつも元気をもらい、また、多くのことを勉強させてもらいました。どこかで会ったら気軽に声をかけてください。ありがとうございました。

・ 員志堅 樹 ・

博物館がボランティアの皆さんの熱心な活動によって支えられているのだなと、初めて知りました。今後は一来館者として、博物館・美術館に足を運び、またお会いできることを楽しみにしています。教育普及スタッフのみなさん、ボランティアスタッフのみなさん1年間お世話になりました。



教育普及の方で活動していた員志堅さん、幸喜さんのお二人は、現在は遠く分野のお手伝いで再雇用されており、「フィルムは保管庫で現在資料の整理をしています。館内で聞けたら、お声をかけてください。4月以降も来館者としてお待ちしておりますので・・・」とのことでした。

継続手続き【ボランティア継続申請書】について

申請書の提出締切 **3/9（金）**です！ 提出まだの方は、お早めにm(_ _)m

※4月からまた改めてボランティア保険へ加入する為に継続者の名簿を作成します。期限を設けてありますので、期限内での提出をお願いいたします。3階の学芸員研究室にてお待ちしております。

今年度も締め切りの時期となりました...

各曜日班や勉強会、グループ会議などでも、次年度計画の話やお世話係さんの話が出てくる時期となりました。定例会には皆で参加して、エンタクや勉強会で交流を深めつつ、今後もボランティア活動がますます楽しくなるように願っています。

～ 文化の社 ～

今まで、ふれあいスタッフとしてお仕事をしていた平良さんの後任として、新しいメンバーが2名加わりました。平良尚人（たいらなおと）さんは、現スタッフの、新川さん・安藤さんの、大学の後輩で、琉球言語学を専攻している1年生です。

「皆様へ 長い間、ふれあい体験室でお世話になりました。ふれあいメンバー、ボランティアスタッフの皆様には私が至らないことが多く、いつも御助けていただきありがとうございます。展示交流員へ移りますが、今後ともよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。 平良さやか」（渡部）

❖～❖～ 3月の勉強会 ～❖～❖

※ 民俗勉強会・・・3/3（土）10：00～12：00 ボランティア室

1. 平成24年度の民俗勉強会の取り組みについて

2. 平成24年度民俗班の世役選任について

* 民俗班全員の参加をお願いします。

* 民俗班の勉強に興味のある方、参加歓迎します。

※ 歴史勉強会・・・3/10（土）10：00～

3階研修室

1. 琉球の身分制度と位階制度の勉強

（ガイドマニュアルを持参して下さい。）

2. 次期世話役の選出 他

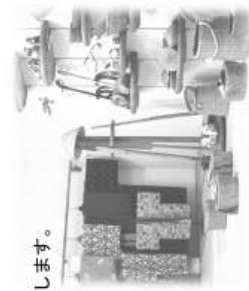
※ 美工勉強会・・・3/17（土）10：00～12：00 ボランティア室

県主催企画展『紅型BINGATA琉球王朝のいろとかたち』（4/24～5/27）

の予習として「紅型」の講座 ※ 講師：呉那嶺 一子先生

※ 自然勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示版をご確認ください）

❖ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に各前の記入をお願いします。



XI その他

1 移動展

名称：第4回 沖縄県立博物館・美術館 移動展
会期：平成24年2月3日(金)～5日(日)
開催時間：午前9時～午後5時(金曜日は10時から)
開催地：沖縄県宮古島市(宮古島市中央公民館、宮古島市総合博物館)
主催：沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体、宮古島市、
宮古島市教育委員会
協賛：琉球海運株式会社
協力：宮古新報、宮古毎日新聞、宮古テレビ

※開会式は、3日(金)に宮古島市中央公民館にて花園幼稚園の皆さんの演舞あり。

※移動展開催期間中、宮古島総合博物館も常設展を無料開放とした。

(午前9時-午後4時半)



(1) 趣旨

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の博物館資料や美術品を移動展の展示として見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。

[展示会・・・(博物館・美術館部門) 講演会・・・(博物館班学芸員による)]

会場：宮古島市中央公民館ホール(博物館班・美術館班同時展示開催)

宮古島市総合博物館(講演会、宮古島関連資料等展示)

対象：一般

観覧料、聴講料：無料

(2) 展示内容

<中央公民館>

- ①世界の化石と輝く石」恐竜の骨格標本、岩石
- ②沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
- ③「人類の誕生と進化の歩み」、「琉球王国の繁栄」のDVD放映 *博物館制作DVD
- ④骨スーツ着衣体験(博物館)
- ⑤「天球儀」による星空観測(博物館)
- ⑥ちむドンドン(紙芝居と琉球楽器)体験(博物館)
- ⑦ギャラリートーク(美術館)

※宮古島出身の画家の作品や宮古島に訪れた多くの写真家が撮影した写真、立体作品などを展示

⑧「博物館博士になっちゃおう！」

☆博物館の資料をより理解し楽しんでもらうため、ワークシートを用意。学芸員から、ここでしか聞けない話も。

日時：期間中いつでも 対象：どなたでも

地学：80枚、生物：80枚、人類：50枚、歴史：30枚、民俗：30枚、美術工芸：30枚

※メイン会場の宮古島市中央公民館では、当館支援団体：博物館友の会からのキャラバン隊(16名)と当館の博物館ボランティア1名、計17名の支援スタッフの協力を得られた(会場整備、資料の監視員、ガイド、受付スタッフ等)

<宮古島市博物館>

— 講演会(博物館)—

3日(金) 15:00～16:30 「三線とは何か？」園原謙(美工)

4日(土) 15:00～16:30 「宮古の自然は、沖縄の宝です！」田中聡(生物)

5日(日) 15:00～16:30 「沖縄の玉製品調査の概要報告」早瀬千明(歴史)

— 展示 —

地学：動物化石 / 自然：動物剥製 / 人類：ピンザアブ人骨複製 / 考古：中国産陶磁器、宮古式土器等
歴史：拓本、書籍 / 民俗：玩具

(3) 移動展開催準備・当日の様子



資料開梱・展示作業光景



テープカット（開会式にて）



観覧の様子(花園幼稚園の子ども達)



ワークシートに取り組む学生たち



ぬり絵を楽しむ子どもたち



会場の様子



紙芝居を聞きながら（ちむどんどん♪）



馬のポーズにチャレンジ！（骨スーツ）



「天球儀」に何が見えるかな？



講演会（美工：園原学芸員）



講演会（生物：田中学芸員）



講演会（歴史：早瀬学芸員）



メイン会場（宮古島市中央公民館）



受付・案内・資料配布・恐竜図録販売



DVDコーナー（歴史、考古関連）

100点の資料を展示

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

きょうから移動展

市中央公民館主会場で

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

沖縄県立博物館・美術館 展示紹介

第4回移動展 i n 宮古島

— 美術館② —

今回の美術館移動展テーマは、「デジタルキャパ(既視感)」と、どこかみたことのある風景、色、形が参観者のこれまでの体験に重なることを意図している。

写真家は岡本太郎と東松照明を展示し、どちらも宮古島を題材とした作品である。岡本の作品は、情緒的アンダルで被写体を捉え、感性的に写真として現している。これに対し東松の写真は精神的内面性を写すことを目的としている。シャッターを切る都度、被写体と作品が同化するよう撮影しているのだ。同じ写真でありながら、両者の感性を感じさせる作品となり観るものの心を掴むことであろう。

(美術館班 大城 直也)

会期:2012年2月3日(金)～5日(日)
 (メイン会場)宮古島市中央公民館:午前9時～午後5時(3日のみ10時～)
 最終入場:午後4時半
 (サブ会場)宮古島市総合博物館:午前9時～午後4時半/最終入場:午後4時

沖縄県立博物館 美術館移動展 宮古島

「ヤンバルクイナの初産卵」

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

国立博物館 美術館移動展 in 宮古島

【総題】から読み解く

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

沖縄県立博物館 美術館移動展 宮古島

【展示】

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

文化 歴史 美術

展示資料展示

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

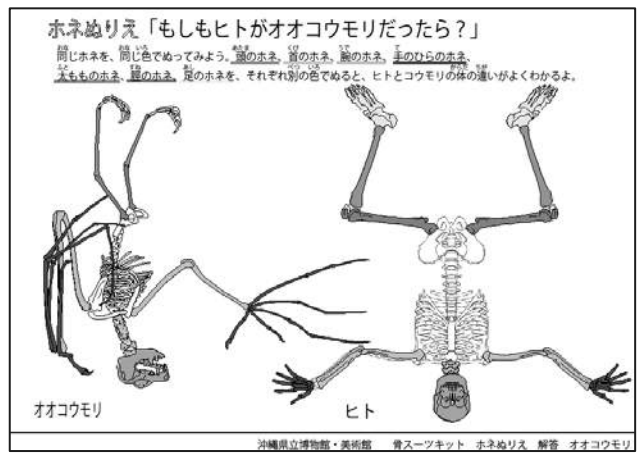
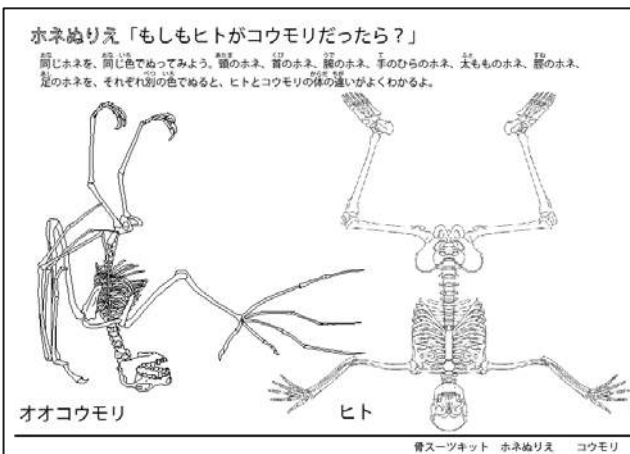
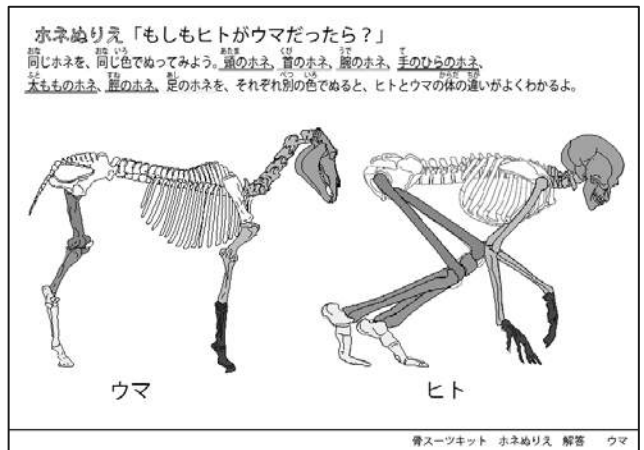
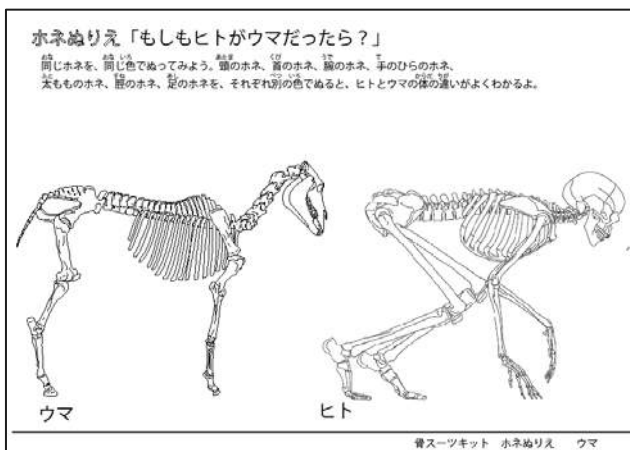
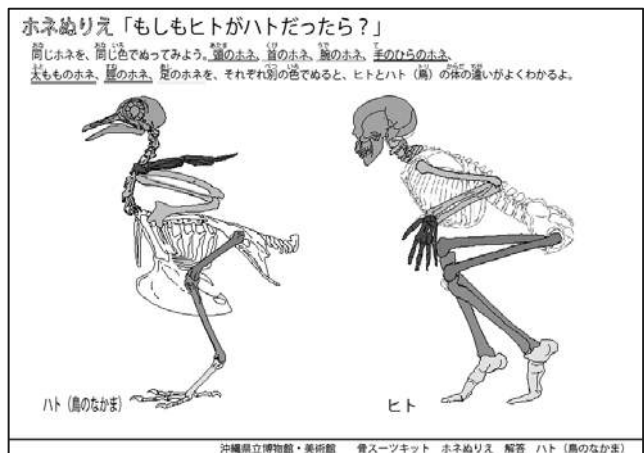
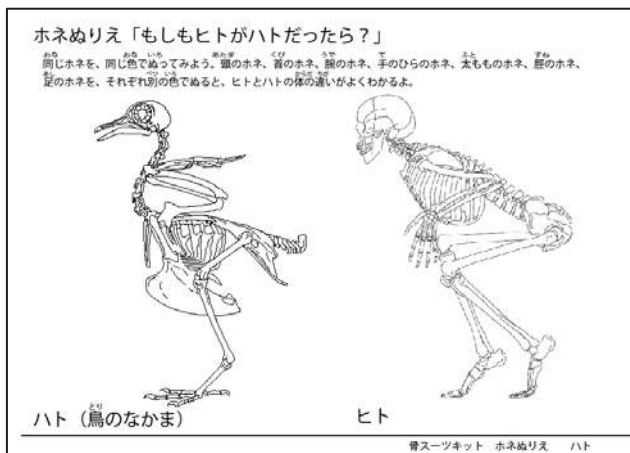
「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。

移動展Ⅰ 宮古島始まる

国立博物館 高松館

恐竜標本、美術作品など一堂に

「恐竜標本、美術作品など一堂に」は、恐竜の化石や骨格標本、そして自然史の資料を一堂に展示する。また、美術作品も合わせて展示されている。



(4) 来場者数

■宮古島市中央公民館会場入館者総数：4,952名

3日(金) / 1,045名 (70歳以上0名、一般249名、高大548名、小中141名、未就学児107名)

4日(土) / 1,574名 (70歳以上24名、一般788名、高大28名、小中555名、未就学児337名)

5日(日) / 2,333名 (70歳以上83名、一般1,141名、高大30名、小中648名、未就学児431名)

■宮古島市総合博物館会場入館者数：1,121名

3日(金) / 206名

4日(土) / 480名

5日(日) / 435名

宮古島市や地元新聞社の協力もあり、学芸員による新聞記事の掲載や広報誌にチラシを同封していただいたりと、幅広い広報活動ができた。宮古島総合博物館ならびに中央公民館での入館者数も6000人を超え、老若男女問わず多くの来場者で賑わっていた。

今後も地域との連携を強固にし、運営していきたい。

(大濱 萌子)

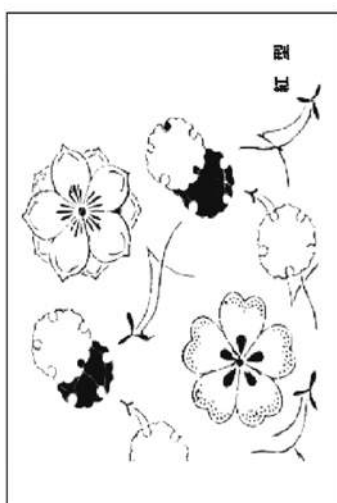
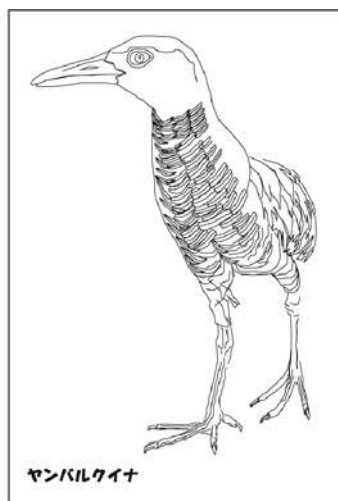
2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の作成を小・中学校へ依頼している。

「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印（サンプル：博物館・美術館作成）。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっている。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

昨年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は0名。（中村 愛）



【裏面】

小学生用

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょうど 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!!

中学生用

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょうど 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!!

3 職場体験

博物館では、平成 15 年度から、学校の計画する就業体験学習を受け入れている。(平成 18・19 年度は新館移転準備のため、休止)。昨年度から、文化の杜が問い合わせと対応の窓口となり、指定管理者が担う総合案内や展示交流員など、主に来館者サービスに従事する業務を体験した。

今年度は計 10 校からの受け入れ依頼があったが、その内の 2 校は消毒休館日にあたったため、日程の調整がつかず、辞退の申し出を受けた。修学旅行と職場体験を同時に実施する旅行社があり、山口県の高校も受け入れた。しかし、午前中のみ受け入れのため、職場体験本来の目的を達することができたかどうか課題は残る。(島袋・中村)

体験内容：総合案内・展示交流員・もぎり・情報センター・ふれあい体験室・ミュージアムショップ・清掃班・警備班

受け入れ校：8 校 29 名 (小学校 2 校、中学校 3 校、高等学校 3 校)

- ①山口県立宇部商業高等学校 2 年次 (3 名) 6 月 22 日 (1 日)
- ②沖縄県立浦添工業高等学校 2 年次 (5 名) 7 月 7 日～8 日 (2 日間)
- ③浦添市立仲西中学校 2 年次 (5 名) 7 月 7 日～8 日 (2 日間)
- ④専修学校インターナショナルデザインアカデミー高等課程 2 年次 (3 名)
7 月 26 日～28 日 (3 日間)
- ⑤那覇市立鏡原中学校 2 年次 (5 名) 9 月 6 日～8 日 (3 日間)
- ⑥名護市立大宮中学校 2 年次 (1 名) 10 月 26 日～28 日 (3 日間)
- ⑦浦添市立神森小学校 6 学年 (1 名) 11 月 15 日 (当日午前のみ)
- ⑧なはグッジョブ連携協議会実施「ジョブシャドウイング (若狭小学校 6 学年)」(6 名)
12 月 6 日 (当日午前のみ) ※1

※1 沖縄県キャリアセンタージョブシャドウイング事業の受け入れを行った。「ジョブシャドウイング」は米国で定着している職業教育の一つであり、中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する、というものである。今回は、6 名の児童が、それぞれ博物館、美術館、文化の杜の職員に割り振られ、来館者対応や会議の場に同席した。

4 教育普及資料貸出

博物館の教育普及資料を貸出しています。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等です。教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援します（資料活用の際の出前講座は特に行っていません）。事前（一ヶ月前）に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間となります。無料で貸出しておりますので、積極的に活用してください。資料の詳細については、お問い合わせください。

民具に関しては、今年度も昨年度に引き続き、主に民具体験プログラムを申込した学校団体に対して、当館にてボランティアのサポートによるプログラム実施の中で使用。

名護の桜野特別支援学校や鏡が丘特別支援学校浦添分校へは、昨年度「けんぱくキット」の開発にご協力いただきましたこともあり、お披露目を兼ねて出前教室を実施いたしました。こちらは当館内外、様々な場面での活用が可能な資料です。（詳細は巻末XI その他-6 ～教育力向上支援業務にて）

「けんぱくキット」を含め、普及資料の貸出には、「資料利用申請書（教育普及資料の借用）」を提出していただいた後、「資料利用許可書（教育普及資料等の貸出）」を発行するまでの手続き等がありますので、貸出希望日から一ヶ月前には申請していただくようご協力よろしくお願いたします。（資料借用、返却の際の資料の運搬は、借主の責任となります。）

【今年度の外部への貸出】

団体名 : デイサービス ViVi まわし

行事名 : 昔懐かし豆腐作り

(回想法: 眠っていた記憶を呼び覚ます)

貸出期間: 平成 23 年 10 月 4 日 (火) ~ 10 月 7 日 (金)

実施日 :

貸出資料: 石臼、アジマー、トーフウーキ、豆腐箱、シンメーナービ、カマンタ、その他 以上を 2 セット

団体名 : 鏡が丘特別支援学校 浦添分校

行事名 : 豆腐を作ろう … スイッチ教材を使って …

貸出期間: 平成 24 年 2 月 16 日 (木) ~ 2 月 24 日 (金)

貸出資料: 石臼、アジマー、トーフウーキ、豆腐箱、シンメーナービ、カマンタ、その他 以上を 1 セット



(當眞 妃奈子)

5 ボランティアによる展示ガイドマニュアル作成

昨年度、民俗勉強会の中でガイドマニュアルを作成し、新聞にも取り上げられましたが、今年度は、歴史勉強会がガイドマニュアルを作成しました。

出来上がったマニュアルを活用すべく、一般入館者に向けてのガイドの方向性を模索中です。



昨年度ガイドマニュアルを作成した民俗勉強会の有志によって、僻地・小規模校へのガイドも平成24年1月に広報、その後2校対応ということで試行されました。

小学校と、高等学校向けに民俗部門展示室を中心にガイドを行い、その他の展示室も補足的にガイドを行いました。

違った年齢層に対応し、有効的であった部分と、そうでないポイントを見出すことが出来たということで、新年度に向けて新たな方向性を検討中です。



(写真 妃奈子)

6 博物館教育力向上支援業務

昨年度に引き続き、国の緊急雇用創出事業特例交付金を財源とした緊急雇用者2名を採用することができた。雇用者に対し、前年度からの業務の継続と発展充実を委託した。

1) 採用者〔具志堅 梢、幸喜亜優〕、業務期間〔平成23年4月23日～平成24年1月27日〕

2) 委託業務内容

分野	人数	業務内容	時期
業務A	1名	学校出前講座実施に向けた、持出し用体験キットの整備と運用の補助 (体験キットの整備、体験キットパンフの作成等)	5月～8月
		モデル校選定の補助(収集資料の報告等)	9月～10月
		出前講座プログラム作成の補助(資料作成等)	10月～12月
共通	*	出前講座の補助(備品の運搬、等)	1月～2月
		出前講座アンケートの収集、集計資料の作成	3月
		民具体験プログラムの補助 (備品の準備、タイムキーパー等)	9月～12月
		民具体験プログラムのアンケートの実施、収集、集計資料の作成	9月～12月
業務B	1名	教育普及備品の整理(データ整理)	9月～10月
		教育普及関連資料作成の補助(パンフレット作成など)	10月～3月
		本契約に関する業務全般の補助	9月～3月

3) 業務活動の成果

①民具体験学習の補助

昨年度より実施した学習プログラム変更にともない、引き続き学校団体の対応を行うボランティアへの、指導支援者にあてた。ボランティアは、学校受入の回数を重ねるたびに自信をもった活動がおこなえるようになっていった。



学校団体受入直前のボランティアミーティングで支援にあたる雇用者

②持出し用体験キット（けんぱくキット）実施の補助

- ・他館の貸出しキット資料の情報収集などから始まり、既存の貸出し資料を含めたパンフレット「けんぱくキット」を完成させた。



- ・「ちむドンドン」「骨スーツ」「んかしむん」の貸出し用キットを完成させ、その有効性を確認するために、学校での検証授業と移動展（宮古島）での一般客への実演を行った。



紙芝居と琉球楽器を組み合わせたキット



「骨スーツ」の試着を手伝う雇用者

「ちむドンドン」

③教育普及備品の整理（データ整理）

- ・首里の博物館からの移転の際不十分だった教育普及の、学芸資料整理とデジタルデータ化ができた。

④教育普及関連資料作成の補助

- ・博物館の展示資料と教科書の関連を考えた「博物館が教室になる！」を完成させた。
- ・ふれあい体験室における「外国人対応シート：英・中・韓・西語版」を完成させた。



(池原 盛浩)

7 企画展関連事業

特別展「宇宙—遙かなるロマンを求めて」をより楽しみながら理解してもらおう手助けとして、小学校低学年でも解くことのできるワークシートを作成した。(配布枚数：3,300枚、全入館者の1/3が参加)従来のワークシートのように学習的要素の強いものではなく、展示の見どころを印象づけたり、親子の会話を想定した内容とした。展示室には、ワークシートに登場するキャラクターのシールをはり、子どもたちの誘導もはかった。また、図録の販売がなかったため、資料に関する解説も随所に取り入れた。参加者には、天球儀のペーパークラフト(JAXA協力)をプレゼントし、大いに喜ばれた。

企画展「工芸王国—受け継がれる琉球のわざと美/日本の伝統美と技の世界」として、ワークショップを全6回84名(定員15名)、映画上映会1回、実演1回実施した。事前申し込み制のワークショップに関しては、定員以上の応募者が集まり、「技を体感する」という企画展の趣旨を多くの県民に伝えることができた。また、会場はフリースペースである正面玄関や屋外展示に設け、限られた参加者だけではなく、多くの来館者がその技を目にする機会を提供した。(中村 愛)

発信 今秋の県立博物館・美術館
着信 伝統工芸の美・技を紹介

この秋、県立博物館・美術館は工芸のカーニバルといえる展覧会を二つ同時に開催します。展示では、沖縄に限らず日本各地に伝わる手技による作品を通じて「受け継がれる 伝統・美・わざ」を紹介し、期間中には講演会や解説会、さらに「紙すき(10月8・9日)・型彫り(10月22・23日)・糸づくり(10月16・23日)」などワークショップを予定しています。

ワークショップでは各分野で活躍する作家を講師に招き、一つの作品を仕上げるまでに必要な時間や手間を実感してもらえよう、その一部を体験することが出来ます。事前申し込みもありますので、詳細は当館HP、チラシ等でご確認ください。お問い合わせは、電話098(941)8200、中村・大浜まで。(大浜萌子、文化の杜共同企業体)

新聞掲載
沖縄タイムス
2011年9月16日(金)



■企画展「工芸王国—受け継がれる琉球のわざと美/日本の伝統美と技の世界」

1	タイトル	日時			定員	参加者	講師
		日	曜日	時間			
1	紙漉き	10月8日	土	10:00~12:00	12	15	久保田彰 (石州半紙技術者会)
2		10月9日	日	14:00~16:00	12	15	
3	糸づくり~芭蕉~	10月16日	日	10:00~12:00	15	15	平良美恵子 (喜如嘉の芭蕉布保存会)
4	型彫り	10月22日	土	14:00~16:00	15	15	六谷 泰英・兼子吉生 (伊勢型紙技術保存会)
5		10月23日	日	12:00~14:00	15	15	
6	糸づくり~芭蕉・紬・上布~	10月23日	日	14:30~16:30	15	15	平良美恵子(喜如嘉の芭蕉布保存会)、 桃原 禎子(久米島紬保持団体)、神里佐知子(宮古苧麻績み保存会)

1 映画上映会「技と美を観る」10月16日(日)10:00~18:00

2 伊勢型紙技術実演会10月22日(土)・23日(日)

■企画展「京都・檀王法林寺開創400年記念 琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—」

1 うるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」実演・ワークショップ 2月5日(日)14:00~15:00 150名

8 常設展に関する取り組み

博物館常設展の見学の手助けとして、学芸員の協力のもと見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を作成した。常設展入口のラックに配置し、16,000枚を配布した。また、10月に開催した「第5回世界のウチナーンチュ大会」に合わせ、英語版「ここだけは見逃すな！」も作成し、1,200枚を配布した。

夏休み期間中には、小中学生を対象にワークシートを常設展入口に設置した。「ウチナー探検 博物館ワークシート」をもとに、学芸員のコメントやヒントなどを追加し、一人でも取り組みやすいよう工夫を加えた。夏休みの宿題として、親子で取り組む姿が見られた。

正月には「龍展」を開催した。8人の学芸員が、博物館常設展内において、新年の干支にちなみ「龍」に関係した資料を紹介。解説文（400～600文字程度）を展示した。新年の干支である「龍」を取り上げるにより、違った視点で展示を楽しんでもらうことを目的とした。期間中、案内マップ1,000枚を配布した。

解説内容：竜佩形装飾／片桐千亜紀、聞得大君御殿雲龍黄金簪／早瀬千明、首里城正殿の龍柱／岸本弘人、ヤンバルクイナ・シロハラクイナの骨格標本の「竜骨突起」／田中聡、恐竜／仲里健、「龍と招福」展／園原謙、金茶地龍瑞雲模様繻珍衣裳／與那嶺一子、ティンゲー（天蓋てんがい）／岸本敬
（中村 愛）

- ①博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」 配布枚数：16,000枚
- ②博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！（英語版）」 配布枚数：1,200枚
- ③夏休み企画「博物館を調査せよ」【8月2日（火）～9月11日（日）】 配布枚数 5,500枚（全7種）
- ④正月企画「龍展」【1月1日（日）～29日（日）】 配布枚数：1,000枚

県博の年始「龍と招福」展

元日から開催する県立博物館・美術館は、新年の干支にちなみ龍の文様を施した美術工芸品を展示する。龍のほかにも、琉球を代表する画家・豊元良の水墨画など、めでたさを表した点を博物館常設展で並べる。同館の園原謙学芸員は「龍を聖なる動物と捉えた中国の影響を受けた沖縄には、龍を描いた文化財が多い。光の輝く1年になるよう願いを託したい」と「龍と招福」展を企画した。

琉球王国時代から現代までの作品が並び、展示品の一つ「円覚寺仏殿欄間龍浮彫」は、沖縄戦で焼け落ち

辰よい一年に



「龍と招福」展より「円覚寺仏殿欄間龍浮彫」 県立博物館・美術館

「龍と招福」展より「円覚寺仏殿欄間龍浮彫」 県立博物館・美術館

な円覚寺の一部で、焼失を免れたもの。寺が創建された1470年代の制作とされる。イヌマキチャギ材に、頭の龍が彫られている。また県指定文化財の「風姿瑞雲双龍繻細柄（着付）」は、18～19世紀に貝掛奉行所で制作されたとみられ、今も色あせず七色に輝く龍の文様が見られる。

1日は午後2時から、同館エントランスで琉球舞踊の上賀 3日は歩く「辰のおもち」を作る工作教室もある。

問い合わせは同館、電話098(94)8200。

新聞掲載
 沖縄タイムス
 2012年1月1日（日）

博物館展示物 これだけは見逃すな!

～見学時間が短くても(長くても)、これだけは見ておこう!～

沖縄県立博物館・美術館 (098) 941-8200 (代表) 発行 2018.8.3

写真撮影OKな展示室は、
①ニライカナイの聖域から
②自然史部門展示室
③琉球民俗展示室

写真撮影OKな展示室は、
④ニライカナイの聖域から
⑤自然史部門展示室
⑥琉球民俗展示室

博物館展示物 これだけは見逃すな! 簡単解説

総合展示室

総合展示室は、10のテーマから構成されています。テーマ番号順に見学すると、古い時代から新しい時代へと展示を見る事ができます。

1. 琉球の歴史と文化
2. 琉球の美術
3. 琉球の産業
4. 琉球の生活
5. 琉球の自然
6. 琉球の食文化
7. 琉球の言語
8. 琉球の民俗
9. 琉球の伝説
10. 琉球の伝説

総合展示室

1458年に造られた鐘楼で、「万国津梁の鐘」とも呼ばれています。鐘文には、琉球が海外諸国と通商を遂げるために船をよびよせて貿易を営み、国には海外諸国の産物が充実していることが記されています。

鐘文の由来は、鐘楼が建てられた1458年(明正徳元年)に、琉球が海外諸国と通商を遂げるために船をよびよせて貿易を営み、国には海外諸国の産物が充実していることが記されています。

琉球の歴史と文化

琉球王国の歴史を、琉球の歴史と文化の観点から紹介します。

琉球の美術

琉球の美術の歴史を、琉球の美術の観点から紹介します。

琉球の産業

琉球の産業の歴史を、琉球の産業の観点から紹介します。

琉球の生活

琉球の生活の歴史を、琉球の生活の観点から紹介します。

琉球の自然

琉球の自然の歴史を、琉球の自然の観点から紹介します。

琉球の食文化

琉球の食文化の歴史を、琉球の食文化の観点から紹介します。

琉球の言語

琉球の言語の歴史を、琉球の言語の観点から紹介します。

琉球の民俗

琉球の民俗の歴史を、琉球の民俗の観点から紹介します。

琉球の伝説

琉球の伝説の歴史を、琉球の伝説の観点から紹介します。

Overview of Museum Exhibition A Must See!

(Even if your time is limited, don't miss the following exhibits!)

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum (098) 941-8200 2011.10.1

Photographs WITHOUT FLASH are allowed in the following exhibits:
1. New Kamei-Hoppono and Plover from "Ono Island"
2. Nara Kamei-Hoppono and Plover from "Ono Island"
3. Nara Kamei-Hoppono and Plover from "Ono Island"

Overview of Museum Exhibition A must see!

General Exhibition

General Exhibition is displayed under ten themes. In the order of the number, you will see the exhibition chronologically.

1. A People Believed by the Sea
2. Social Transition from Shell
3. World War to Ancient Ryukyu
4. Property of the Kingdom
5. Ryukyu Control over the Ryukyu and the Kingdom
6. Decline of the Kingdom
7. Modern Day of Okinawa
8. Okinawa after the War
9. Okinawa from the Present to the Future

General Exhibition

1458年(明正徳元年)に、琉球が海外諸国と通商を遂げるために船をよびよせて貿易を営み、国には海外諸国の産物が充実していることが記されています。

Folklore Gallery

Traditional customs and pre-W.W.II folklores from various areas of Okinawa are exhibited in this gallery.

Arts and Crafts Gallery

Okinawan beauty, which has been nurtured by the Ryukyu Kingdom, is displayed through the Okinawa pottery, dyed and woven textiles, and longspoons.

Archaeological Gallery

Excavated materials of Okinawa such as longspoons from Jomon period and other excavations related to W.W.II are on display.

History Gallery

Descriptions of the Ryukyu Kingdom Era in following sequence and maps will aid you in learning what it was like at that time.

Natural History Gallery

Okinawa fauna, flightless birds, etc. are on display in the northern part of Okinawa Island. They were discovered in 1861. The rail's body and feet are red with black and white stripes from the neck down to the abdomen.

Touch and Experience Room

We have 27 hands-on kits. You can also see traditional Okinawan garments.

平成23年度
博物館教育普及活動
2012(平成24)年3月

発行	沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 Tel (098) 941-8200 (代表) Fax (098) 941-2392
編集	沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体
印刷	企画印刷 ハーツ 〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川3-13-8 Tel (098) 835-3752 Fax (098) 835-3754